



公立大学法人 和歌山県立医科大学

教育研究開発センター 事業実績報告書

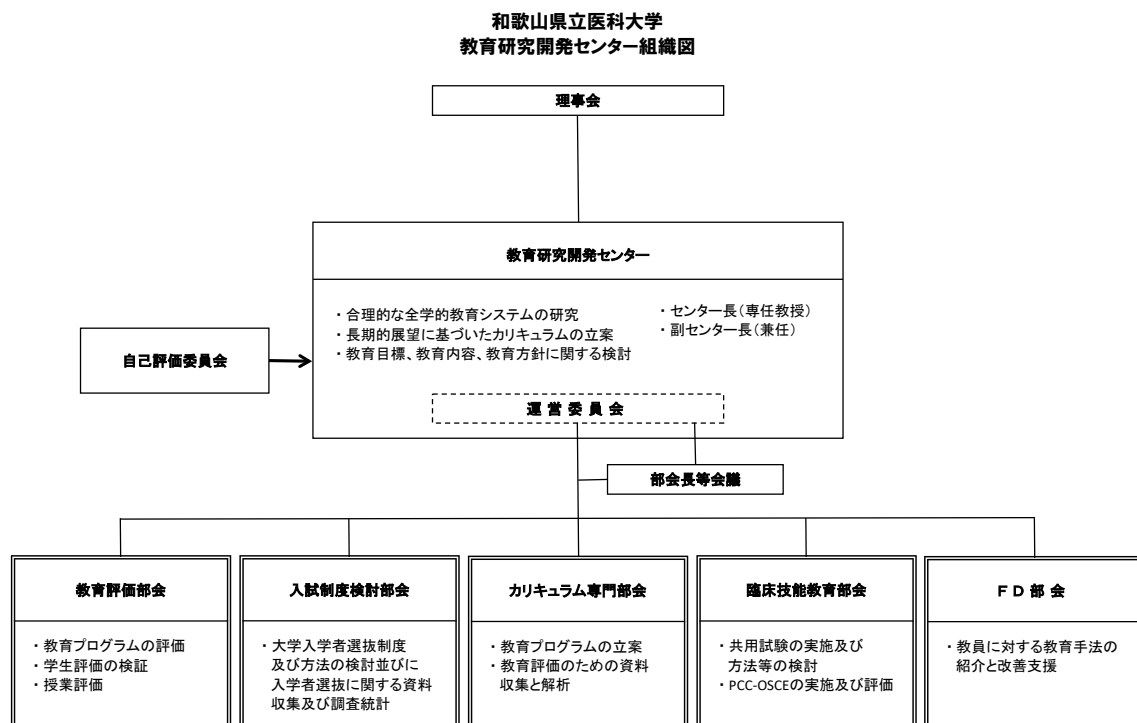
平成30年度



目 次

組織図	2
刊行にあたって	3
1. 教育研究開発センター	
規程・要項	
(1) センター規程	4
(2) 運営委員会委員	7
(3) 部会委員	7
2. 平成 30 年度事業実績	
1. 医学部	
開催した部会一覧	12
開催した F D 一覧	15
ベストティーチャー賞・ベストクリニカルティーチング賞	18
和歌山 S P の会	19
学生実習について	21
学術大会等での発表	29
学生自主カリキュラムの取組	41
2. 保健看護学部	
開催した委員会一覧	66
開催した F D 一覧	68
発行した冊子等一覧	70
学生自主カリキュラムの取組	71
3. 臨床技能研修センター	
(1) 運営規程	92
(2) 利用方法	97
(3) 備品一覧	99
(4) 利用実績	103
(5) 和医大臨床技能サークルの活動内容紹介	121
4. ホームページの案内	
◆ 教育研究開発センターホームページ	122
◆ 臨床技能研修センターホームページ	123

和歌山県立医科大学 教育研究開発センター組織図



平成 30 年度実績報告書の刊行にあたって

教育研究開発センター長 村田顕也

医学部では、平成 29 年 2 月から医学教育分野別評価部会を 4 回開催し、5 月に日本医学教育評価機構への「改善報告書」を提出しました。この提出を受け、本学は医学教育分野別評価基準に適合していると平成 29 年 4 月 1 日付けで認定を受けました。その内容は、平成 30 年度のカリキュラムにも反映されています。

分野別評価では、今回の認定（2023 年 3 月 31 日）までに①学生への能動的授業の推進 ②多職種連携臨床実習の充実 ③教養・基礎・臨床の教育融合の促進 ④臨床実習での電子カルテやポートフォリオの利用などによる教育評価の実践 ⑤IR 部門の設置などの改善が求められています。①については、能動的授業の一環として H30 年度から、3 年次の基礎配属を通年化で実施し、教育研究開発センターは、そのカリキュラムの調整と発表会の準備と運営を行っています。また、学外での地域福祉施設体験実習や地域実習の報告会を開催し、経験の共有化をはかりました。②については、保健看護学部・薬学部との教育の更なる連携 ③については、講義の垂直統合、水平統合の議論を進め、改善を目指しています。④については、臨床実習のパフォーマンス評価としての mini-CEX の集計結果を定期的に開催される臨床 director 会議で公開し、各学生の臨床実習に関する情報を共有し、その後の学生教育に利用しています。

平成 30 年度からは、臨床実習の選択期間を 18 週に延長し、総実習時間を 62 週まで延長しました。選択実習は、5 年次の臨床実習では経験できない症例を経験してもらうことが可能です。臨床実習後 OSCE（Post CC-OSCE）は、本学は独自にこれまでも施行していましたが、本年度も、機構のトライアルに参加し、機構課題 1，独自課題 2 の計 3 ステーションで行い、2020 年の本格実施に対応するための準備を行っています。卒業試験については、これまでの臨床各科の総合試験に加えて、近畿の公立私立の医学部・医科大学が共同で作成した共通試験を導入し、学内試験や国家試験との関連性を検討します。

臨床技能研修センターは、利用者合計が、6,072 人と昨年同様の利用率でした。また、看護師の特定行為研修も本格的に開始され、シミュレーターを用いた臨床技能教育のためのプログラムについて、開発や実習・研修制度の確立をめざします。

本学は、2021 年度に薬学部が開設されますが、三学部を有する医療系大学としての教育の改革が進むように事業を展開していきたいと思っております。今後とも皆様のご協力を賜りますよう御願い申し上げます。

和歌山県立医科大学教育研究開発センター規程

制 定 平成 18 年 4 月 1 日 和医大規程第 1 4 号

最終改正 平成 22 年 2 月 23 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、和歌山県立医科大学組織運営規則（平成 1 8 年 4 月 1 日和医大規則第 4 号。）第 1 9 条の規定に基づき、和歌山県立医科大学教育研究開発センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、和歌山県立医科大学（以下「本学」という。）における医学・保健看護学教育の研究、開発、企画及び評価方法の研究並びに入試制度の研究を行うことにより、本学の医学・保健看護学教育活動の円滑な推進と不断の改善に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

第 3 条 センターは、和歌山県立医科大学学則（平成 1 8 年和歌山県立医科大学規則第 1 号。）第 2 条の定めるところにより、センターに係る点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行い、その結果を公表する。

2 前項の自己評価については、本学の職員以外を含めた者による検証を受けるよう努めるものとする。

3 第 1 項の自己評価を行うため、和歌山県立医科大学教育研究開発センター自己評価委員会（以下「自己評価委員会」という。）を置く。

4 自己評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(教育研究等の状況の公表)

第 4 条 センターは、センターの教育研究及び組織運営の状況について、定期的に公表する。

(業務)

第 5 条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 医学・保健看護学教育システム全般に関わる研究、開発及び企画
- 二 医学・保健看護学教育の内容・方法及び授業改善（F D）に関わる研究、開発及び企画
- 三 医学・保健看護学教育のカリキュラムに関わる研究、開発及び企画
- 四 医学・保健看護学教育の臨床技能教育に関わる研究、開発及び企画
- 五 医学・保健看護学教育の評価方法の研究
- 六 入試制度の研究
- 七 その他センターの目的を達成するため、必要な事項

(部会)

第6条 センターに次の各号に掲げる部会を置く。

- 一 カリキュラム専門部会
- 二 入試制度検討部会
- 三 臨床技能教育部会
- 四 教育評価部会
- 五 FD部会

2 部会に関し必要な事項は、別に定める。

(職員)

第7条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 本学の専任教員のうちから学長がセンターに兼ねて勤務を命じた者
- 四 その他必要な職員

2 前項第2号から第4号までの職員は、センター長の命を受け、センターの業務に従事する。

3 第1項第3号の職員が兼ねて勤務を命令される期間は、2年とし、再び命ずることができる。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター長)

第8条 センター長は、教育研究開発センター専任教授をもって充てる。

2 センター長の任期は、当該センター長の専任教授としての任期とする。

3 センター長は、センターに関する事項を掌理する。

(副センター長)

第9条 副センター長は、本学の専任教員のうちから、センター長が命ずる。

2 副センター長は、センター長の業務を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代理する。

3 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第10条 センターに、和歌山県立医科大学教育研究開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置き、センターの教育又は研究に関する重要事項を審議させる。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務等)

第11条 センターの庶務は、事務局学生課において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

和歌山県立医科大学教育研究開発センター部会長等会議運営要項

制 定 平成18年7月1日 和医大教研開セ要項第1号

最終改正 平成22年4月1日

(趣旨)

第1条 この要項は、和歌山県立医科大学教育研究開発センター運営委員会規程（平成18年和医大規程第15号）第7条第2項の規定に基づき、部会長等会議の組織、運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(部会長等会議)

第2条 部会長等会議は、次の各号に掲げる者で組織する。

一 センター長

二 各部会長

三 その他センター長が必要と認めた運営委員会委員

2 センター長は、部会長等会議を招集し、その議長となる。

3 部会長等会議は、運営委員会の要請に基づき、各部会相互に連携または調整が必要とされる事項及び特定の審議事項を審議する。

(要項の改廃等)

第3条 この要項に疑義が生じた場合の解釈及び改廃は、センター運営委員会において行う。

(庶務等)

第4条 この要項に関する庶務は、事務局学生課において処理する。

附 則

この要項は、平成18年7月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成22年4月1日から施行する。

教育研究開発センター運営委員会委員

(平成30年度)

委員長	村田 顕也	教育研究開発センター長
	村垣 泰光	医学部長
	柳川 敏彦	保健看護学部長
	平井 秀一	入試・教育センター長
	出口 博之	事務局 事務局長
	森 めぐみ	教育研究開発センター長 助教

センター部会委員

(平成30年度)

◆ カリキュラム専門部会

部会長	村田 顕也	教育研究開発センター長	
副部会長	柳川 敏彦	保健看護学部長	
医学部委員	廣田 麻子	教養・医学教育大講座	教授
	平井 秀一	教養・医学教育大講座	教授
	森川 吉博	解剖学第2講座	教授
	改正 恒康	生体調節機構研究部	教授
	山田 源	遺伝子制御学研究部	教授
	赤阪 隆史	内科学第4講座	教授
	伊東 秀文	神経内科学講座	教授
	鈴木 啓之	小児科学講座	教授
	中尾 直之	脳神経外科学講座	教授
	井籠 一彦	産科・婦人科学講座	教授
	廣西 昌也	紀北分院総合内科学	教授
	上野 雅巳	地域医療支援センター長	教授
	森 めぐみ	教育研究開発センター	助教
学生委員	2名※学生自治会代議員会において毎年度選出する。		
保健看護学部委員	柳川 敏彦	保健看護学部長	
	井上 みゆき	保健看護学部	教授
	岩村 龍子	保健看護学部	教授
	岡本 恭子	保健看護学部	特命教授
	志波 充	保健看護学部	教授
	辻 あさみ	保健看護学部	教授
	前馬 理恵	保健看護学部	教授
	増田 匡裕	保健看護学部	教授

	水越 正人	保健看護学部	教授
	宮井 信行	保健看護学部	教授
	森岡 郁晴	保健看護学部	教授
	山口 雅子	保健看護学部	教授
	山東 資子	保健看護学部	准教授
	坂本 由希子	保健看護学部	准教授
	服部 園美	保健看護学部	准教授
◆ 臨床技能教育部会			
部会長	加藤 正哉	救急・集中治療医学講座	教授
副部会長	柳川 敏彦	保健看護学部長	
医学部委員			
OSCE 部会	村田 顕也	教育研究開発センター長	
	園村 哲郎	放射線医学講座	教授
	岩倉 浩	内科学第 1 講座	講師
	久保 隆史	内科学第 4 講座	准教授
	柑本 康夫	泌尿器科学講座	准教授
	尾浦 正二	外科学第 1 講座	准教授
	水本 一弘	医療安全推進部	准教授
	羽野 卓三	学長特命教員（特別顧問）	
	田中 才一	眼科学講座	准教授
CBT 部会	山田 源	遺伝子制御学研究部	教授
	森 めぐみ	教育研究開発センター	助教
	村田 顕也	教育研究開発センター長	
	竹下 達也	公衆衛生学講座	教授
	西尾 真智子	微生物学講座	教授
	山本 景一	医療情報部	准教授
	田中 篤	内科学第 4 講座	准教授
	中西 正典	内科学第 3 講座	准教授
	鵜飼 聡	神経精神医学講座	准教授
	西 理宏	病態栄養治療部	准教授
	南 佐和子	総合周産期母子医療センター	准教授
保健看護学部委員	柳川 敏彦	保健看護学部長	
	岩村 龍子	保健看護学部	教授
	岡本 恭子	保健看護学部	特命教授
	辻 あさみ	保健看護学部	教授

	水田 真由美	保健看護学部	教授
◆ FD 部会			
部会長	柳川 敏彦	保健看護学部長	
副部会長	村田 顕也	教育研究開発センター長	
医学部委員	山田 源	学生部長	
	廣田 麻子	教養・医学教育大講座	教授
	井原 義人	生化学講座	教授
	藤井 隆夫	リウマチ・膠原病科学講座	教授
	森 めぐみ	教育研究開発センター	助教
保健看護学部委員	柳川 敏彦	保健看護学部長	
	井上 みゆき	保健看護学部	教授
	水越 正人	保健看護学部	教授
	山口 雅子	保健看護学部	教授
	山田 忍	保健看護学部	准教授
◆ 入試制度検討部会			
部会長	柳川 敏彦	保健看護学部長	
副部会長	近藤 稔和	法医学講座	教授
医学部委員	村田 顕也	教育研究開発センター長	
	平井 秀一	教養・医学教育大講座	教授
	金桶 吉起	生理学第1講座	教授
	村垣 泰光	病理学講座	教授
	竹下 達也	公衆衛生学講座	教授
	北野 雅之	内科学第2講座	教授
	山本 信之	内科学第3講座	教授
	森 めぐみ	教育研究開発センター	助教
保健看護学部委員	柳川 敏彦	保健看護学部長	
	井上 みゆき	保健看護学部	教授
	岡本 恭子	保健看護学部	特命教授
	増田 匡裕	保健看護学部	教授
	水越 正人	保健看護学部	教授
	宮井 信行	保健看護学部	教授
	森岡 郁晴	保健看護学部	教授
◆ 教育評価部会			

部会長	村田 顕也	教育研究開発センター長	
副部会長	柳川 敏彦	保健看護学部長	
医学部委員	羽野 卓三	学長特命教員（特別顧問）	
	平井 秀一	教養・医学教育大講座	教授
	茂里 康	教養・医学教育大講座	教授
	井原 義人	生化学講座	教授
	改正 恒康	生体調節機構研究部	教授
	山本 信之	内科学第3講座	教授
	伊東 秀文	神経内科学講座	教授
	森 めぐみ	教育研究開発センター	助教
	藤本 眞一	奈良県立医科大学教育開発センター	教授
保健看護学部委員	柳川 敏彦	保健看護学部長	
	志波 充	保健看護学部	教授
	前馬 理恵	保健看護学部	教授
	森岡 郁晴	保健看護学部	教授
	池田 敬子	保健看護学部	准教授
	服部 園美	保健看護学部	准教授
	上野 美由紀	保健看護学部	講師

◆ 教育研究開発センター自己評価委員会

村垣 泰光	医学部長
柳川 敏彦	保健看護学部長
太田 茂	参事（薬学部長予定者）
平井 秀一	入試・教育センター長
山上 裕機	病院長
山田 源	学生部長
森 めぐみ	教育研究開発センター 助教
藤本 眞一	奈良県立医科大学教育開発センター 教授
大江 嘉幸	前和歌山市教育委員会教育長

平成 30 年度事業実績

医 学 部

開催した部会一覧

入試制度検討部会

第1回

開催日時：平成30年6月13日（水）

- 議 事： 1. 平成30年度入試について
2. 高大接続改革について

第2回

開催日時：平成30年12月13日（木）

- 議 事： 1. 2021年度（平成33年度）入試に係る変更点の予告・公表について
2. 入試情報の取扱いについて

第3回

開催日時：平成30年12月27日（木）

- 議 事： 1. 平成31年度試験問題及び解答の公表について
2. 2021年度（平成33年度）入試に係る変更点の予告・公表について
3. 入試の一元化について
4. 今後の入試制度の検討組織等について

第4回

開催日時：平成31年2月19日（火）

- 議 事： 1. 2021年度（平成33年度）入試に係る変更点の予告・公表について
2. 入学選抜試験の問題及び解答の公表について

教育評価部会

第1回

開催日時：平成30年9月12日（水）

- 議 事： CBT について

第2回

開催日時：平成30年11月9日（金）

- 議 事： 1. 卒業試験の合否判定について
2. ベストティーチャー賞の推薦について

- 3. 平成 29 年度の授業評価結果について
- 4. 平成 31 年度履修要領について

第 4 回

開催日時：平成 30 年 12 月 10 日（月）

議 事：卒業試験（再試験）の合否判定について

カリキュラム専門部会

第 1 回

開催日時：平成 30 年 6 月 26 日（火）

議 事：1. 臨床実習について
2. 基礎配属報告会について
3. 地域医療について

第 2 回

開催日時：平成 30 年 8 月 21 日（火）

議 事：臨床実習について

第 3 回

開催日時：平成 30 年 10 月 31 日（水）

議 事：臨床実習について

第 4 回

開催日時：平成 30 年 11 月 30 日（金）

議 事：平成 31 年度カリキュラムについて

自己評価委員会

開催日時：平成 31 年 3 月 19 日（火）

議 事：平成 29 年度事業実績について

FD部会

開催日時：平成 30 年 9 月 3 日（月）

議 事：FD の本年度計画について

医学教育分野別評価部会

開催日時：平成 30 年 6 月 18 日（月）

議 事：外部評価報告書に対する「改善報告書（案）」について

運営委員会

開催日時：平成 30 年 11 月 6 日（水）

議 事：1. 平成 29 年度実績報告について
2. 平成 30 年度事業計画（案）について

開催したFD一覧

第1回

開催日時：平成31年2月1日(金)

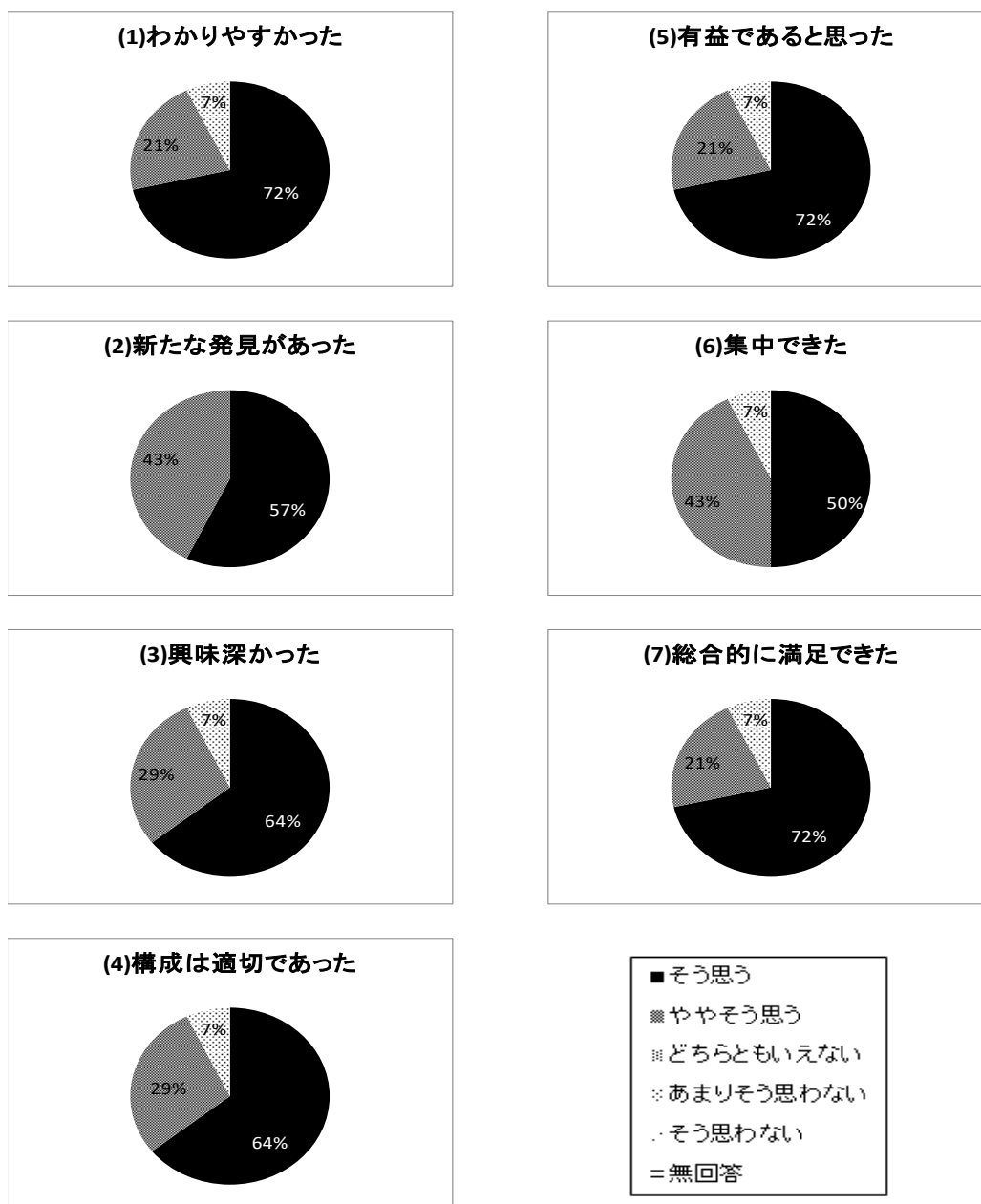
演題：第112回医師国家試験の出題傾向と客観的問題の作成方法について

講師：岩手医科大学医学部客員教授(医学教育学)

塩澤 昌英 先生

参加者数：教員14名

FD終了後に実施したアンケートの結果



第2回

開催日時：平成31年2月7日(木)

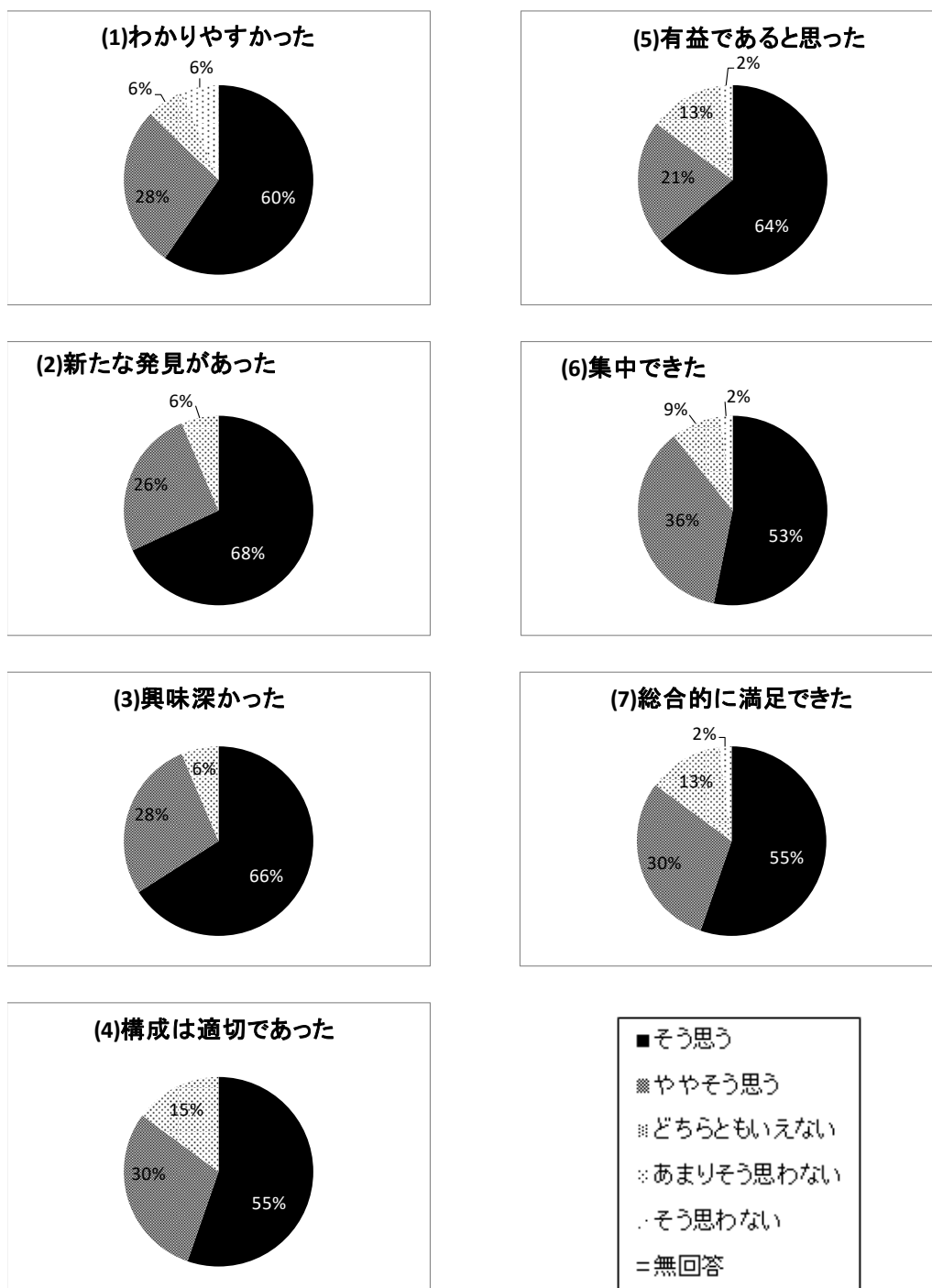
演題：高大接続改革の現状と課題～大学・予備校・高校の動向等～

講師：学校法人河合塾 教育イノベーション本部

教育研究部 中島 由起子 先生

参加者数：教員 40 名

FD 終了後に実施したアンケートの結果



第3回

開催日時：平成31年3月26日(火)

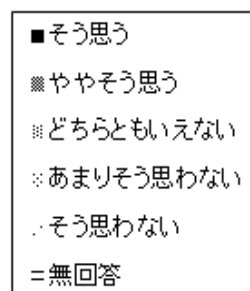
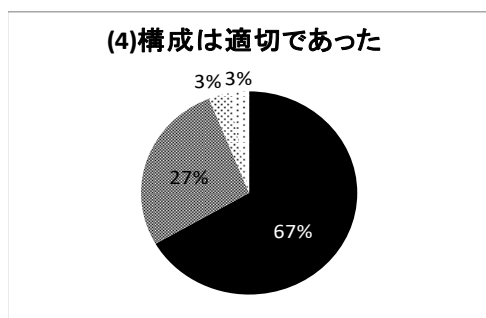
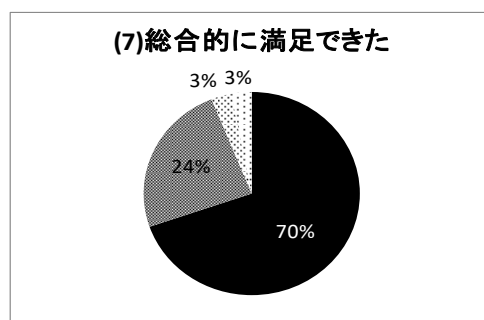
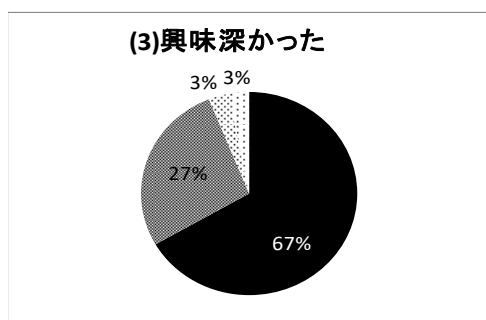
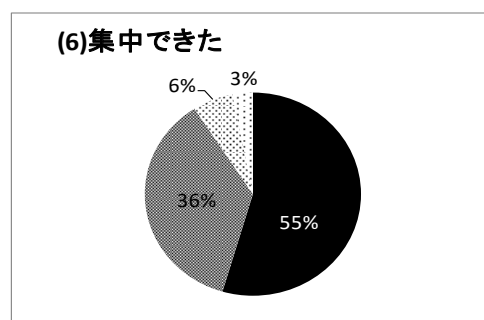
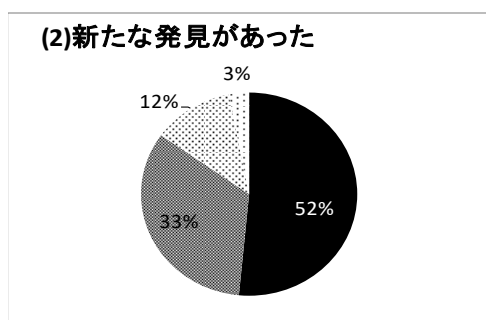
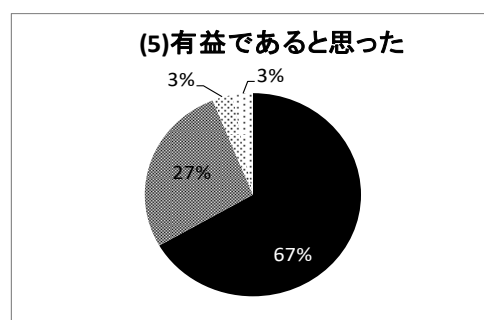
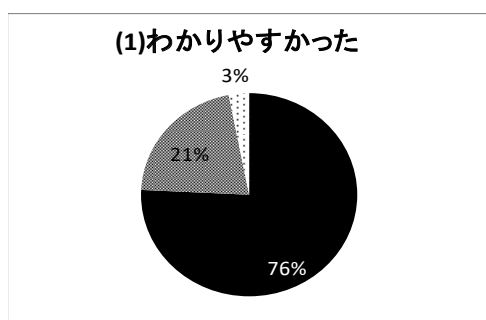
演 題：本年度卒業試験の概要について

講 師：教育研究開発センター

センター長 村田 顕也 先生

参加者数：教員 33 名

FD 終了後に実施したアンケートの結果



平成30年度ベストティーチャー賞及びベストクリニカルティーチング賞

和歌山県立医科大学医学部の教育活動に貢献した教員及び診療科に対してそれぞれベストティーチャー賞及びベストクリニカルティーチング賞を授与し、もって本学医学教育の向上に資することを目的とする。

平成30年度ベストティーチャー賞

教養部門

教養・医学教育大講座

田中 晴喜 講師

基礎部門Ⅰ

生化学

池崎 みどり 助教

基礎部門Ⅱ

病理学

佐藤 冬樹 講師

臨床部門

病態栄養治療部

西 理宏 准教授



平成30年度ベストクリニカルティーチング賞

診療部門

血液内科学

個人部門

内科学第2

吉田 岳市 講師

和歌山SPの会

SP (Simulated Patient : 模擬患者) は、医療従事者の研修などで患者さんの役をします。医療現場でのコミュニケーションを改善するために重要性が高まっており、ケアマインドを併せもった医療人教育を進めるためにも必要です。和歌山 SP の会は、平成 18 年度に設立され、臨床技能教育の効果を高めるよう研修を重ねています。

平成 30 年度の開催内容

	開催日時	内容
第 145 回研修会	平成 30 年 4 月 19 日(木)	2018 年 Post-CC-OSCE について
第 146 回研修会	平成 30 年 5 月 17 日(木)	大阪市大での SP 教育について講演 演者:大阪市大病院総合診療センター 幕内安弥子先生
第 147 回研修会	平成 30 年 6 月 14 日(木)	2018 年 Post-CC-OSCE について
第 148 回研修会	平成 30 年 7 月 5 日(水)	2018 年 P-CC OSCE 医療面接の練習
第 149 回研修会	平成 30 年 7 月 12 日(木)	2018 年 P-CC OSCE 医療面接の練習
第 150 回研修会	平成 30 年 7 月 17 日(火)	2018 年 P-CC OSCE 医療面接の練習
第 151 回研修会	平成 30 年 7 月 18 日(木)	2018 年 Post-CC-OSCE 医療面接
第 152 回研修会	平成 30 年 9 月 6 日(木)	2018 年 Post-CC-OSCE の振り返り
第 153 回研修会	平成 30 年 10 月 18 日(木)	頭痛についての講演 演者:村田 顕也センター長
第 154 回研修会	平成 30 年 11 月 15 日(木)	2019 年 Pre-cc-OSCE 及び OSCE 直前医療面接について
第 155 回研修会	平成 30 年 12 月 6 日(木)	2019 年 Pre-cc-OSCE 及び OSCE 直前医療面接の練習
第 156 回研修会	平成 30 年 12 月 13 日(木)	2019 年 Pre-cc-OSCE 及び OSCE 直前医療面接の練習
第 157 回研修会	平成 30 年 12 月 27 日(木)	2019 年 Pre-cc-OSCE 及び OSCE 直前医療面接の練習

	開催日時	内容
第 158 回研修会	平成 31 年 1 月 7 日(月)	2019 年 Pre-cc-OSCE 直前医療面接(午前) 2019 年 Pre-cc-OSCE 医療面接の練習(午後)
第 159 回研修会	平成 31 年 1 月 10 日(木)	2019 年 Pre-cc-OSCE 医療面接の練習
第 160 回研修会	平成 31 年 1 月 17 日(木)	2019 年 Pre-cc-OSCE 医療面接
第 161 回研修会	平成 31 年 3 月 14 日(木)	2019 年 Pre-cc-OSCE 医療面接の振り返り

学 生 実 習 に つ い て

平成30年度1年生地域福祉関係施設実習

目 的：ケアマインドやコミュニケーションスキルを身につける。

介助体験等によって医師となる自覚、厳しさを身につける。

入居者・利用者を中心とした各スタッフの協調性の重要性を理解する。老人福祉施設の現場を介助体験等に通じて理解し、老人医療の現場を体験する。アーリー・エクスポージャーに続いて、地域医療の実態等を学ぶ。

実習内容：老人福祉施設の指導者や職員の指示に従い、入居者・利用者周辺における各種サービスの見学と体験を実施する。

実習期間：平成31年2月25日（月）～3月1日（金）

実習施設：竹の里園、紀伊松風苑、紀伊てまり苑、わかうら園、喜成会、紀三井寺苑、第二親和園、第五親和園、アンシアナトー、高陽園、ヴィラももの里、栄寿苑、天美苑、田鶴苑、美里園、愛光園、さくら苑、ゆら博愛園、ひだか博愛園みちしお、日高博愛園、ときわ寮川辺園、カルフル・ド・ルポ印南、熊野本宮園、白浜日置の郷

平成30年度2年生地域実習

目 的：（保育園）医療人としての豊かな人間性涵養を育むため、乳幼児とふれあい、乳幼児の特長を理解し、乳幼児とのコミュニケーション能力を身につける。また、実習を通じて、育児を支援する保育園の現状を学ぶ

（障害者福祉関係施設）大学病院ではほとんど経験することの出来ない障害者福祉関係施設での実習を行うことにより、ケアマインドを育成し、障害者への医療・福祉の現状について理解を深めることにより、医療人としての資質の向上に努める。

実習期間：平成30年8月27日（月）～9月 7日（金）

（実習先、グループによって期間は異なる）

実習施設：（保育園）

さつきこども園、みちる保育園、さんた保育園、

しょうぶこども園、ようすい子ども園

（障害者福祉関係施設）

愛徳医療福祉センター、南紀医療福祉センター・牟婁あゆみ園・牟婁さくら園、和歌山病院、障害者支援施設リハビリ橋本、琴の浦リハビリテーションセンター、社会福祉法人つわぶき会綜愛苑

平成30年度4年生看護体験実習

目的：看護体験を通じて医療現場を理解し、チーム医療のあり方を理解し、看護体験等によって医師となる自覚、モラル・人間性を身につける。

実習内容：病棟看護職員の指示に従い、患者周辺における看護サービスの見学と体験。

実習期間：平成30年2月5日（火）～8日（金）

実習施設：本学附属病院各病棟

アンケート

- ・平成30年度1年生地域福祉関係施設実習において、実習先施設のご担当者さまに下記のアンケートにご回答いただきました。

平成30年度 地域福祉施設体験実習 評価表

誠にお手数ですが、下記の項目について実習生の評価をお願いします。

※1 この評価表は、実習生の成績評価の際に使用いたします。

※2 評価の一部は後日学生へフィードバックいたします。

【実習生自身について】当てはまる番号にチェックをお願いいたします。

	悪い	少し悪い	良い	とても良い
1. 学生は時間を厳守していましたか。	① ☐	② ☐	③ ☐	④ ☐
2. 学生の身だしなみ、服装は適切でしたか。	① ☐	② ☐	③ ☐	④ ☐
3. 学生の実習態度は真面目でありましたか。	① ☐	② ☐	③ ☐	④ ☐
4. 学生は積極的に実習に取り組んでいましたか。	① ☐	② ☐	③ ☐	④ ☐
5. 貴施設職員と学生との関係は良好でしたか。	① ☐	② ☐	③ ☐	④ ☐

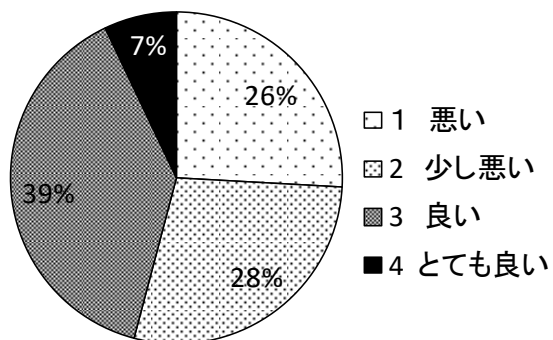
【入居者への対応などについて】当てはまる番号にチェックをお願いいたします。

	悪い	少し悪い	良い	とても良い
1. 入所者の方の性格や個性は把握できていましたか。	① ☐	② ☐	③ ☐	④ ☐
2. 入所者の方の精神状態や認知能力を把握できていましたか。	① ☐	② ☐	③ ☐	④ ☐
3. 入居者の方と親しく接していましたか。	① ☐	② ☐	③ ☐	④ ☐
4. 入所者の方の全身状態については把握できていましたか。	① ☐	② ☐	③ ☐	④ ☐
5. 学生のコミュニケーション能力はどうでしたか。	① ☐	② ☐	③ ☐	④ ☐
6. よい医師になれそうですか。	① ☐	② ☐	③ ☐	④ ☐

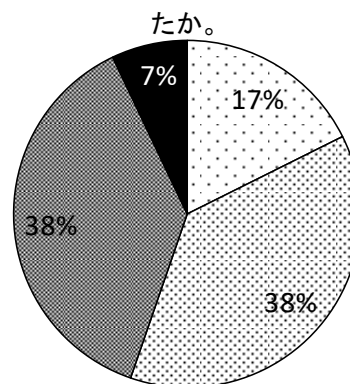
アンケート結果その1

学生自身について

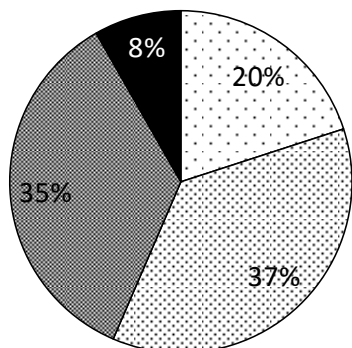
1 学生は時間を厳守していましたか。



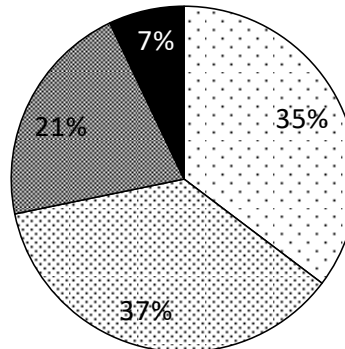
4 学生は積極的に実習に取り組んでいましたか。



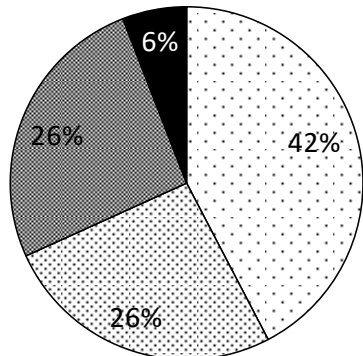
2 学生の身だしなみ、服装は適切でしたか。



5 貴施設職員と学生との関係は良好でしたか。



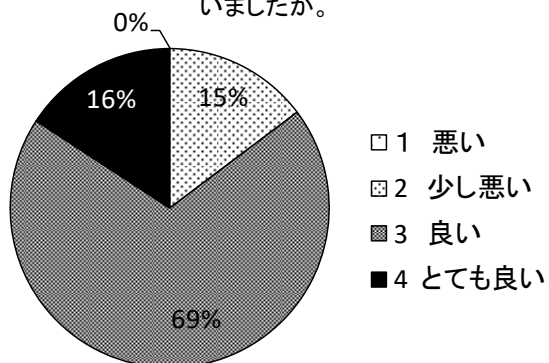
3 学生の実習態度は真面目でありましたか。



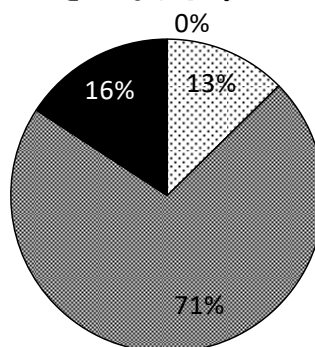
アンケート結果その 2

入居者への対応などについて

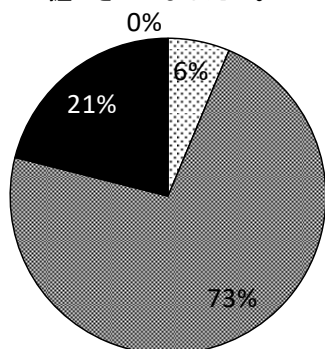
1 入所者の方の性格や個性は把握できていましたか。



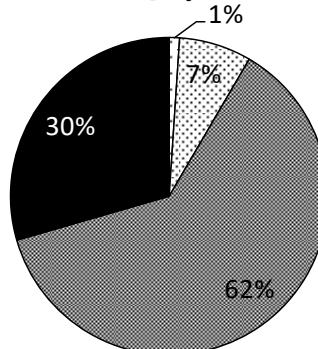
4 入所者の方の全身状態については把握できていましたか。



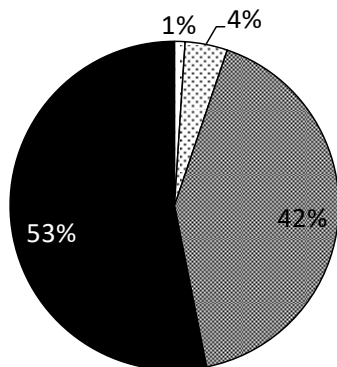
2 入所者の方の精神状態や認知能力を把握できていましたか。



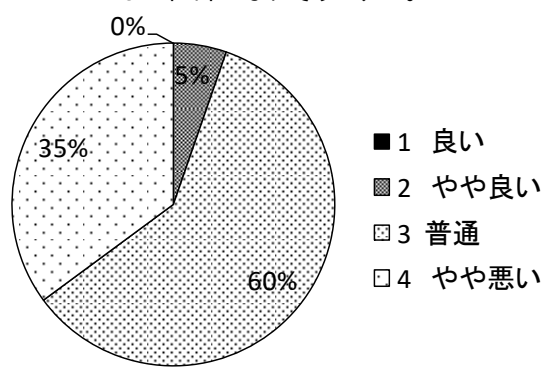
5 学生のコミュニケーション能力はどうか。



3 入居者の方と親しく接していましたか。



6 よい医師になれそうですか。



- ・平成 30 年度 4 年生看護体験実習において、実習先各病棟のご担当者さまに下記のアンケートにご回答いただきました。

平成 30 年度 4 年生看護体験実習

G 学生氏名

病棟

今後の学生教育の参考にさせていただきますので、お手数ですが、下記の項目について学生の評価をお願いします。（①～⑤は番号をチェックしてください。）

（全く思わない————→とても思う）

1. 時間を厳守していた。

①□ ②□ ③□ ④□ ⑤□

2. 身だしなみや服装に留意し、相手に不快感や不安感を与えなかった。

①□ ②□ ③□ ④□ ⑤□

3. 関係者に礼儀正しく接していた。

①□ ②□ ③□ ④□ ⑤□

4. 言葉使いは適切であった。

①□ ②□ ③□ ④□ ⑤□

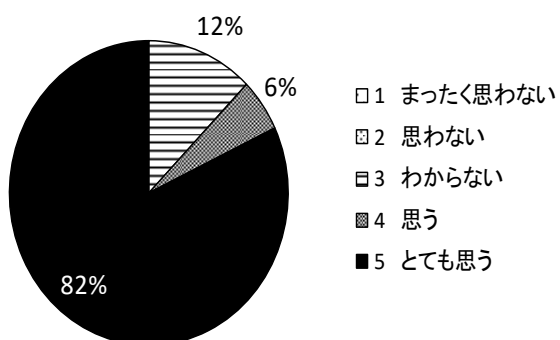
5. 積極的に実習に取り組んでいた。

①□ ②□ ③□ ④□ ⑤□

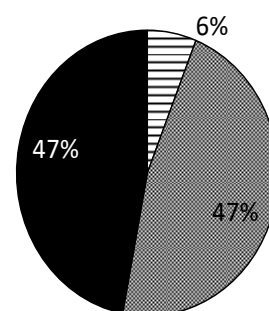
アンケート結果

1 日目

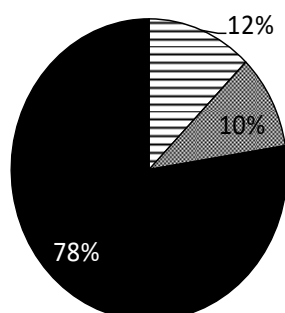
1 学生は時間を厳守していた。



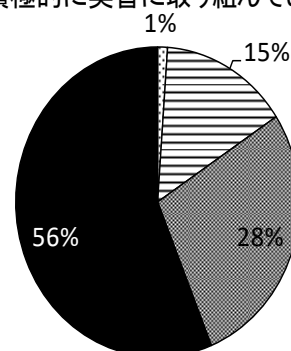
4 言葉遣いは適切であった。



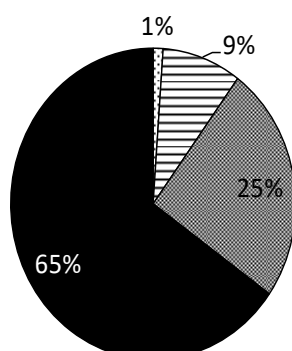
2 身だしなみや服装に留意し、相手に不快感や不安感を与えなかった。



5 積極的に実習に取り組んでいた。

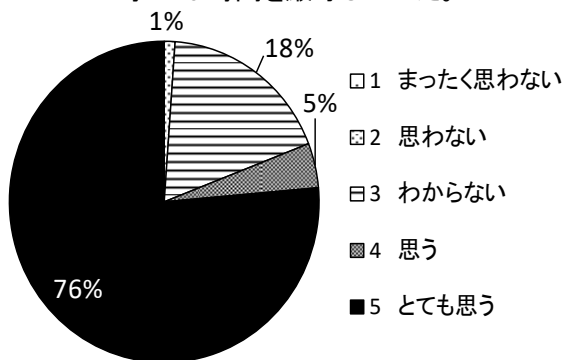


3 関係者に礼儀正しく接していた。

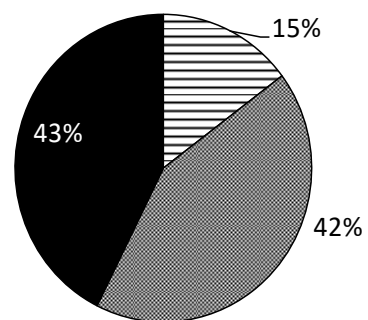


2 日目

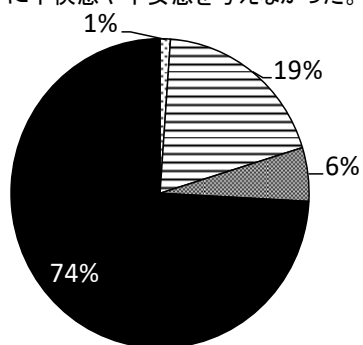
1 学生は時間を厳守していた。



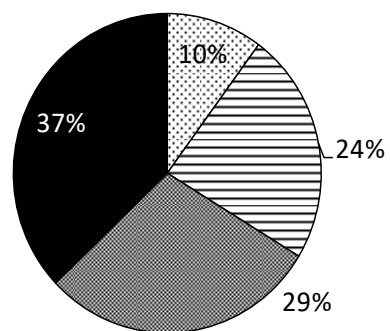
4 言葉遣いは適切であった。



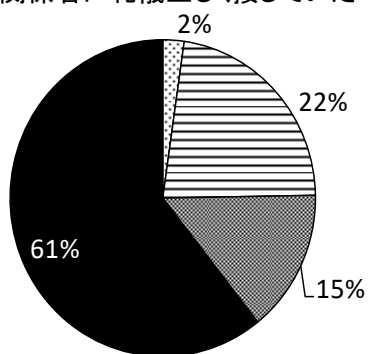
2 身だしなみや服装に留意し、相手に不快感や不安感を与えなかった。



5 積極的に実習に取り組んでいた



3 関係者に礼儀正しく接していた



学生の感想文から一部抜粋

4歳～5歳児は自分の考えを言葉で表現できていて、予想より難しい言葉も知っていた。一方で今しなければならぬことを考えたり、周りの様子を見ることはまだ、できていなかった。避難訓練などの際には、単に笑顔で接するだけではなく、厳しい態度を示すのも大事だと思った。

.....

一人の子どもが、明日の敬老会に祖父母が参加してくれるのを楽しみにしていると話してくれた。未来の予定を3歳がはっきり把握している上に、そのことを他者に言語化してくれた。ケンカの時も、何が原因であるかを言語化してくれる子どもがいた。これらは自らの中に芽生えた道徳や価値観を比較判断することができているからだと思われる。道徳観は絵本の朗読時やおもちゃの取り合いの際に「それはダメ」「悪い」などで知られることだった。そしてその道徳観を教育できるように指導する担任の先生方もその教育の一助となっていると思った。

.....

理学療法士の先生の説明をうけながら、重度の脳性麻痺のお子さんのリハビリの様子を見学させていただいた。私のイメージでは、お子さんが障害を持っているお母さんはとても苦労していて、大変なことも多いと思っていたが、実際にお母さんから話を聞くと、もうその生活が当たり前になっているのでとても大変だとは思わないとおっしゃっていた。確かにそれが当たり前になっている家庭ならそうかもしれないと、驚かされた。自分の中の想像だけでなく、実際に相手の話を聞く大切さを感じた。

.....

脳外科の看護病棟を見させていただき、私が感じたことは、やはり重症度の高い患者が多いということで、必然的に看護師の介助の負担が大きくなるというものでした。今回お邪魔したのは約6時間という時間でしたが、ほとんど休む時間なく、働かれていたように感じました。

皮膚科、眼科、整形外科の共通病棟にお邪魔させていただいた際は、退院予定の患者の薬の受け渡しや、入院患者の所へ行き、体温、血圧の測定。次に、点滴を受けている患者の点滴取り替えを行いました。また、患者の呼び出しを受けた場合の対応を行い、それが無い時は電子カルテの記入という作業を見させていただきました。最後には、4時ごろからオペが一件入っているということで、その付き添いに手術室まで行きました。自分が思っていたよりも、看護師の仕事は多岐に渡るのだなとしみじみ実感しました。やはり仕事量は多そうでしたし、よりペア同士の連携が密にできているなという風に感じました。

今回の実習を通じて、医師としての視点からではなく、より現場特有の空気を感じることができ、改めて違う側面から医療というものを知ることができました。

学術大会等での発表

第50回日本医学教育学会大会での発表内容

開催日時：2018年8月3日（金）・4日（土）

開催場所：東京医科歯科大学

ポスター19 教育支援、ICT

8月4日（土）13:35～14:30

医学部生のスマートフォン・タブレット利用に対応したEラーニングシステムの運用から
見えた課題

Issues on operation of E-learning system to use of smart phone and tablet device of
medical students

和歌山県立医科大学教育研究開発センター 平野隆則、川邊哲也、村田顕也

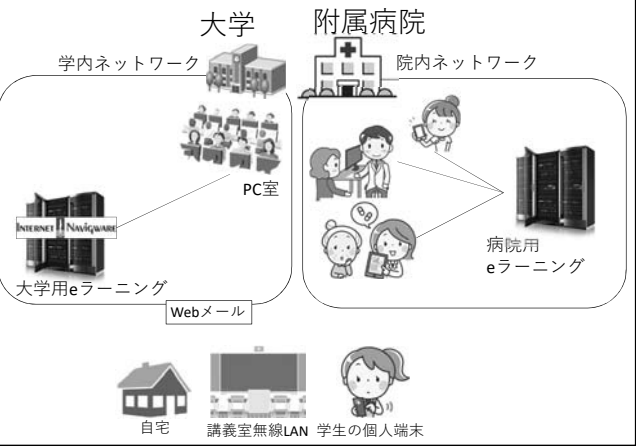
【抄録】

本学に新たに導入したオープンソース LMS システム「Moodle」の導入と稼働実績について報告する。本学では学内ネットワークに利用を限定した E ラーニングシステムを導入していたが、利用率が低く、動画閲覧など特定用途にしか活用していなかった。各講義室に無線 LAN が整備し、スマートフォンやタブレット等も普及したことから、学生のネットアクセス環境が改善された。そこで学外からアクセス可能な E ラーニングサーバーを設置した。学生の所有する端末、特にスマートフォンからのアクセスを想定し、システムをカスタマイズした。授業資料の配付や課題提出など、教員からのニーズがある機能から導入を進めた。旧システムとの利用状況の比較や導入時の工夫、運用開始後の課題などを報告する。

医学部生のスマートフォン・タブレット利用
に対応したeラーニングシステムの運用から
見えた課題

和歌山県立医科大学教育研究開発センター
平野隆則・川邊哲也・村田顕也

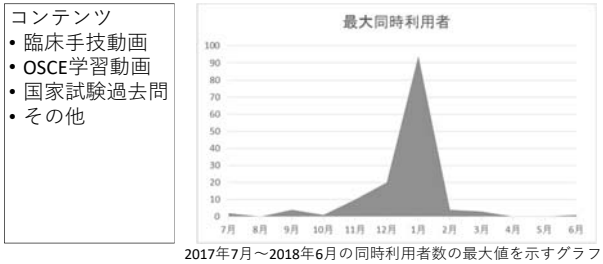
本学のネットワーク構成図



本学eラーニングシステムの課題

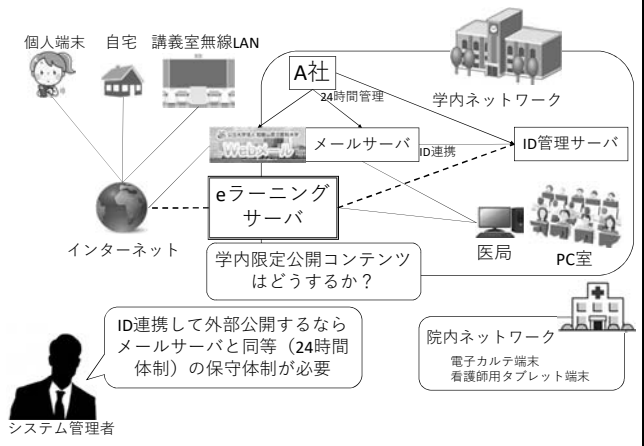
- ネットワーク的分断
講義室（無線LAN）が学外ネットワークのため接続不可
学生が個人の端末からアクセスできない
- システムの老朽化（富士通Internet Navigware v9.0）
対応端末がWindows搭載のPCのみ
旧バージョンの脆弱性、機材の故障
- 独立したID管理
ID管理業務が発生
専用のIDパスワードは混乱を招きログインできない

本学のeラーニングシステム利用状況

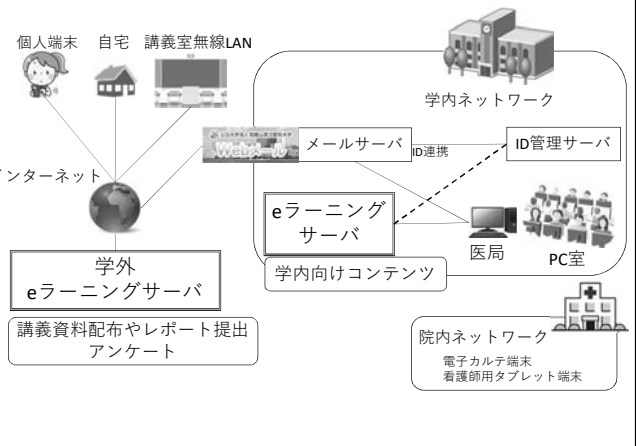


- 利用者は12月～1月に集中
- 本学の共用試験PreCC-OSCEの学習のためと推測

SSOで学外利用可能なeラーニングシステム



学外にサーバを置く2台体制の運用



システム検討

基本方針

- 1. 学外システムにはメール機能を持たせない
大学メールとの乱立を避ける
- 2. 将来的な統合も視野に入れる
- 3. 少数学生の単科大学に見合ったもの

☐ 教育向けクラウドサービス
Microsoft Office365, Google Gsuiteなど
無償提供あり、保守不要、マルチデバイス対応

☒ オープンソースシステムMoodle
クローズな環境で長く使える
保守作業の検討が必要

レンタルサーバー導入検証

さくらインターネット（共用プラン）

料金が明快、月額500円程度から
請求書で年払い対応
共用サーバのためピーク時に難
拡張性に不安がある
OS, DB, Apache, PHPが導入済み

VPSプラン、クラウドプラン
導入は未実施、導入作業の工数が多い印象

レンタルサーバー導入検証

さくらインターネット（共用プラン）

メリット	デメリット
料金が明確 (月額500円程度から)	共用サーバのためピーク時に難
請求書で年払い対応	拡張性に不安がある
OS, DB, Apache, PHPが導入済み	

VPSプラン、クラウドプラン

導入は未実施、導入作業の工数が多い

パブリッククラウド比較

パブリッククラウド

料金は使用量に比例するので予算化に難あり
Moodle付きVMセットが用意されている
他の提供サービスと連携がスムーズ

- ① Amazon Web Services (AWS)
導入は未実施、SINET対応
- ② Microsoft Azure
MarketplaceからVMセットでインストール可、SINET対応
3大クラウドで最も日本語化が進む
- ③ Google Cloud Platform
VMのリソース（コア、メモリ、ストレージ）を細かく調整
驚異のワンクリックインストール

パブリッククラウド比較

パブリッククラウド

メリット	デメリット
Moodle付きVMセットが用意されている 他の提供サービスと連携がスムーズ	料金は使用量に比例するので予算化に難あり

各サービスの比較

サービス	導入のしやすさ	SINET	その他
Amazon Web Services	○ Marketplaceから導入可	対応	日本語化○
Microsoft Azure	○ MarketplaceからVMセットでインストール可	対応	日本語化◎
Google Cloud Platform	◎ ワンクリックインストール		VMリソース調整 日本語化△

パブリッククラウド上のMoodle導入のまとめ

良かった

- 予算や技術系職員の少ない単価大学向き
- 学生のスマホ・タブレットを活用できる

課題

- ID連携（大学のポリシー）
- 運用コストの算出

※システム保守コスト（人or金）は必要

今後の展開

- SINET接続対応を考慮してAzureで運用
- アンケートや教材配布から利用開始する
- 1年間の運用実績をまとめ再検討
- コスト面や運用課題は引き続き調査報告する

今後の展開

運用方法	プライベートクラウド Microsoft Azure
実施目的	教材配布やアンケート
実施期間	1年間
展開	実績をまとめ再検討 コスト面、運用課題の調査報告

学術大会等での発表

日本教育工学会 第34回全国大会

開催日時：2018年9月28日（金）～30日（日）

開催場所：東北大学 川内キャンパス

一般研究2口頭発表 1a 協調学習，学習科学

9月28日（土）10:30～12:30

医学部初年次オリエンテーションへのファシリテーション教育の導入

Introduction of facilitation skills education to enrollment orientation for medical students.

和歌山県立医科大学教育研究開発センター 平野隆則、森めぐみ、村田顕也

【抄録】

本学の入学時オリエンテーションとして、「自分たちが目指す医師像を考える」ワークショップを、共感的態度やコミュニケーション基礎，協調性を育むことを目的に開催した。プログラム・デザイン段階から本学で問題になっている留年生・中退者の増加へのアプローチを検討し，医療者として将来像を話し合うことで新入生のモチベーションを高めることを狙った。実施後のアンケート結果より，プログラムの改良点も見えたためこれを共有したい。

医学部初年次オリエンテーションへの ファシリテーション教育の導入

和歌山県立医科大学教育研究開発センター
平野 隆則 森めぐみ 村田顕也

1

背景1

- 県唯一の医学部定員100人
H19年60人→100人大増員
→留年・中退者の増加
→面談を実施
→学生の「孤立」学習
- 「孤立」学習させない指導

2

背景2

- 初年次からグループ学習導入
ファシリテーション教育は未実施
→発表は要領よく行う
→グループ学習の効果に疑問の声

3

目的

ファシリテーション教育を導入し
ワークショップを実施することで、
学生のコミュニケーション能力を
高め、学生生活への主体性を引き
出す。

4

実施内容（概要）

ワークショップ

「自分たちがめざすよい医者とは」

対象 医学部1年生（100人）

実施日 2018/4/10（入学3日目）

場所 解剖実習室（18テーブル）

時間 2時間50分（休憩20分）

5

プログラム

ガイダンス（10分）

グループ分け（20分）自己紹介（10分）

アイスブレイク「漢字クイズ」（10分）

休憩（10分）

グループ演習「フェルミ推定」（20分）振り返り（10分）

グループ演習「よい医師の条件」（30分）全体共有（10分）

個人演習「どんな医師になりたいか」（10分）

休憩（10分）

グループ内共有、ブラッシュアップ（20分）

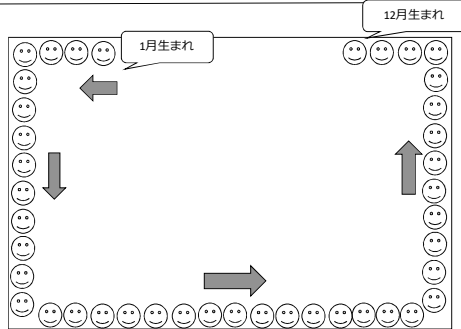
チェックアウト「私の目指す医師」宣言（20分）

全体振り返り（20分）

センター長講評（10分）

6

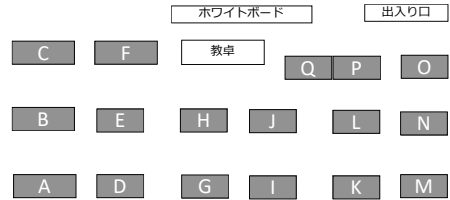
グループ分け「バースデーチェーン」



出席番号の離れた学生と話す機会を作る

集団行動（着席）

- 全員で協力して速やかに着席する
- 走らず、声を掛け合って。



自己紹介

今日呼ばれたい名前を名札シールに書く

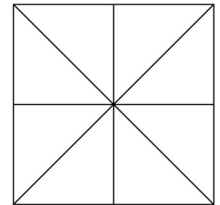
- 名前（あれば呼ばれたい名前も）
- 出身地など
- 自分を動物に例えると・・・、その理由も
猫（気まぐれ）、鶏（朝方）、リス（小さい）

話し終わったらみんなで拍手

7分で全員がしゃべれるように協力する

アイスブレイク「漢字探し」

- 表示された画像から漢字を探す
- 多少ブサイクでもOK
- 目標はグループで40個以上
- 制限時間は3分間



グループ演習「フェルミ推定」

Q1. 本学付属病院の外来の1日
平均患者数は何人か？

- 制限時間は20分
- カンニング禁止
- 論理的に答えを出す
- 独断と多数決を避ける
- 答えはA4用紙に書く



グランドルール

- みんなの時間を大切にしよう
- クラスメイトの発言をよく聴こう
- 積極的に参加しよう
- 勇気を出して失敗しよう
- 発言してくれた人には拍手を送ろう

閑話（ファシリテーターTIPS）

TeacherとFacilitator

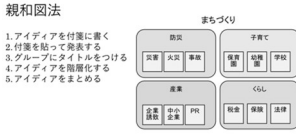


Facilitate

1 〈物が〉...を容易〔楽〕にする；
〈行動・過程などを〉促進〔助長〕する
2 〈物が〉 〈人の〉手助けをする。

親和図法

1. アイディアを付箋に書く
2. 付箋を貼って発表する
3. グループにタイトルをつける
4. アイディアを簡潔化する
5. アイディアをまとめる



ファシリテーターTIPS

議論を見える化しよう
誰かが発言したらペンで書いてみよう
要点をまとめて書いてみる
関係性がわかったら矢印やアンダーラインなど

ワークショップの目的設定

医学部教育目標
コミュニケーション能力及びリーダーシップを備えた協調性の高い人材
教育課程（カリキュラム・ポリシー）
弱い立場の人々と真摯に向き合える共感的態度やコミュニケーション能力

→本学の教育指針に沿うものに

オリエンテーションの狙い

グループ演習（ワークショップ）

- 共感的態度
- コミュニケーションの基礎

問いの設定

「どんな医師になりたいか？」

- 自己実現欲求・内発的動機付け
- 相互理解
- 学ぶ目標設定

受講者に体験してほしいこと、学び

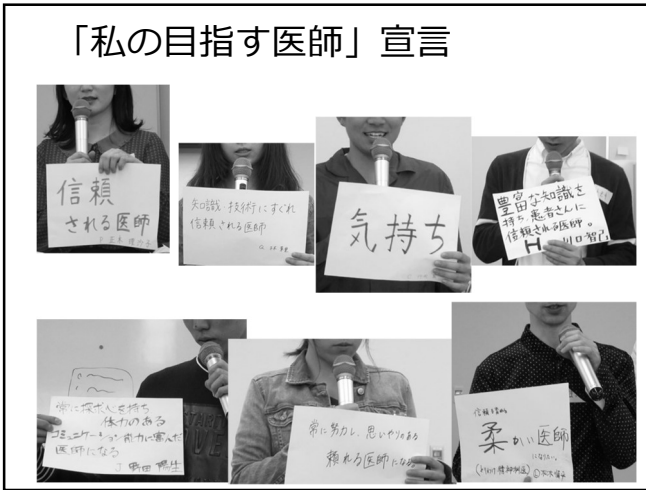
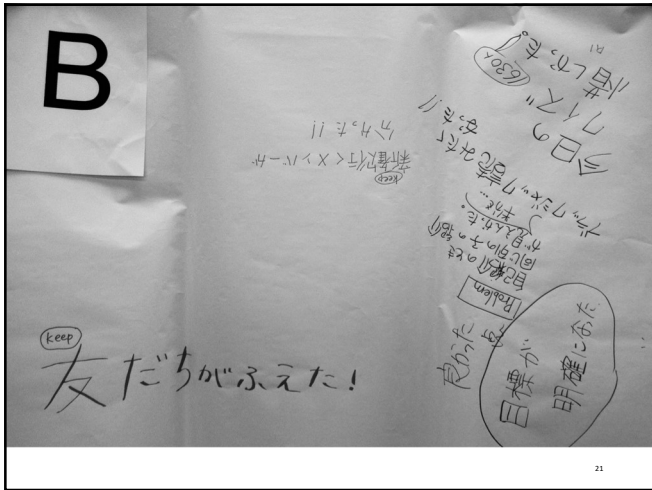
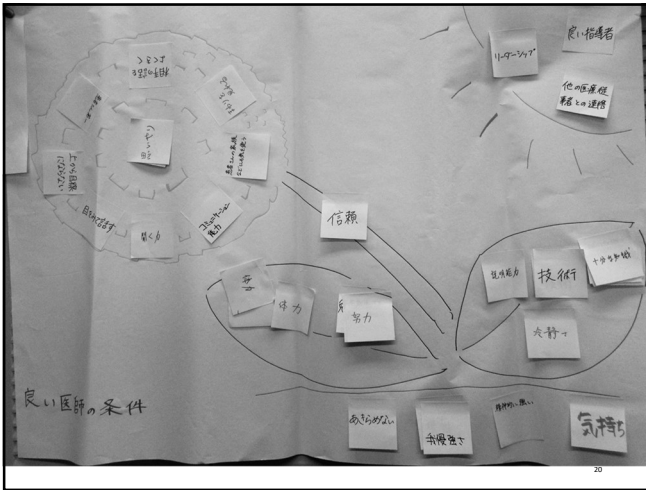
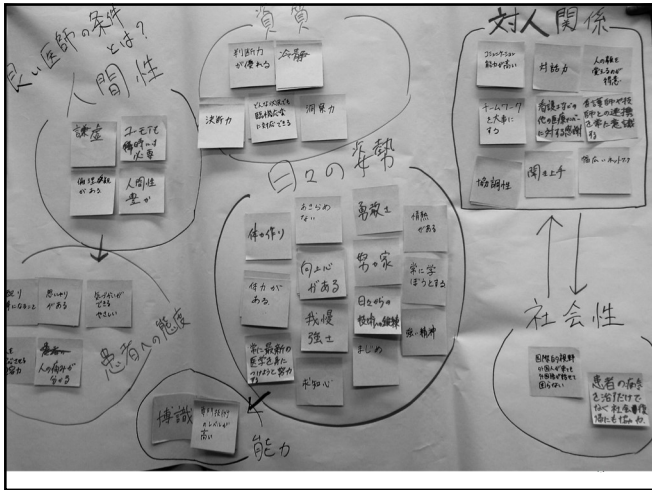
- ① グループで協力することで、一人では出せない答えにたどり着く体験
- ② 他人の話を聞くこと、違う考え方の学生がいることに気付く
- ③ さまざまな理由から医師を目指す“仲間”と共に学ぶマインドセットを作る

→ゴールイメージの共有

ワークショップの種類

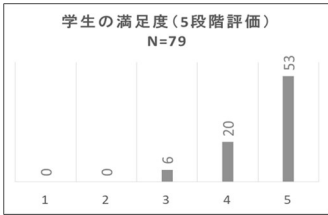
- ① ワールドカフェ
相互理解・コミュニケーション
- ② チーム・ビルディング
受験競争→協働へのシフト
- ③ 質問作りワークショップ
主体的に学問と向き合う意識作り

ゴールイメージから②を選択



アンケート結果

- 本日のオリエンテーションの満足度（1.悪い～5.良い）平均=4.59



良かった点

- ・新しい友人が出来たこと
- ・初対面の方と話せた
- ・名簿順ではなかったのに、名簿が遠かった人とも話せた。話す時間が長かったので一人一人話すことができた。
- ・色んな人と喋れた 医学部生の自覚が新たに生まれた。
- ・自分の内面を客観的に見直し、他の人のいい所や自分にない才能を発見できる機会となり、いい刺激になりました。
- ・友達をつくり、交流を楽しみつつ、これから必要な事を学ぶことができたこと

改善してほしい点

- 各チームの発表時間をもっと長くしてほしい。
- 席替えを2回くらいしたらもっと喋れるのかなとおもいます。
- もう少し色々な人と関われたら良かったと思います。
- 時間が欲しいところもあった
- 長かった

25

今後取り組みたいこと

- もっと色々な人と喋ることをしたい！
- 何事にも積極的に参加して行きたい
- これまで喋ったことない人に頑張って話しかけたい
- ミスを恐れず発言する
- ユーモアあふれ自信に満ちた行動したい！
- また話し合いの機会があればいいと思います。
- 日頃から色々な視点をもてるよう意識していきたいと思います
- たまに同じようなことを開催してほしい

26

考察

- 高い満足度が得られた
コミュニケーションそのものが良い刺激
- 講義とは異なる深いつながり
- 班替えとグループ発表にニーズ
→プログラムの改良、時間の確保
- アウトプットのレベル感にばらつき
→もう一段階掘り下げる仕掛け
- 初年次のキャリア教育と捉える

27

教育研究開発センター的視点

- 当センターの役割を学生に周知できた
- 学生の顔と名前と目標を記録できた

28

課題と今後の展望

- 今後の受講生の見守り
→別講義で「傾聴の姿勢ができた」というフィードバックがあった
グループ学習の質向上につながるか
- 継続した開催の必要性
各学年で振り返りの機会を設ける
キャリア教育として取り組む

29

学術大会等での発表

第 13 回医療系 e-ラーニング全国交流会

開催日時：2018 年 12 月 8 日（土）～9 日（日）

開催場所：東京医科大学病院

ポスター発表

12 月 9 日（日）9:30～10:40

学生のスマートフォンを用いた選択授業希望調査の実施

Ask for Students desired course for elective class By Using Smartphone

和歌山県立医科大学教育研究開発センター 平野隆則、森めぐみ、村田顕也

【抄録】

Moodle の投票フォームを用いて、学生の端末から選択科目の希望票の集計を実施した。本学ではこれまで手作業で紙面を収集し、くじ抽選していたため、結果発表に時間を要した。また、学生の希望に偏りが生じ、希望していない配置していた。プログラムを用いて抽選を実施した年もあったが、人員交代時にうまく継承されなかった。そこで人員交代を見据え、継承が容易な方法を提案し、本年度試験運用を行った。

学生のスマートフォンを用いた選択授業希望調査の実施

Ask for Students desired course for elective class By Using Smartphone

平野隆則、森めぐみ、村田顕也

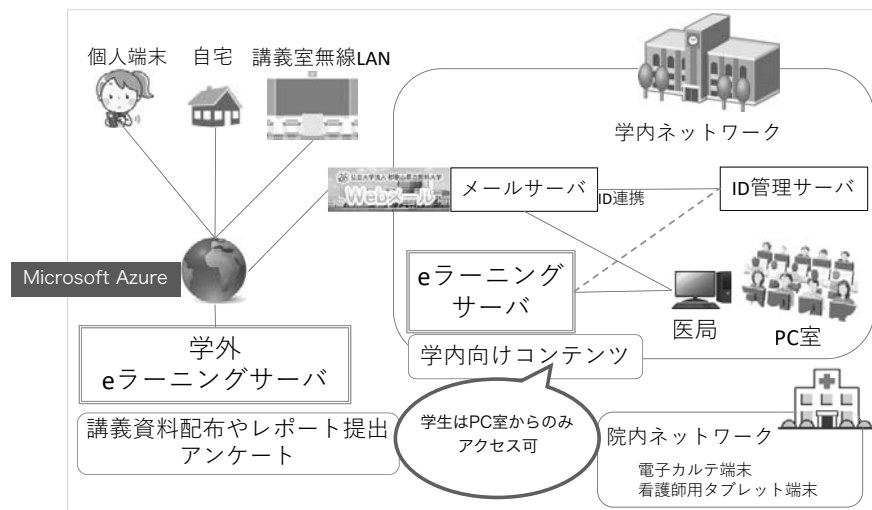
HIRANO,Takanori MORI,Megumi MURATA,Kenya

和歌山県立医科大学教育研究開発センター

Center for Educational Research and Development,Wakayama Medical University

<あらまし>Moodleの投票フォームを用いて、学生の端末から選択科目の希望票の集計を実施した。本学ではこれまで手作業で紙面を収集し、くじ抽選していたため、結果発表に時間を要した。また、学生の希望に偏りが生じていた。プログラムを用いて抽選を実施した年もあったが、人員交代時にうまく継承されなかった。そこで人員交代を見据え、継承が容易な方法を提案し、本年度試験運用を行った。

本学のeラーニングシステム状況



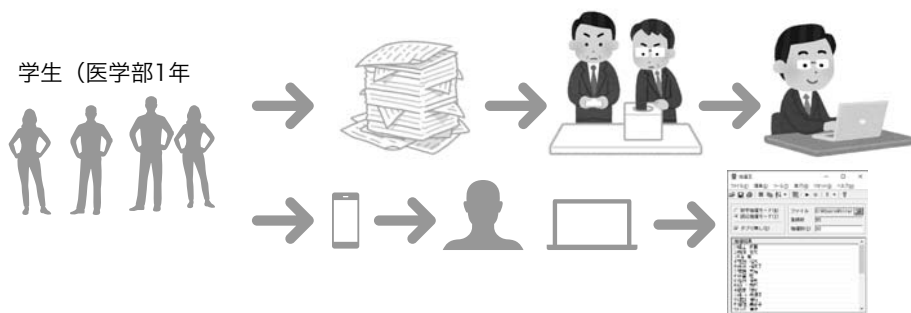
課題

- ・講義室に無線LANを導入したが、学内ネットワークではないため、eラーニングサーバが利用できない。
- ・学生が所持しているスマートフォン・タブレットなどを講義に活用できていない。

今回の試み

- ・クラウド上の仮想サーバーにMoodleを導入し、講義室や学外から活用する。
- ・試験運用の最初の一步として選択講義の希望調査を実施。
- ・職員や学生に「教育支援システム」として認識してもらい今後の活用に理解を得る。

作業フロー



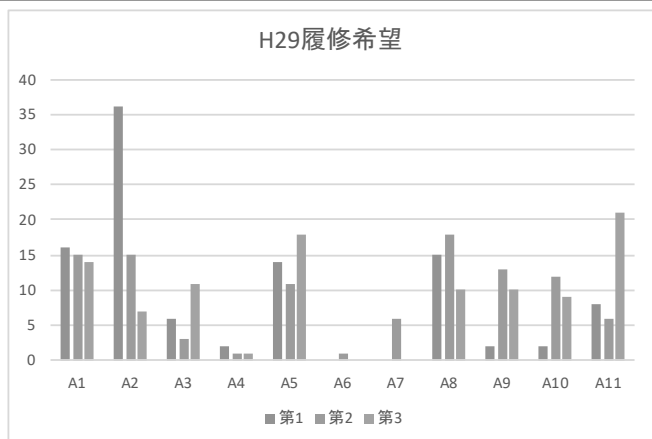
従来の方法

紙面で希望を募りくじ引き
集計と抽選に時間がかかる

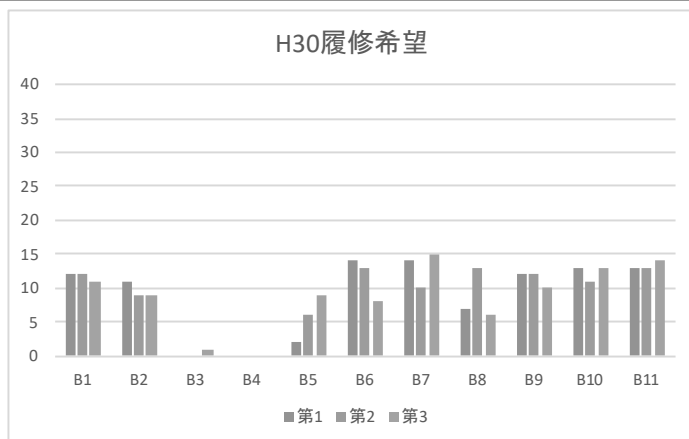
新たな方法

学生はスマートフォンでMoodleにアクセス
「投票」モジュールで希望を提出
抽選には「抽選王」を用いて実施

実施結果



従来の方法（紙面投票）



オンライン投票の結果

クラウド上の仮想サーバーの負荷とコスト



使用リソース

VCPU2,RAM4GB,データディスク4,
最大IOPS1600,ローカルSSD8GB

料金 2,282円（1カ月間）

※使用時のみ稼働させるなどクラウド
ならではの柔軟な運用も可能。

改善点と展望

- ・集計コストが下がったので第3希望まででなく全科目の希望順を集計する。
→学生の意欲的な講義への参加を促進
- ・投票結果を明快に示し、第2希望以下の「死に票」を減らす。
- ・セキュリティ、保守の在り方を検討

学生自主カリキュラムの取組

糖尿病発症機構におけるタンパク質 SUMO 化の役割

和歌山県立医科大学 医学部 4 年 森下 晃

医学部 5 年 尾関隆広

医学部 6 年 大江 直

指導教官 松崎伸介

背景

我が国での糖尿病患者数は 1000 万人を超え、今や成人の 8 人に 1 人が糖尿病である。本疾患は他の生活習慣病との関連が強く、各種疾患の増悪因子となりうるため、その発症機序の解明、根本的治療・予防法の構築は喫緊の課題である。

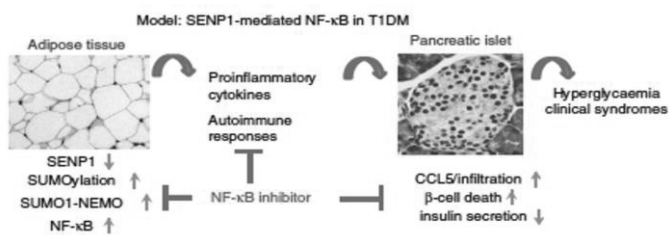
近年の報告で、糖尿病の多数を占める 2 型糖尿病において小胞体ストレスが重要な働きをしていることが報告されている。一方で、インシュリンを分泌する β 細胞においてタウ蛋白質の沈着が起こり、神経変性疾患同様、細胞死誘導・脱落において重要な役割を果たしている可能性が示唆された。指導教官である松崎准教授は、小胞体ストレス下での SUMO 化誘導、ならびにタウ蛋白質沈着における SUMO 化の重要性について検討を進めている。そこで、2 型糖尿病における SUMO 化の意義について検討することとした。

目的

糖尿病は遺伝や自己免疫に起因する 1 型糖尿病と、生活習慣に起因する 2 型糖尿病に分類される。1 型糖尿病において観察される炎症性細胞のランゲルハンス島への侵入に SUMO 化が重要な役割を果たしていることが他家から報告された。

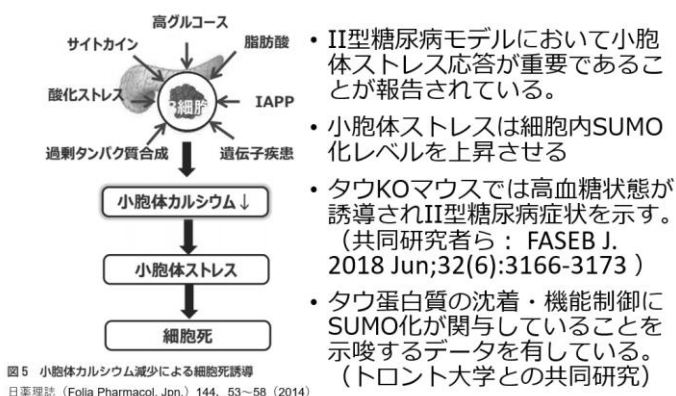
背景（１）：I型糖尿病とSUMO化

- I型糖尿病モデルマウスにおいてSUMO2による修飾が炎症を惹起し、その発症に関与することが報告された。
(Nat Commun. 2015 Nov 24;6:8917)



一方、2 型糖尿病ではインシュリンを分泌する β 細胞においてタウ蛋白質の沈着が起こり、神経変性疾患同様、細胞死誘導・脱落が誘導される可能性が示唆された。指導教官である松崎准教授は、小胞体ストレス下で SUMO 化が誘導されること、ならびにタウ蛋白質沈着における SUMO1 化修飾が重要であることを示すプレリミナリーなデータを有していた。そこで、高血糖状態によりインシュリン分泌過多状態を誘導することが、小胞体ストレスを誘導し、細胞内 SUMO 化レベルを上昇させることでタウ蛋白質の SUMO1 化修飾を促進し、 β 細胞の脱落を促進し、2 型糖尿病発症を促進させるのではないかと仮説を立てた。本研究では、これら仮説を検証するため、高脂肪食マウスにおける SUMO 化修飾についての検討を実施する。

背景（２）：II型糖尿病とSUMO化



実験方法及び準備)

1) 2 型糖尿病モデルマウス（高脂肪食）の構築

- ①マウスは C57B6（6 週齢）♂マウスを購入し使用した。
- ②本学動物実験施設 1 階コンベ領域で、高脂肪食またはコントロール食による飼育を行った。途中、12 週齢で血糖値を測定し、高血糖状態が誘導されていることを確認した。
- ③特別食による飼育は 12、16 週間実施し、サンプルの回収を行った。

2) 膵臓サンプルの回収方法

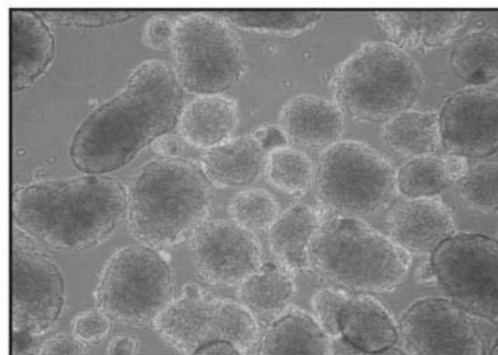
マウス膵臓サンプルを膵頭部（脂肪細胞が多く付着）と膵尾部（ β 細胞を含むランゲルハンス島が存在）に分けて回収した。それぞれのサンプルから mRNA を抽出し、cDNA を作製し、種々の因子の発現確認を実施した。

3) ランゲルハンス島回収方法

J. Vis. Exp. (67), e4137, doi:10.3791/4137 (2012) を参考に、本学第一内科森田先生に助言いただき改定した（以下に示す）

1. 麻酔下でマウスを頸椎脱臼させ、仰向けに台に固定する。大きく開腹し、腸・肝臓をどけて胆のう・総胆管・膵管を露出させる。
2. ファーター乳頭部を結紮し、総肝管・胆のう（胆管）を目印にして、総肝管から膵臓に向けて collagenase を注入する。（膵臓が膨らむ）

3. 膵臓を切離したのち、膵臓を 1ml の collagenase の入ったボトルに移して 37 度で 10 分間反応させる (5 分おきに激しく震盪する)。
4. 十分ほぐれたのを確認し、血清を用いて collagenase を失活させる。浮遊している細胞等を取り除く
5. 実体顕微鏡下で islet を pick up する。Pick up した islet は RPMI を入れ、6cm Dish に移す。
6. さらに二回新しい RPMI を入れた Dish に islet を移し、外分泌細胞を可能な限り除く。



J. Vis. Exp. (67), e4137, doi:10.3791/4137 (2012).

4) Real-time qPCR による測定

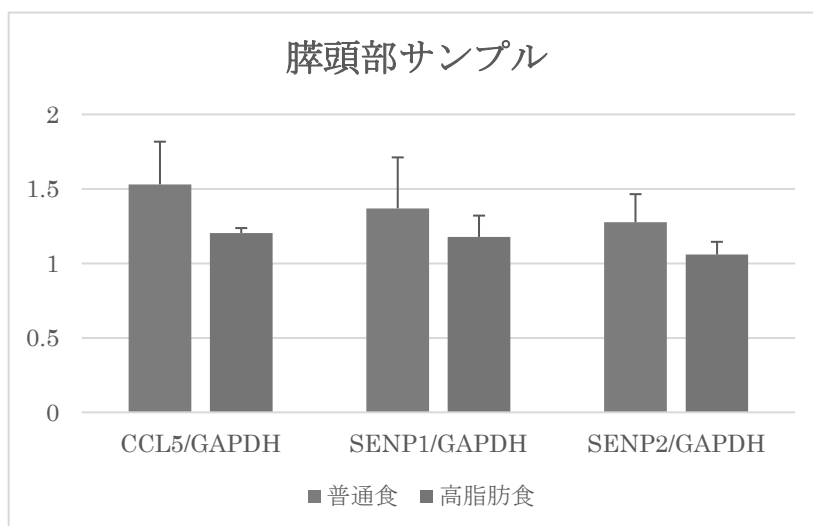
- ①糖尿病 (I 型) で指摘されている炎症・サイトカインへの影響および SUMO 化への影響を検討するため、IL-6、TNF- α 、IL-1 β 、CCL5、SENP1、SENP2 についての発現変動を確認した。
- ②内部標準として GAPDH を使用

結果・考察)

①12 週間高脂肪食摂取マウスでは炎症および SUMO 化関連因子の発現に有意な差を認めなかった。

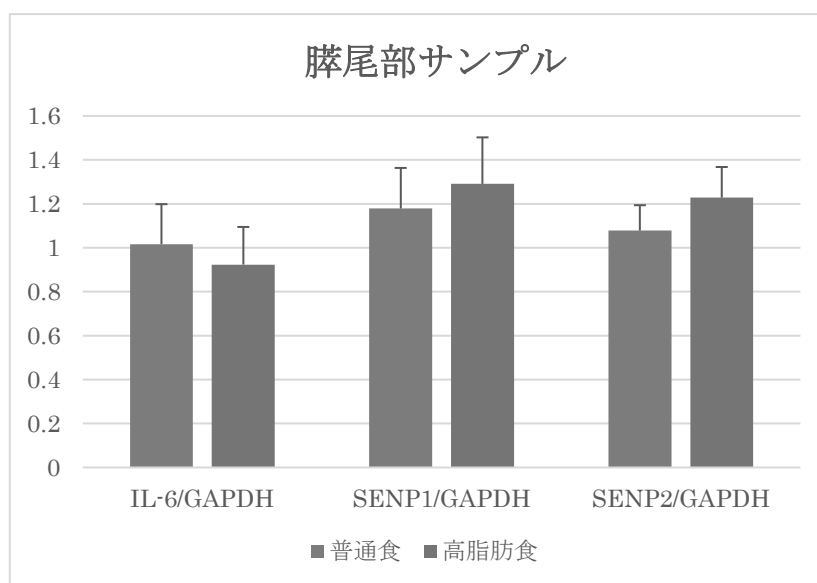
12 週間の高脂肪食摂取により、マウスの著明な体重増加、高血糖状態を確認した。その上で、膵臓サンプルを摘出し、膵頭部・膵尾部に分け各種因子の発現を real-time RT-PCR により確認するため、cDNA を作成した。項目としては、IL-6、TNF- α 、IL-1 β 、CCL5、SENP1、

SENP2 など 1 型糖尿病で指摘されている炎症・サイトカインへの影響および SUMO 化への影響を検討するため、についての発現変動を確認した。



結果として、高脂肪食群（赤色）とコントロール食群（青色）の間に有意な差を認めなかった。

これらの結果をもとに、Tau マウスを用いた糖尿病研究を実施しているトロント大学研究員の方（松崎准教授の共同研究者）にアドバイスを頂いたところ、①サンプル採取までの高脂肪食摂取期間を長くする、②膵細胞の中から islet cell を抽出し、islet cell を中心に検討すること、へと変更することとした。



②ランゲルハンス島 (islet cell 抽出) 方法の構築

当初予定していたサンプル回収方法ではよい結果が得られなかったことと、専門的に実施されている共同研究者からのアドバイスに基づき、サンプル回収方法の変更が必要となった。

トロント大学でのサンプル回収方法、本学内科学第一講座でのサンプル回収方法に加えて、*J. Vis. Exp.* (67), e4137, doi:10.3791/4137 (2012)の方法を参考に改良を重ねた。結果として上記方法を確立した。現状としては、実験方法の項目に写真で示すレベルの islet cells の回収が実施可能となった。

共同研究者のアドバイスに基づき 16-24 週間の高脂肪食摂取がモデル構築には必要とのことであり、今回の自主カリキュラム期間中での実施は困難となったが、わずかに残っているマウスに対してサンプル回収を行い、得られた結果を予備データとして活用し、次回の機会があれば、今回確立したサンプル回収方法を用いて長期高脂肪食摂取マウスへの影響検討を実施していきたいと考えている。

文献)

- 1: SENP1-mediated NEMO deSUMOylation in adipocytes limits inflammatory responses and type-1 diabetes progression. *Nat Commun.* 2015; 6: 8917
- 2: Tau ablation in mice leads to pancreatic β cell dysfunction and glucose intolerance. *FASEB J.* 2018 Jun;32(6):3166-3173
- 3: Stull, N. D., Breite, A., McCarthy, R., Tersey, S. A., Mirmira, R. G. Mouse Islet of Langerhans Isolation using a Combination of Purified Collagenase and Neutral Protease. *J. Vis. Exp.* (67), e4137, doi:10.3791/4137 (2012).

自閉症発症の分子メカニズムの解明

和歌山県立医科大学 医学部 6年生 志風友規
医学部 3年生 松下絢華
指導教員 小森忠祐

【抄録】

自閉症スペクトラム障害 (autism spectrum disorder; ASD) は社会性・コミュニケーション機能の障害、活動と興味の限局、常同行動、及び知覚行動の異常を主症状とする精神疾患である。解剖学第二教室では、以前の研究で、免疫グロブリンスーパーファミリーの一種である Kin of irregular chiasm-like 3 (Kirrel3) の遺伝子欠損マウスが、社会認識障害、コミュニケーション障害、繰り返し行動、聴覚過敏などの ASD 様行動を示すことを明らかにした。しかしながら、Kirrel3 遺伝子欠損マウスが ASD 様行動を惹起するメカニズムは解明されていない。黒質 (substantia nigra: SN) 及び腹側被蓋野 (ventral tegmental area: VTA) におけるドーパミン (dopamine: DA) ニューロンからの神経経路の異常が ASD 様の行動を惹起することが示唆されていることから、今回、我々は SN および VTA の DA ニューロンにおける Kirrel3 の役割を推察するため、これらの領域における Kirrel3 の発現パターンを解析した。Kirrel3 は黒質緻密部 (SN compacta: SNc) の $34.4 \pm 3.2\%$ 、黒質網様部 (SN reticulata: SNr) の $27.0 \pm 4.9\%$ 、及び VTA の $29.2 \pm 2.0\%$ の細胞に発現していた。SNc および VTA において、ほとんどの Kirrel3 発現細胞は神経細胞のマーカーである NeuN 陽性であった。また、SNc では、ほとんどの Kirrel3 発現細胞は DA ニューロンのマーカーであるチロシン水酸化酵素 (tyrosine hydroxylase: TH) を発現していた。一方、VTA では Kirrel3 は TH 陽性の DA ニューロンと gamma-amino butyric acid (GABA) 陽性の介在ニューロンに発現していた。アストロサイトのマーカーである S100 およびミクログリアのマーカーである Iba-1 の発現は、Kirrel3 発現細胞には認められなかった。以上の結果より、Kirrel3 は SNc および VTA の DA ニューロン、及び VTA の GABA 陽性介在ニューロンに発現しており、これらの細胞における Kirrel3 の欠損が ASD 様の行動の原因となる可能性が示唆された。

【背景】

Kin of irregular chiasm-like 3 (Kirrel3) は、哺乳類における Kirrel 遺伝子ファミリーの一つであり、発生段階、及び成獣のマウスの神経系において高度に発現している (1, 2)。自閉症スペクトラム障害 (autism spectrum disorder: ASD) の患者において、Kirrel3 の遺伝子変異が認められている (3) ことから、Kirrel3 の異常と ASD との関連性が示唆されていた。解剖学第二教室では、以前の研究で Kirrel3 遺伝子欠損マウス (Kirrel3^{-/-}マウス) が、社会認識の欠如、コミュニケーション障害、繰り返し行動、聴覚過敏などの ASD 様の行

動を示すことを明らかにした(4)。しかしながら、Kirrel3の欠損がASD様行動を惹起する分子メカニズムは未だ不明である。

黒質(substantia nigra: SN)及び腹側被蓋野(ventral tegmental area: VTA)におけるドパミン(dopamine: DA)ニューロンは、黒質線条体路および中脳皮質路をそれぞれ形成する。ヒトにおける遺伝子解析では、DA受容体であるD1DRやD2DR、及びDA情報伝達効率を制御するリン酸化タンパク質であるDARPP32の遺伝子多型がASD患者に確認されている(5, 6)。また、マウスにおける研究では、SNにおけるDAトランスポーター(DAT)の発現を抑制することや、オプトジェネティクスを用いてSN領域の神経細胞を活性化させてDA機能を亢進させることにより、社会性の欠如や繰り返し行動などのASD様行動がみられる(7)。これらの研究より、SNやVTAにおけるDAニューロンの異常とASD様行動との関連性が示唆されている。

しかしながら、SN、及びVTAのDAニューロンにおけるKirrel3の機能は不明である。そこで今回、我々はKirrel3プロモーター下でlacZレポーター遺伝子が発現するノックインマウスを用いて、SN、及びVTAにおけるKirrel3の発現パターンを解析した。

【実験方法】

実験動物：本研究では、8-10週齢の雄性Kirrel3-LacZノックインマウス(4)を用いた。実験で用いたマウスは、12時間周期の明暗サイクル(明期：午前8時から午後8時まで)で管理し、温度 $23.0 \pm 2.0^{\circ}\text{C}$ 、湿度50~60%、食餌(MF;オリエンタル酵母、東京、日本)と水は自由に摂取できる環境にて飼育した。すべての実験は、和歌山県立医科大学動物実験委員会による審査・承認を受け、和歌山県立医科大学の動物実験のガイドラインを遵守して行った。また、環境省の実験動物の飼育及び保管並びに苦痛の経験に関する基準に則し、動物に対する負荷を軽減することに努めた。

組織採取：マウスにイソフルラン麻酔をかけ、経心的に生理食塩水を灌流した。その後ゼンボニ固定液(パラホルムアルデヒドとピクリン酸を終濃度がそれぞれ2%と0.2%になるように0.1M phosphate-buffered saline [PBS]に溶解したもの)を経心的に注入し、灌流固定を行った。その後、脳を採取し、上記の固定液を用いて 4°C で3時間浸漬固定した。浸漬固定後、脳を30%スクロース溶液(溶媒は0.1M PBS)にて脱水した。O.C.T.コンパウンド(サクラファインテック、Tokyo, Japan)で包埋し、ドライアイスを入れたn-ヘキサン中に沈めて固め、 -80°C で保存した。

蛍光免疫染色法：本研究で行った蛍光免疫染色法は、和歌山県立医科大学解剖学第二教室の小森らの方法(8)を参考にした。脳の凍結切片(厚さ $6\text{ }\mu\text{m}$)を作成し、10 mMのクエン酸緩衝液(pH6.0)を用いてマイクロウェーブによる抗原の賦活化を行った。5%の正常ロバ血清(Jackson ImmunoResearch, West Grove, USA)を含んだ0.1M PBSTにて室温で1時間イ

ンキュベートした後、1%ウシ血清アルブミンを含む 0.1M PBST で希釈した一次抗体溶液を用いて切片を 4℃で一晩インキュベートした。一次抗体は以下の希釈倍率で用いた。: ニワトリ抗 β -ガラクトシダーゼ (β -gal) 抗体 (1:1600; Abcam, Cambridge, UK)、マウス抗 NeuN 抗体 (1:400; Chemicon, Temecula, USA)、ウサギ抗 S-100 抗体 (1:50; Immunotech, Marseille, France)、ウサギ抗 Iba-1 抗体 (1:100; Wako Pure Chemical Industries, Osaka, Japan)、ヒツジ抗 TH 抗体 (1:200; Chemicon)、ウサギ抗 GABA 抗体 (1:400; Sigma, St Louis, USA)。翌日、PBST で洗浄し、0.1M PBST で希釈した二次抗体 (Jackson ImmunoResearch) で、室温で1時間インキュベートした。希釈倍率は、Cy2 でラベルされた二次抗体は 400 倍希釈、Cy3 でラベルされた二次抗体は 800 倍希釈で行った。切片は 4', 6-diamidino-2-phenylindole dihydrochloride (DAPI) で対比染色を行った。蛍光画像は、デジタル CCD カメラ (DP71; オリンパス, Tokyo, Japan) が取り付けられた落射蛍光顕微鏡 (BX50; オリンパス) を用いて取得した。

【結果】

今回用いたノックインマウスは、Kirrel3 プロモーター下で lacZ レポーター遺伝子が発現することから、このマウスの脳における β -gal の発現を検討することにより、Kirrel3 発現細胞を同定した。 β -gal 発現は、SNc の $34.4 \pm 3.2\%$ 、SNr の $27.0 \pm 4.9\%$ 、及び VTA の $29.2 \pm 2.0\%$ の細胞に認められた。また、ほとんどすべての β -gal 発現細胞はニューロンのマーカーである NeuN を発現していた。SNc において、ほとんどの β -gal 発現細胞は DA ニューロンのマーカーである TH を発現していたが、GABA 陽性の介在ニューロンのマーカーである GABA を発現していなかった。VTA においては、 β -gal 発現細胞は DA ニューロン、GABA 陽性介在ニューロンの両細胞に発現していた。アストロサイトのマーカーである S100、及びマイクログリアのマーカーである Iba-1 の発現は、 β -gal 発現細胞では認められなかった。

【まとめ】

Kirrel3 は SNc と VTA の DA ニューロンに発現しており、VTA では GABA 陽性の介在ニューロンにも発現していた。以上の結果より、Kirrel3 は SNc および VTA の DA ニューロンの発達において重要な役割を果たしている可能性が示唆された。また、これらの細胞における Kirrel3 の欠損が ASD 様行動を引き起こしている可能性が考えられるため、今後は、Kirrel3 遺伝子欠損マウスにおける DA ニューロンの解析を行うことで、ASD 様行動が惹起される分子メカニズムを解明していきたいと考えている。

【参考文献】

- (1) Tamura, S., et al. Expression of *mKirre*, a mammalian homolog of *Drosophila kirre*, in the developing and adult mouse brain. *Neuroscience* 133: 615-624, 2005.
- (2) Morikawa Y., et al. Expression of *mKirre* in the developing sensory pathways: its close apposition to nephrin-expressing cells. *Neuroscience* 150: 880-886, 2007.
- (3) De Rubeis S., et al. Synaptic, transcriptional and chromatin genes disrupted in autism. *Nature* 515: 209-215, 2014.
- (4) Hisaoka T., et al. Abnormal behaviours relevant to neurodevelopmental disorders in Kirrel3-knockout mice. *Sci. Rep.* 8: 1408, 2018.
- (5) Hettinger J.A. et al. A DRD1 haplotype is associated with risk for autism spectrum disorders in male-only affected sib-pair families. *Am. J. Med. Genet. B. Neuropsychiatr. Genet.* 147B: 628-636, 2008.
- (6) Hettinger J.A. et al. DRD2 and PPP1R1B (DARPP-32) polymorphisms independently confer increased risk for autism spectrum disorders and additively predict affected status in male-only affected sib-pair families. *Behav. Brain Funct.* 8: 19, 2012.
- (7) Lee Y., et al. Excessive D1 Dopamine Receptor Activation in the Dorsal Striatum Promotes Autistic-Like Behaviors. *Mol. Neurobiol.* 55: 5658-5671, 2018.
- (8) Komori T., et al. Oncostatin M is a potential agent for the treatment of obesity and related metabolic disorders: a study in mice. *Diabetologia* 58: 1868-1876, 2015.

【謝辞】

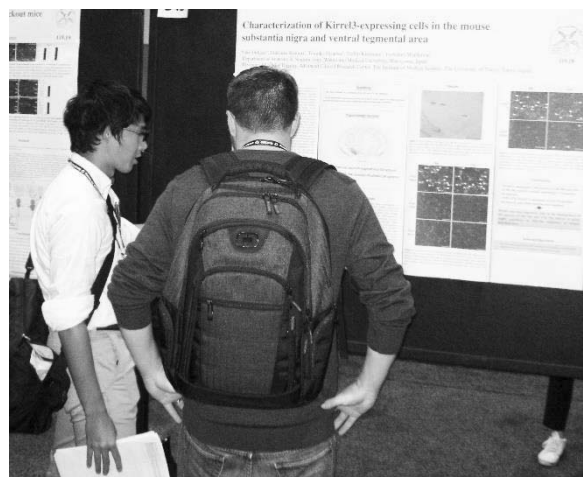
本研究は学生自主カリキュラム助成金を受けたものです。ご支援頂きましたことを心より感謝申し上げます。

(追記)

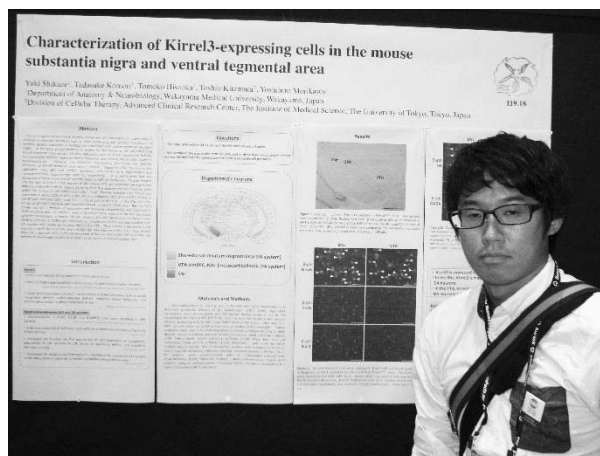
本研究の成果は平成30年11月3日～7日に米国カリフォルニア州サンディエゴで開催されました第48回北米神経科学学会において筆頭演者として発表することができました。いろいろとお世話になった小森忠祐講師、森川吉博教授、及び解剖学第二講座の皆様に深謝いたします。



学会場の入り口で解剖学第二講座の先生方と。



発表ポスターの前で。



質問に来た海外の研究者の方と discussion。



夕食後サンディエゴの町で小森先生と。

他職種連携理解と防災啓発 活動報告書

和歌山県立医科大学 医学部 4 年生 北林快
指導教員 加藤正哉先生

1. 活動の概要

11 月 11 日（土）に行われた日体大メディカルラリーに参加した。昨年、千里学生メディカルラリーでもチームを組んでいただいた東洋医療専門学校の学生とチームを編成した。各自、日頃の学びの復習を行った上で事前準備として 11 月 3 日（土）に堺市駅近辺にて勉強会を実施した。

防災啓発に向けた下敷きづくりは 4 月の前年度配布分から保健看護学部の先生方からもご意見をいただきながら Wakayama Will 内での検討を重ねて作成し、平成 31 年度入学生に配布した。

2. 参加学生

医学部 4 年 北林快（学生メディカルラリー）

医学部 2 年 谷地晃（防災下敷き）

医学部 2 年 刀祢拓斗（防災下敷き）

保健看護学部 3 年 浦佑歩（学生メディカルラリー）

保健看護学部 3 年 濱田和真（学生メディカルラリー）

3. 活動内容と感想

4 月当初毎年秋に行われていた千里学生メディカルラリーへの参加と昨年企画準備を行ったものの、実現かなわなかったキャンドル企画、H29 年度より行っている防災下敷きに向けて自主カリキュラムの準備、申請を行った。申請後、千里救命救急センターのホームページより今年度の学生メディカルラリーの実施がないことが判明した。また、活動を通して当初予定していたほどに学生が計画を進められず、キャンドル企画は没することになってしまった。例年以上に期限が短かったこともあり、申請時点での準備検討が不十分であったことは否めない。期待してこの自主カリキュラムを通していただいた皆様にこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

しかし、学生メディカルラリーについては毎年3月に行われている学生メディカルラリーに加えて今年度は日体大メディカルラリーが開催されることが分かった。和歌山からの距離は離れて参加が難しいように思うものの少なくともこのどちらか一方に参加しようと決めた。

学生メディカルラリー



写真1 ラリー中資器材の確認中

ジや外傷初期評価など学生レベルでも確実に体得することが求められる分野について理解を深めた。

11月3日（土）に実施した事前勉強会では初対面であることもあり、アイスブレイクとしてこれまでのラリーへの参加歴や今大会への意気込みをまず確認した。お互いに自身が学んできた内容について共有し、自身が所属する専攻以外では日頃どのように学んでおり、実習でどういったことをやっているのか把握した。この事前勉強会は医学生にとっては看護や救急救命の学生たちが、保健看護学生には医や救命救急の学生がどの視点でどういったことを学んでいるのかをほぼ初めて知る機会となり、想像以上に難しいことを学んでいたたり、実臨床に即した内容を学んでいたりするなど驚きの連続であった。日頃の学び方からも想定されうるシナリオに対してそれぞれの専門性を活かして何を託し、何を自分がより主体的に行うかを話し合った。この議論は白熱し、非常に楽しいものであった。

11月11日（日）大会当日は現地にて待ち合わせた。今ラリーでは5つのステーションが設定されていた。各ステーションのシナリオでは医療系学生としてまずは押さえておきたい手技の確認から、体育大学の広大な敷地を活用したシナリオまでレベルも幅広く、自分自身の学びの未熟さやチームメイトの活躍からもっと頑張っていこうと思えるようになっていた。今大会には全国から10

8月に日体大メディカルラリーの開催を確認し、参加する意欲のある学生で当日の予定が合うメンバーを集めた。本学からは3人が参加し、東洋医療学校から4人の参加意思を確認した。9月の台風災害により順調とはいかないものの事前に各自で自習した。自習内容については医学生は医学的な視点、保健看護学生は保健学、看護学的な視点を重視した。以前に受けた講義内容に始まり、JPTEC

やJATEC、JNTECの概念を俯瞰し、トリアー



写真2 個人スキルの評価表と和医大参加者

チームが参加し、5位という結果であった。ST4の「焼肉パラダイス」ではステーション1位を獲得し貢献できていた。

防災下敷き

一昨年より実施している防災下敷きの作成、配布を行った。事前に保健看護学部の柳川先生より、例年配布している下敷きについての注意や要望を受けた。本年度は6月に大阪北部地震、7月に西日本豪雨、9月に台風災害があり、防災について意識する機会が多かった。こういった身近な機会を踏まえて修正内容の検討を行ったが、昨年までの下敷きに対して中身の具体的な修正にまでは至らなかった。4月新入生の新入生研修に合わせて和歌山県や和歌山市の災害リスクも交えて配布し防災意識の醸成を図った。

4. 全体の振り返り

似た名目において中身は全く異なるテーマの自主カリキュラムを今年度は申請した。これらはWakayama Will設立時の理念である災害時に学生であっても何かできることをという学生の思いと、学年が上がり実習を経験して卒業、プロの医療者を目指す過程のちょうど中間点における橋渡しとなる機会であった。講義や実習の中で「災害」という点にフォーカスを充てた内容に触れる機会は少なく、手探りながらも自分たちには何ができるのかをよく考える機会となった。学生メディカルラーの分野は特に関東と関西の間での温度差が大きいところであり、今後も継続して力をつけていきたい。

東日本大震災被災地での復興ボランティアと災害医療学習

和歌山県立医科大学医学部 2 年

刀祢拓斗

指導教員 加藤正哉先生

1. 活動概要

和歌山県立医科大学学生災害ボランティアグループ Wakayama Will の 9 名は、奈良県立医科大学学生災害ボランティアグループ NARA Will の 11 名とともに、平成 30 年 8 月 21 日（火）～24 日（金）に、福島、宮城県内の被災地を訪れ、現地視察やボランティア活動、災害医療の講演の受講を行った。発災から 7 年半経った被災地の現状の理解を深めること、また被災された現地の医療関係者との交流を通して、災害時の医療者の対応について考えを深めることを目的として、活動を行った。現地での活動前に、東日本大震災について改めて学び、また放射線についての知識を得た。1 日の活動の後には、メンバーの中で 1 日を振り返り、意見を交換することで考えを深め合った。

2. 主な活動

21 日（火）

午前：石巻赤十字病院での講演（石巻市）

午後：石巻赤十字病院職員の方の案内で被災地視察（石巻市・女川町）

22 日（水）

午前：帰宅困難区域の視察（浪江町・双葉町・大熊町・富岡町）

午後：南相馬市観光ボランティアガイドの方の案内で被災地視察（南相馬市）

23 日（木）

日中：力仕事ボランティア活動（南相馬市小高区）

夕方：南相馬市立総合病院院長及川先生による講演

24 日（金）

日中：サポートセンターでの傾聴ボランティア活動（南相馬市鹿島区）

3. 本学参加学生

北林快（医 4）、小山翼（医 4）、崎山智基（医 4）、刀祢拓斗（医 2）、石田遥菜（保看 1）、岩本優香（保看 1）、宇良優華（保看 1）、中迫日美子（保看 1）、松尾呼春（保看 1）

4. 石巻赤十字病院での講演と施設見学

講演では、東日本大震災時と熊本地震時の災害対応をテーマに講演をしていただいた。東日本大震災では、宮城県沖地震の発生確率が「30 年以内に 99%の確率で宮城県沖地震が発生する」と非常に高く予想されていたのもあり、職員全員が災害時の対応を意識されていた。記録の動画を撮る役割も決められており、発災直後からの対応を動画で知ることができた。防災訓練では、病院内のコンビニやカフェの店員まで災害時の対応が把握できるようにされていたこと、また毎年テーマを変えて防災訓練が行っていたことによって、緊急時でも職員全員が自分の役割を臨機応変に対応できていると感じた。また災害時には医療従事者は医療従事者であるとともに被災者でもある。石巻赤十字病院では、仕事を継続、開始できるかの判断は職員に任せられており、職員の心身のケアも心がけられていた。

熊本地震の時、医師や看護師派遣で心がけたのは、現地の人々に迷惑をかけないことと伺ったのも心に残った。食べ物だけでなく使用する電気さえも持っていったということを知り、派遣として災害医療を行う際の行動規範を知ることができた。



写真 1 石巻赤十字病院での講演



写真 2 石巻市門脇の現在

5. 石巻市・女川町での視察

石巻赤十字病院職員の方の案内をしていただき、被災地視察を行った。石巻市門脇では、大津波が家々を全て押し流し、同時に発生した津波火災が街を焼き尽くした。震災後からこの地域は、災害危険区域として居住できない地域となっている。

女川町は山に囲まれた地形となっているため、津波が 20 メートルもの高さにせり上がり、町を襲った。女川地域医療センターでは震災直後は一面瓦礫に覆われ、建物の多くも壊されていたが、現在では綺麗「震災の記憶と

記録」というテーマでパネル展示が行われており、当時の様子を知ることができた。女川駅周辺は、麗に整備されていた。今回訪れた時には、人があまりいなかったもので、これからの課題として、より町の魅力を発信していくことが必要だと考えた。土地のかさ上げと整地は現在も行われており、次の地震に対して対策されている様子も確認できた。



写真3 女川町での復興の様子

6. 帰還困難区域の視察

平成29年9月20日に開通した、国道114号、国道6号を通り、帰還困難区域の視察を行った。帰還困難区域の近くから、「除去土壌運搬車」と書かれたトラックが何台も見られ、まだ除染作業が毎日のように行われていることを知った。帰還困難区域では、放射線量が高いため、自転車、原付、歩行者の侵入は禁止で、自動車のみ通行可能である。そのため、震災が起きてからそのままの場所が数多く残っており、草は無造作に伸びており、人の住んでいた様子が全くなかった。また駐車場や分かれ道にはバリケードが設置されており、防犯の対策がなされていた。汚染土の仮置場も多く見られ、現在も増え続けている大量の汚染土を最終的にどこに置くかが問題となっている。



写真4 帰還困難区域の様子



写真5 汚染土仮置き場

7. 南相馬市観光ボランティアガイド語り部の方と視察

実際に東日本大震災を体験された方からお話を聞き、当時の様子をより鮮明に知ることができた。稲は昨年まで家畜の餌として利用されていたが、土をすべて入れ替えて今年から食用として生産されていると話されていた。やはり復興には時間がかかることを感じた。結婚式の会場も震災後は年に数回しか結婚式が行われず、若者が少なくなっていると話されていたのが印象的だった。地域を活性化させるためには若い人の力が必要になると

思うが、他の地域とは違い呼び込むのが難しいと感じた。まだまだ完全復興には課題が多いと感じたが、まず私たちが放射線について正しい知識を持つことが重要だと考えた。

8. 南相馬市での力仕事ボランティア活動

南相馬市ボランティア活動センターで、ともに活動するボランティアの方と顔合わせをし、事前の説明や注意を受けた。家の裏の竹を切ってほしいという依頼のもと、竹の伐採を行った。腐った竹が倒れて、家の中の家財や位牌が壊れないようにするための活動と伺った。すぐに住むためのボランティアだけでなく、長期的な視点でのボランティアが多く求められていると感じた。また発災から7年半が経ち、避難指示が解除されてから2年以上経っているが、未だ自分の家に帰ることができない現実を知った。私たち20人を含む、総勢23人で休憩を含めて、6時間ほど作業を行って、20本の竹を伐採し、家の周辺の竹は伐採することができた。継続してボランティアをなされている人もいるが、人手がまだたくさん必要であることを感じた。実際に力仕事ボランティアを行い、課題もあったが、行う上で大切な、挨拶、声かけ、準備といったことを学ぶことができた。

9. 南相馬市立総合病院での講演

東日本大震災の当時の状況と病院の対応、震災による健康への影響について、当時南相馬市立総合病院副院長で、現在院長の及川友好先生に講演をしていただいた。南相馬市立総合病院は海岸から約3km、原発から約23kmに位置しており、震災時は津波と放射線の両方の影響を受けた。発災から15日の屋内退避指示、3月18日の避難指示があり、18日の時点での入院患者は142人を3日間で搬送し終え、3月20日の夜には入院患者が0人になったと話されていた。

原発事故発生時、南相馬市立総合病院では、病院に残るか避難するかの判断は、自己判断とされていた。15日までには、正職員のほか、嘱託職員、臨時職員、契約職員の約3分の2が避難し、特に、医事、給食、清掃、守衛の契約職員は全員が避難したため、皆で食事を作り、配膳し、清掃、守衛などの仕事もしていたという話を聞き、驚いた。及川先生は、「みんなが東日本大震災と同じ状況で医師として病院にいた場合、避難するか、病院に残るか」と質問され、自分だったらと想像してみるとどうしただろうかと、とても悩んだ。病院に残るという人も避難するという人も、同程度いたのだが、実際にそういった状況になればまたどうなるかわからないと思う。及川先生は、本当は避難したかったが、

当時副院長という立場もあり病院に残るという決断をしたと話されていた。今回災害時の医療者としての対応を真剣に考えることで、医師として病院に残るためには、災害への対策や家族の安否確認といった準備を万全にしておかなければならないことを実感することができた。また医師という職業は周りの人から信頼されている職業であり、実際に東日本大震災時に放射線の問題が心配されているなかで、町の医師が避難したら町のほとんどの人が避難したということが



写真 6 南相馬市立総合病院での講演

あったと話されていた。医療者は周りの人に大きな影響を与える存在であるから、日頃から責任を持って行動し、災害時には冷静な判断をしなければならないと感じた。

10. サポートセンターでの傾聴ボランティア活動

南相馬市鹿島区のサポートセンター希望で傾聴活動ボランティアを行った。去年も来たことを覚えてくれている利用者さんもおられ、被災された利用者さんの少しでも心の支えになっているのかと思い、嬉しく感じた。

午前中はアロママッサージや血圧測定をしながら、学生がそれぞれ利用者の方とお話をした。震災の話を明るく話されている方もいれば、あまり思い出したくないと言われている方もいた。利用者さんは全員辛い経験をされているので、心の機微に注意することが必要だと感じた。午後は学生が用意した、クイズ大会と、昭和懐かしビンゴ大会を行った。



お話ししている時やレクリエーションの時には笑顔で楽しんでいるのがよく見られ、またお別れの際にも「楽しかった」と言ってくださり、被災地での傾聴ボランティア活動の意義を感じた。

写真 7 サポートケアセンターでの利用者の方と一緒に体操をしている様子

11. 全体の振り返り

今回の活動では宮城と福島 の 2 つの県を視察することができ、津波による被災と放射線による被災を比較して、考えることができた。津波による被災は、復興が進んでいるところも多いが、まだまだ震災の爪痕が残っている様子を視察することができた。放射線によ

る被災では、やっと復興が始まったところや帰還困難区域のようにまだまだ復興が始まっていないところを視察し、発災から7年半経った被災地の現状を知ることができた。これから放射線や汚染土、汚染水、また避難者が未だ58,000人いるという問題に対して、私たちは真剣に考えていかなければならないと感じた。

また宮城、福島多くの場所で、東日本大震災からの教訓を伝えるための展示が行われており、当時の様子をよりリアルに学ぶことができた。私たちも今回学んだ災害の恐ろしさを忘れずに記憶し、被災地の教訓と現状を多くの人に伝えることが重要である。

災害医療に関しては、石巻赤十字病院と南相馬市立総合病院の2つの病院で講演を受けて、災害時の病院の状況や対応を学ぶことができた。南海トラフも30年以内発生確率が70～80%だと言われている。私たちは近い将来必ず起こることを意識して、現実の問題として準備、訓練することが重要であることを学んだ。

ボランティアでは、今回力仕事ボランティアと傾聴ボランティアを行ったが、それぞれ課題もあったので、これからの活動のための反省点にし、努力していきたい。

第 50 回日本医学教育学会大会学生セッション参加報告

和歌山県立医科大学 医学部 4 回生

大澤 佑季 高島 わかな

指導教員 北野 尚美

【目的】

第 50 回日本医学教育学会大会における学生セッションの場を利用して、基礎配属で得られた成果を何らかの形で整理し、発表することを第一の目的とする。学会での発表や、それに向けた準備をする中で、普段の学生生活で得ることの出来ない、経験や技能を身に着けることが出来ると考えられる。

また、専門家の講演を聴くことで見識を深められる点や、他大学の学生と交流する機会となる点においても、自主カリキュラムの一環として学会に参加する意義がある。

【方法】

- ・ 日程 2018 年 8 月 3 日（金）－4 日（土）
- ・ 参加学会 第 50 回日本医学教育学会
- ・ 開催場所 国立大学法人 東京医科歯科大学
- ・ 発表部門 学生セッション
- ・ 発表カテゴリー 大澤 佑季：医師・歯科医師教育/卒前教育基礎/多職種連携教育(IPE)
高島 わかな：医師・歯科医師教育/卒前教育基礎/地域医療教育(卒前)

【感想・まとめ】

（大澤 佑季）

- ・ 学会発表に向けての準備・プロセスについて

発表内容について、昨年度の基礎配属内容を振り返り、文章化及び図式化を行った。感覚的に曖昧な考えは事前から持っていたが、今回改めて文章化することで考えを整理、明確化することで自分の意見として精製することが出来た。

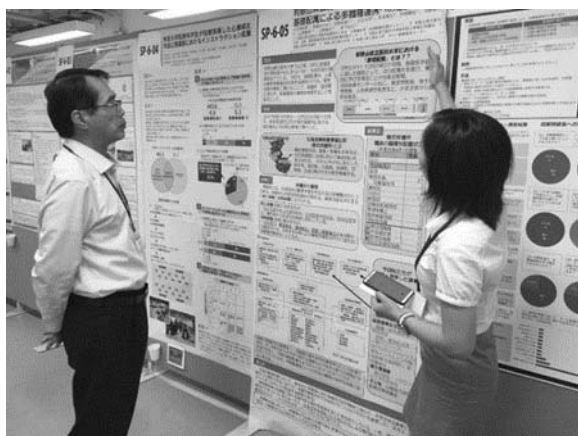
学会に参加するにあたって、抄録の作成からポスターの作成、規定時間内でどのように発表するか、質疑に対する応答の仕方など、基礎的なことから学ぶこととなった。これは、一度学会を参加した者にとっては当然の知識なのだろうが、特に講義のような形で学ぶこともなく、全てが初めての自分にとっては 1 から学ぶことばかりだった。実際に発表に用いたポスターの縮小を、図 1 に示す。

学生時代に学会に参加することによって、比較的時間に余裕のある範囲で、そのような所謂作法を自分の手で調べ実践することで、より学会というものを身近に感じ参加する意欲を掻き立てられるように感じた。

・学生時代に学会で発表するという経験の意義

発表前後のポスター掲載時間中に同じく発表予定の他大学の学生と交流することが出来た。ポスター内容はもちろん、ポスター内に書ききれなかった研究背景や本人の考えを聞くことが出来たのみならず、自身が通う大学についての話を聞くことが出来た。

特に興味深かったのが、本校における基礎配属のように一定期間基礎研究と関わることの出来る期間の存在についての是非である。そのような期間を設けていない大学が多く、そのような期間を利用してみたいという意見もある一方で、興味のない学生にとっては学びの薄い期間になるのでは、という学生同士ならではの率直な意見を聞くことが出来た。多く



は、1-2 週間、実習のような形式で課題をこなし、更に興味を持った学生は個人的に教室に通う、という体制を取っている大学が多いように感じた。

また、学会に参加している学生と話をすることで、注意してはいるもののどうしても視野が狭くなりがちな自身に気が付くことが出来、勉学を受動的に行うのではなく、主体的に課題を考える学生の姿勢に刺激された。

(高島 わかな)

・学会発表に向けての準備・プロセスについて

学生セッションに参加するにあたり、基礎配属での経験をどのような視点から述べ、どのようなことに焦点を当てた内容にするかという点に悩んだ。約 1 か月半の間に経験した内容を、与えられた発表時間である 4 分間の中に収めるためには、伝えたい事柄を明確に絞る必要があったが、そのテーマが考察対象として十分でなければ、内容の薄い発表になってしまうからだ。

大学の授業における発表と、学会での発表の違いとして、後者には内容や形式についてある程度の自由があるという点が挙げられる。授業における発表は、そのテーマや内容、形式に至るまで、教員から指定されていることが多いのに対して、今回の学会発表は、複数あるテーマの何れかに当てはまっていれば、基本的な形式は決められているとはいえ、その内容は発表者に任される。つまり、発表における発表者個人の能力が問われる上、発表内容に対する評価も学内で行うものより厳しいものになる。また、学外で発表するということは、個人に対する評価としてだけでなく、所属する大学に対する評価にもつながる。さらに、私達は自主カリキュラムの一環として学会に参加したため、そこに成果や貢献を期待されているという意味合いも含まれているのである。

そこで私は、医学教育をテーマとする学会であったため、長期にわたる実習としての、基礎配属の教育的利点について発表することにした。そこから、大まかな方向性として、フィールドワークを中心に行うという、配属先の特徴を合わせて、3回生までに行われた短期実習（早期体験実習および地域医療実習）と基礎配属を比較する、という形式で発表するという考えに至った。

抄録を作成した時点では、「基礎配属における長期にわたるフィールドワークは、学生と指導者側の両方に意識向上をもたらし、内容のさらなる充実につながる」という所で、考察を終えていたため、そこから学会発表に足る内容に発展させるためには、内容をさらに深く練り直す必要があった。その過程で、同じセクションで発表することが決定していた、他大学の発表者による抄録は、大いに刺激になった。同年代の学生が、関心を持っている事柄について、どのような発想と視点から発表をするのかということは、自分の考察の幅を広げるきっかけとなった。最終的に、「学生が配属先を複数の中から選択できる」とことと、基礎配属が「長期間の実習である」という二つの要因に焦点を当て、考察を行った。この二つの要因が合わさり、さらにフィールドワーク独自の利点に加わることで、学生に「意識変化」が生じ、それが実習を受ける側と指導者側の両方の「意識向上」につながるという一連の流れでまとめることにした。

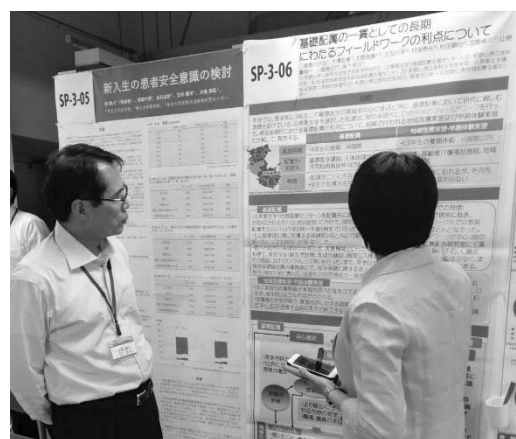
発表用ポスターを作成するにあたって、内容を限られたスペース内に収め、考察を述べるための前提となる、基礎配属についての知識が全くない相手に対し、どれだけの説明を組み込めるかという点に苦労した。その他、結果をどのようにして視覚的に分かり易く表現出来るか、という点に注意した。実際に発表で使用したポスターの縮小を図2に示す。

また、4分間で用意していった内容を全て説明することは不可能であり、聞き手に最低限これだけは伝えたいという要点を、無駄なくまとめることは予想以上に難しい作業だった。というのも、大学の授業における発表では、前知識を共有している学生相手に、ある程度時間的余裕をもって説明する機会の方が多かったからである。この点においても、学会で発表するということは、今までにない経験となった。

・学生時代に学会で発表するという経験の意義

当日は、発表までに時間があつたため、何人か他大学の学生と話をすることがあった。お互いにポスターの説明をし合い、疑問点や研究に対する感想を述べ合った他、その研究をするに至った経緯や、苦労または工夫した点、もっとこうしたかったといった改善点等についても話すことが出来た。

また、相手の研究について以外に、他大学での取り組みや学生の特徴、カリキュラムの違いと



いったことも知ることが出来た。部活動等の課外活動を介してではなく、学会という学術的な場において、向上心や意欲が比較的高いであろう他大学の学生と交流する機会は、積極的に望まなければ得られるものではない。さらに、それによって得られる刺激や知識も異なるように思われた。また、医学部に関わらず、他の医療系学部や工学部系学部から参加した学生も多く、そういった学生達から、普段接することのない分野について説明をしてもらえたことや、医療に対する貢献のあり方・考え方を学べたことは、より特別な経験となった。

今回参加した学生セッションは、少人数のセッションに分かれて行われ、セッションごとに類似したテーマの発表が集められていた。発表後に質疑応答が行われたが、他大学の教員からの質問が多く、学生同士でのやり取りはなかった。教員が質問する中で、自身の疑問を発言することが出来なかった点は、学生セッションにおける反省点の一つである。事前の空き時間に話をした発表者は少数であったため、もう少し多くの人と話が出来ていればより良かったと感じた。

その他の発表内容としては、大学独自の取り組みや自身の留学経験等についての報告、学生を対象に行ったアンケート調査をもとに、学生の意欲や実習の効果について解析するといった調査報告等があった。私が行った実習報告は、調査研究によって示された知見と比較して、より広い視野からの包括的な概念を提示したという点と、個人のより具体的な見解について報告したという点において意味があったと感じた。

・一般の学会に参加したことから得られた経験

学会開催中に、専門家による講演を聴くことが出来たという点も、学会に参加して得られた成果の一つである。今回参加した学会は、様々な分野の研究者や医師等も参加しており、講演・発表の分野も多岐にわたったため、興味を持つことの出来る内容もいくつかあった。現在、注目或いは問題となっている最新のテーマや研究について知ることが出来た他、専門家同士または地域の開業医による質疑応答から、今後の医療・医学界における現状と課題を学ぶことが出来た。

【謝辞】

自主カリキュラムの一環として、学会参加及び学生セッションにおける発表という貴重な機会を頂いたことに感謝申し上げます。今回得られた経験や知識を、以降の学生生活及び将来に活かすことが出来るよう、今後とも励んでまいります。

活動の申請を許可して下さい上、学会発表にあたって助言を頂きましたこと、宮下和久学長には、深く感謝いたします。

土生川洋保健所所長には、和歌山県御坊保健所を実習先として提供して下さい、本当にありがとうございました。基礎配属での経験がなければ、学会発表という貴重な機会は得られませんでした。

また、このような機会を提示し、最後まで熱心にご指導下さいました北野尚美先生には、

心からお礼申し上げます。

尚、発表にあたり、御助力下さった村垣泰光先生、村田顕也先生、羽野卓三先生、山野貴司先生、上野雅巳先生にお礼申し上げます。



図1 発表用ポスター（大澤 佑季）

基礎配属の一貫としての長期にわたるフィールドワークの利点について

○高島わかな¹⁾、大澤佑季²⁾、北野尚美^{3,4)}、土生川洋⁵⁾、村田泰光⁶⁾、村田顕也⁷⁾、羽野卓三⁸⁾、山野真司⁹⁾、上野雅巳¹⁰⁾、宮下和久¹¹⁾
 1) 和歌山県立医科大学医学部医学科4年生 公衆衛生学(地域医療支援センター)、2) 和歌山県立医科大学 地域・国際医療推進本部地域医療支援センター、3) 和歌山県立医科大学医学部 公衆衛生学講座、4) 和歌山県御坊保健所、5) 和歌山県立医科大学みらい推進センター、6) 和歌山県地域医療支援センター

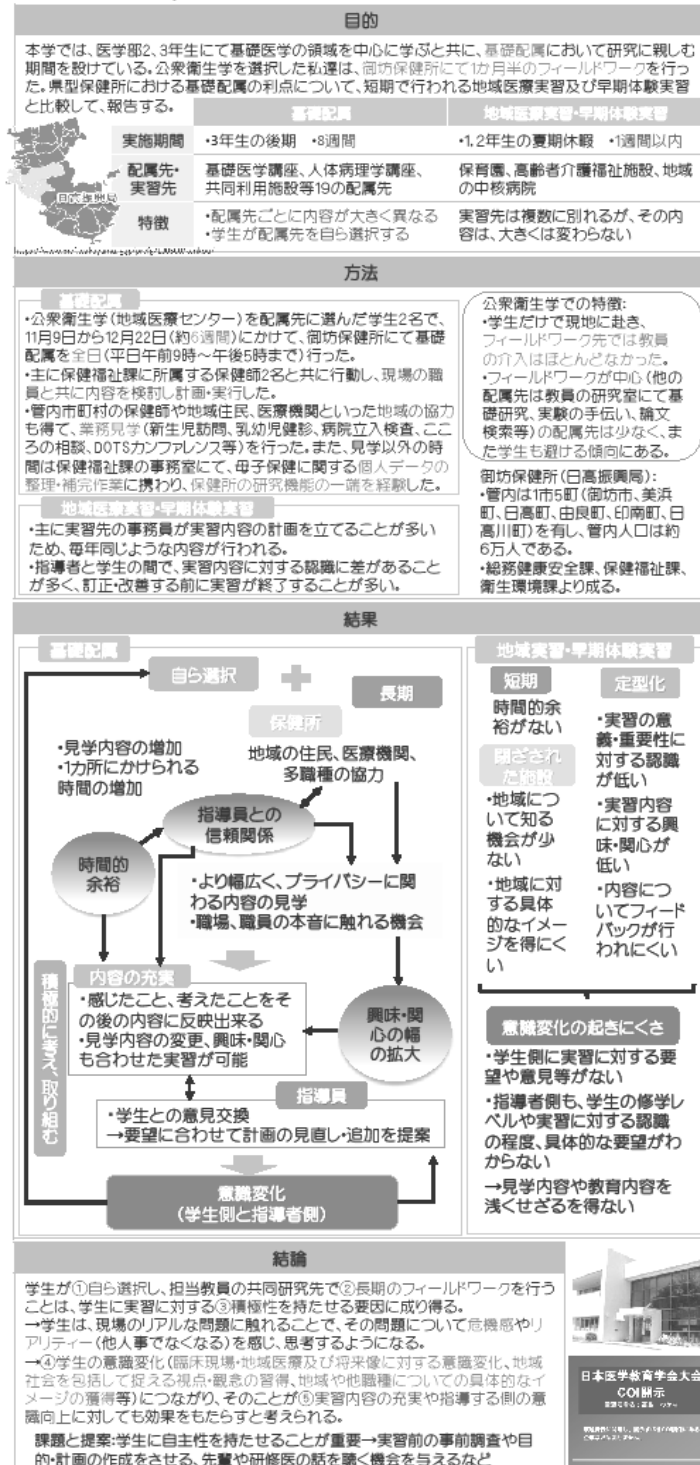


図2 発表用ポスター(高島わかな)

平成30年度事業実績

保健看護学部

開催した委員会一覧

入試制度検討委員会

第1回

開催日時：平成30年4月11日（水） 17：00

- 議 事： 1. 副委員長の選出について
2. 平成31年度入試日程について

第2回

開催日時：平成30年8月3日（金） 16：00

- 議 事： 1. 保健看護学部入学試験の問題及び解答の公表について
2. 平成33年度保健看護学部入学者選抜試験改革について

第3回

開催日時：平成30年10月24日（水） 17：30

- 議 事： 1. 保健看護学部入学試験の問題及び解答の公表について
2. 平成33年度保健看護学部入学者選抜試験改革について

第4回

開催日時：平成31年1月11日（金） 16：30

- 議 事： 1. 保健看護学部入学試験の問題及び解答の公表について
2. 平成33年度保健看護学部入学者選抜試験改革について

FD委員会

第1回

開催日時：平成30年5月16日（水） 13：00

- 議 事： 1. 副委員長の選出について
2. 平成30年度年度計画について

第2回

開催日時：平成30年6月20日（水） 13：00

- 議 事： 1. 平成30年度計画について
2. 特別講義について

第3回

開催日時：平成30年7月18日（水） 13：00

- 議 事： 1. 平成30年度年度計画について
2. 9月のFDカンファレンスについて

第4回

開催日時：平成30年9月19日（水） 17：05

議 事：10月のFDカンファレンスについて

第5回

開催日時：平成30年10月3日（水） 14：15

議 事：第5回FDカンファレンスのふりかえり

第6回

開催日時：平成30年11月7日（水） 14：15

議 事：第6回FDカンファレンスのふりかえり

第7回

開催日時：平成30年12月5日（水） 14：15

議 事：第7回FDカンファレンスのふりかえり

第8回

開催日時：平成31年3月12日（火） 17：00

議 事：平成30年度FDアンケート集計結果について

FD委員会名簿

委 員 長—柳川 敏彦

副委員長—山口 雅子

委 員—井上 みゆき、水越 正人、宮井 信行、山田 忍、中島 珠生、那須井 信夫

開催したFD一覧

第1回

開催日時：平成30年5月2日（水） 13：00

演 題：退院後の小児がん患児の在宅療養における母親の体験

演 者：保健看護学部 講師 岡本光代

参加者数：教員38名

第2回

開催日時：平成30年6月6日（水） 13：00

演 題：看護キャリア開発センターについて

演 者：看護キャリア開発センター 角谷知恵美 看護部長
芝瀧ひろみ 副センター長
武用 百子 副センター長

参加者数：教員36名

第3回

開催日時：平成30年7月4日（水） 13：00

演 題：科研費の執行に関する説明

演 者：研究推進課 主事 田村 麻友

参加者数：教員39名

第4回

開催日時：平成30年9月19日（水） 13：00

演 題：How to get 科研費

演 者：保健看護学部 教授 柳川敏彦、研究推進課 主事 田村 麻友

参加者数：教員37名

第5回

開催日時：平成30年10月3日（水） 13：00

演 題：グループディスカッション「主体的に学べる授業設計とは」

演 者：なし（グループディスカッション実施）

参加者数：教員36名

第6回

開催日時：平成30年11月7日（水） 13：00

演 題：主体的に学べる授業設計とは（実践編）

演 者：保健看護学部 教授 井上みゆき

参加者数：教員35名

第7回

開催日時：平成30年12月5日（水）13：00

演 題：主体的に学べる授業設計とは（模擬講義）

演 者：保健看護学部 教授 水越正人

参加者数：教員33名

第8回

開催日時：平成31年2月6日（水）13：00

演 題：保健看護学部等の運営について

演 者：保健看護学部 教授 柳川敏彦

参加者数：教員37名

第9回

開催日時：平成31年3月20日（水）13：00

演 題：FD活動に関するアンケート結果について

演 者：保健看護学部 教授 山口雅子

参加者数：教員37名

FD特別講演会一覧

第1回

開催日時：平成31年1月23日（水）13：00

演 題：大学教育を考える

演 者：立命館大学 教育開発推進機構 教授 沖裕貴

参加者数：教員41名

発 行 し た 冊 子

保健看護学部では、平成30年度に以下の1冊の冊子を発行しました。

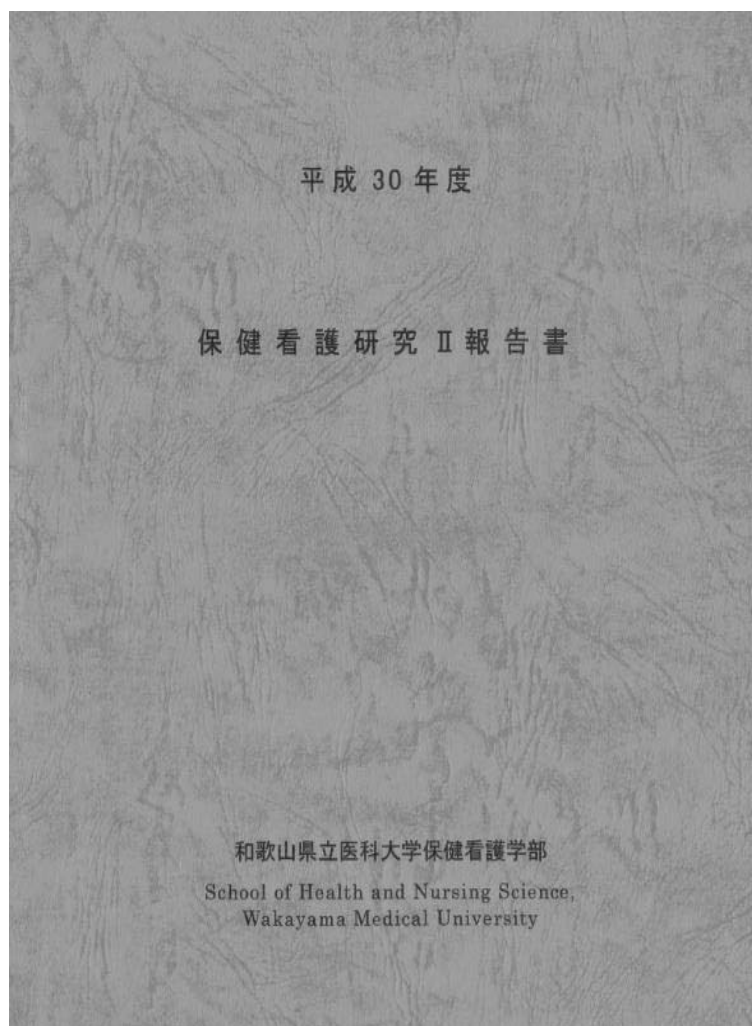
平成30年度保健看護研究Ⅱ報告書

平成30年度4年生による保健看護研究Ⅱの報告書（19編）です。

発行年月:平成31年3月

編 集:和歌山県立医科大学保健看護学部

発 行 者:和歌山県立医科大学保健看護学部



保健看護研究Ⅱ報告書は、平成16年の4年制大学への移行以来、毎年刊行されています。

平成30年報告書は、保健看護学部第12期生がほぼ1年間かけて取り組んだ報告書・論文を取りまとめたものであります。研究の過程において、自ら感じた疑問や問題をこれまで学んだ知識を活かして論理的な思考で解決方法を考えること、あるいは自ら主体的に取り組んでいることがわかる報告書です。

平成30年度学生自主カリキュラムの取組

「妊娠、出産に関わる女性(母、助産師)の

神の信仰について」を学ぶ

和歌山県立医科大学 保健看護学部 4年生

上西宥好 尾榮弥恵

指導教員：山口雅子先生

○目的

将来、医療職者として周産期に関わるものとして、古来から現在に至るまで続く、安産を願う人々の思いを知りたいと思ったため

○方法

実際に神社やお寺を訪問して、参拝者や住職の方々へのインタビューを通じて、神社やお寺の由来や、参拝者はどのような思いでここを選び、参拝しているのかを調査した。また、今回訪問した、高忍日賣神社は全国で唯一の産婆・乳母の祖神であり、助産師からも崇敬を集めていることから、母と助産師の思いの違い等についても調査した。

○結果

1. 高忍日賣神社(愛媛県)

安産、子育て、縁結び、厄除けを中心として信仰を集めており、特に全国の助産師からは、厚く崇敬されている。



神社の由来は、大昔に天孫瓊杵尊の子ども 日子穗穗手見尊が、海神の娘・豊玉毘売命と結婚され、船で海を渡るとき、豊玉毘売命が急に産気づいて、近くの海岸でお産をすることになった。急いで産屋を建てようと鵜茅という植物で産屋をふき、その中でお産をすることになったが、蟹が沢山這い上がって来て大変な難産となった。その時、一心に「高忍日賣大神」と念じると、高忍日賣大神が現れ天忍日女命、天忍人命、天忍男命の三柱の神をつかわせた。天忍日女命は産屋の中で産婆としてお産を助け、天忍人命、天忍男命は簀を作って這い上がる蟹を掃き飛ばし、未だ産屋も葺き上がらないうちに、安産で無事元気な子どもを出産された。このことから、高忍日賣大神を祀っているため、助産師の祖神としての神社となった。



毎年、3月8日は「産婆」をかけて母子と助産師の日とされ、母子と助産師の碑が平成24年に設置された。平成25年3月からは、安産福運大祭がこの神社で開催され、出産、育児相談やシンポジウムが開かれている。神社には全国から助産師さんや母親、学生も訪れる。

この神社には、「すべての母と子、家族に寄り添い、安心、安全なお産ができる助産師でありたい」と願う助産師や「元気にすくすく大きく育ってくれますように」と願う母親、「助産師になれますように」といった学生の願いが絵馬に書かれていた。

助産師だけでなく、母親や助産学生にも厚く信仰されていることがわかりました。

2、石手寺(愛媛県)

石手寺の前身は680年ごろ奈良・法隆寺系列の荘園を基盤として建てられたといわれている。「石手寺」と改称したのは、寺伝によれば、728年に伊予国の太守、越智玉純が夢によってこの地を霊地と悟り熊野十二社権現を祀った。これは聖武天皇の勅願所となり、729年に行基が薬師如来を刻んで本尊として安置して開基したといわれている。創建当時の寺名は安養寺、宗派は法相宗であったが、813年に空海が訪れ、真言宗に改められた。

また、892年衛門三郎再来の伝説によって石手寺と改められた。

ある時、三郎の門前にみすばらしい身なりの僧が現れた。三郎は追い返したが、毎日その僧は現れた。8日目、三郎は僧が捧げていた鉢をほうきでたたき落とし、鉢は8つに割れ、そして、僧も姿を消した。実はこの僧は空海だった。三郎には8人の子がいたが、その時から毎年1人ずつ子が亡くなり、8年目には皆亡くなってしまった。三郎は懺悔の気持ちから、空海を追い求めて四国巡礼の旅に出た。その後、死期が迫りつつあった三郎の前に空海が現れたところ、三郎は今までの非を泣いて詫び、望みはあるかとの問いかけに来世には河野家に生まれ変わり人の役に立ちたいと願った。翌年、伊予国の領主の長男の手には、「衛門三郎」と書いた石が握りしめられて生まれてきた。

訶梨帝母天堂には鬼子母神を祀っており、安産祈願の信仰を集めている。鬼子母神とは、人間の子を捕えて食べ、多くの人間から恐れられていた女が、半狂乱となって世界中を7日間駆け抜け探し回ったが、発見するには至らず、助けを求めて釈迦に縋ることとなる。そこで釈迦は、「多くの子を持ちながら一人を失っただけでお前はそれだけ嘆き悲しんでいる。それなら、ただ一人の子を失う親の痛みはいかほどであろうか。」と諭し、鬼子母神が教えを請うと、「戒を受け、人々をおびやかすのをやめなさい、そうすればすぐに子どもに会えるだろう」と言った。彼女が承諾すると、釈迦は隠していた子を戻した。そして五戒を守り、施食によって飢えを満たすことを教えました。そして、彼女は仏法の守護神となり、また、子供と安産の守り神となった。



この石を持ち帰ると子が授かると伝えられている。

石を持ち帰る
↓
子どもを授かる
↓
持ち帰った石に子供の名前
+
角がない石を返す

ここでは、「元気な子が生まれますように」といった母親の願いが絵馬に書かれていました。

3、塩釜神社(和歌山県)

鹽竈神社の主祭神・鹽槌翁尊は、古事記「海幸彦・山幸彦」の神話に“塩椎神”)として登場。古事記「海幸彦・山幸彦」の神話が由来となっている。鹽椎神は兄に借りた釣り針を失くして、兄の怒りにふれた山幸彦に、鹽椎神は「海神」のところへ行けと教え、送り出した。これにより山幸彦は釣り針を見つけ、竜宮で海神の娘・豊玉姫と出会い結婚した。そして姫は安産により御子を授かった。この故事と、潮の満ち引きが出産に関わることから、安産・子授けの神となった。

この安産の話が高忍日賣神社の由来にもなっている。

ここでも「元気な子が生まれますように」「子どもがすくすくと育ちますように」といった母親の願いが絵馬に書かれていた。

母親は生まれてくるわが子に対して、共通した願いを持っていることが分かった。

4、松山助産院(愛媛県松山市)

昭和 37 年から始まった共同助産院。一度は休止されたが再開され、平成 20 年に一般社団法人化され、現在は建て替えられて今の形となっている。個人経営の助産院ではなく、松山助産師会によって運営されており、赤十字病院と提携している。

松山助産院では、お産の時に母親が望む姿勢で出産できるように工夫されている。分娩室では、天井に紐をつけていきみやすいようになり、母親の望む出産スタイルに沿えるようになっている。また、水中出産ができるようにお風呂を大きく作っていた。

高忍日賣神社にほど近いこの助産院で働いている助産師の方にお話を聞いた。お産は、生む人の力で、助産師は待つことしかできない。自然なものだからこそ、よりどころがほしいとおっしゃっていた。今はガイドラインがあるため、判断基準も明確になってきたが、責任はあるため、神や仏にすがりたいときがあるとのことだった。高忍日賣神社の近くに住んでいる助産師さんは、難産の人がいたらよく高忍日賣神社に安産祈願に行くのだそう。



5、坂本助産院(和歌山県田辺市)

日本で最高齢の助産師である坂本フジエさんにお話を聞いた。坂本助産師は、72年間助産師として活躍されており、今年で95歳。今まで1100人以上の子を取り上げている。そんな坂本助産師の力を借りたくて、全国から出産だけでなく、育児相談に来る人も多い。

坂本助産師はお産の時、いつも「元気に生まれてほしい」と神様に念じているそうだ。また、生まれてきた赤ちゃんに、「この人生で、大きい小さいにかかわらず、何かあなたにしかできない役目を果たせますように」と話しかけるそうだ。赤ちゃんは、神の領域を生きている。お産は自然なもので、神の意思なため、お産でそう簡単に死ぬことはないし、死なないように、人智を超えた大いなるものに祈るとおっしゃっていた。しかし陣痛中、神に願うことより、旦那さんに手を握ってもらうほうが安心してお産に臨めるともおっしゃっていた。



坂本助産師は、いつでも来客を迎えられるように、玄関を入ってすぐの部屋で生活をしている。この部屋には「赤ちゃん なっとうな 気分よう してるか」と書かれた書が飾ってある。これは坂本助産師が入院している母親にかける言葉で、「赤ちゃんの調子はどうですか？気分良くしていますか？」という意味だ。このように声をかけて、坂本助産師は母親が赤ちゃんに向き合えるように心がけているのだ。

○結論

助産師も母親も安産を神仏に祈っていることが分かった。それが同じ神様でないにしても、近くの神社や自分が信仰している宗教で願っていた。お産は自然なものなので、どうしても神様に頼りたくなるからであると考えた。母親や家族も、助産師も母と子が健康で妊娠・出産することを目標として、元気な子が生まれるように祈っているのだと思った。

現在は、出産が管理され、生まれる時期を調整できることが多くなってきたが、本来お産は自然なもののため、神様の意思に従って、自然なお産ができるよう身を任せることが大切なのではないかと考える。

和歌山の地域活性化を大学生が協働で考える

和歌山県立医科大学 保健看護学部 4年

苔口彩乃 中谷晏菜 畑本満里奈 春木恵利加 福岡奈菜子

指導教員 石井敦子

1. はじめに

我が国は、人口減少が進行しており、地方においては、過疎地域の集落機能の維持が困難な状況となっており、現在、和歌山県の18市町村が過疎地域となっている。そんな中、近代化したストレス社会のなかで心の豊かさを求める意識変化もあり、都市部から地方に移住しスローライフを始めるといった動きが活発化してきている。今後、さらに過疎が進展するなか、移住者の受け入れや、定住を図り地域で支えあうコミュニティ機能の強化を目指すことは、自治体にとっては喫緊の課題である。そのような中、「近畿自治体学会フォーラム2018 in 和歌山」が和歌山県田辺市で開催された。テーマは「若者、移住者が地方を支える、守る…そして未来へつなぐもの」であり、和歌山県庁職員の様々な部署の方々、地域活性化にとって要となる観光業のアドベンチャーワールドやJRの職員の方々により活発な議論が交わされた。私たちは、和歌山の地域活性化を考える良い機会になると考え、和歌山大学観光学部の学生と協働し、それぞれのフィールドワークの発表を行った。

2. 研修目的

将来的に保健師として就職することを視野に入れている私たちが「近畿自治体学会フォーラム2018 in 和歌山」に参加することにより、急激な人口減少や、少子高齢化によって危ぶまれる、地域の存続に歯止めをかけるための方策や、残された住民の健康な生活を守るための方策について、保健衛生や福祉の視点だけでなく、教育、産業、労働、観光など広く様々な視点から検討し、地方創生の意義やそれにかかわる保健師の役割について学ぶことを目的とした。

3. 研修内容

<日程>

平成30年11月17日(土)～11月18日(日)

<場所>

和歌山県立情報交流センターBig U

<内容>

近畿自治体学会フォーラム2018 in 和歌山に参加し、和歌山大学観光学部の学生と協働でそれぞれ行ってきたフィールドワークの報告を行い、それを話題提供として円卓会議で、様々な立場の参加者とともに和歌山の地域活性化について議論を深める。



4. 「近畿自治体学会フォーラム 2018 in 和歌山」での報告

フィールドワークを行った内容を整理し、「移住政策による地域活性化と保健活動」と題して以下の通り報告を行った。

移住政策による地域活性化と保健活動

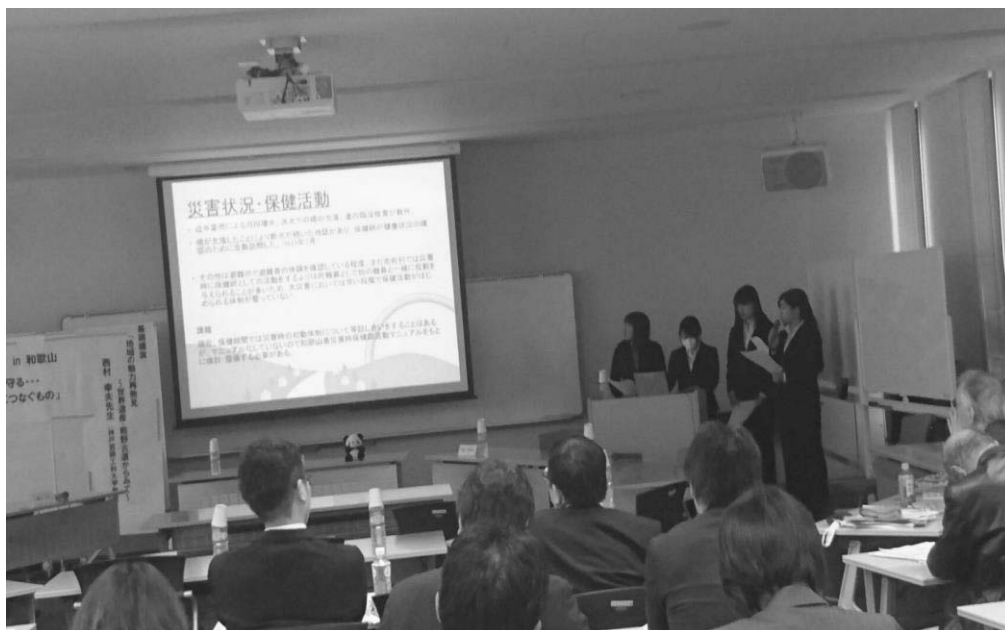
- ① すさみ町の概要：人口は 4,249 人であり、和歌山県の市町村の中でもとても小規模の市町村であり、人口減少が進む中、65 歳以上人口は 1,952 人と多く、高齢化率は 45.9%で、県下 3 位となっている。年少人口割合は、7.7%と低く、将来的に、少子高齢化や雇用不足といった地域を支える人材不足の問題が著しく進むこと、生活基盤の弱体化、医療福祉など暮らしを支えるサービスの低下をはじめ、過疎地域の集落機能の維持が困難な状況になることが危ぶまれている市町村でもある。総面積 174.46 km²、約 93% は林野で、平地はわずかである。公共交通機関も乏しいうえに平地もすくないことから、外出の難しさが考えられる。すさみ町は大きく分けて 3 地域に分かれ、周参見地域、江住地域、佐本地域で、周参見地域は 25 地区、江住地域は 5 地区、佐本地域は 9 地区から構成されている。気候は温暖であり、平均気温は約 17 度である。地域特産物は、イノブタ、ケンケンカツオ、レタスなどがある。
- ② すさみ町の保健・医療・福祉：医療機関は 5 つの診療所と一つの病院がある。地域特性として地域の強みは、人のつながりが強いことが挙げられる。地域の要支援者リストも作成しているが、区長や民生委員が地域住民ひとりひとりとのかかわり、近い存在であることから、地域の情報をしっかり把握している。保健師も小児や高齢者だけでなく家族状況の把握することが可能となっている。弱み全体的に高齢化がすすみ、町を支える世代が少ないこと、独居高齢者が増え生活面での困難が増えてきていることが挙げられる。地域ごとに分けるとまた違った特性も見えてくる。周参見地域は、町内の中心部であり、若い世代が多いが、海に面していることから、津波の被害が大きいことが想定される。江住地域は、漁業従事者が多く、高齢化も進んでいる。佐本地域は、高齢化、人口減少が最も目立つ地域でもあり、地域を支える世代がないという課題を抱えている。しかし、最近スローライフを求めた移住者が増えつつあり、地域の再活性が期待されている。

【すさみ町の医療機関】



- ③ すさみ町の自治会活動：小さな町であり、住民の繋がりが強いことから地域行事が活発に行われています。町民運動会、まつり、地区対抗ソフトボール大会、盆野球、盆おどり、カラオケ大会、地蔵祭、もちまき等多くの行事がある。しかし、高齢になったことを機に、子供の住む地域に引っ越したり、亡くなる方も増え、これまで地域で手伝うことが当たり前であった葬式は、近年は葬儀場による家族葬が増えてきているといった、地域住民の繋がりの変化も見られる。しかし、行事を通して年配や若い世代、子どもたちが集う機会は現在も残っており、残すように努めている。
- ④ すさみ町の防災まちづくり：和歌山県は、南海トラフ巨大地震を危惧し、様々な議論、対策を練っていることがわかる。すさみ町もその一つであり、特に森林が多く、海に面していることから様々な災害が想定される。H24年8月内閣府公表では、最大震度は震度6強、最大津波高は約20mであり、県下最大であるといわれており、東日本大震災の福島県の富岡町で観測された、最大の津波の高さが21メートルと比較すると、すさみ町の災害の規模が想像できる。すさみ町では、津波からの避難施設の整備、土砂災害・浸水害からの避難施設の整備、津波避難タワー、津波避難施設を作るといった対策を行っている。「まずは命を守る」ことに焦点をおいた対策を行い、避難所は各自自治体が主となり管理・運営予定となっている。今後は救護所・避難所等について保健衛生の視点での細やかな準備が必要である。
- ⑤ すさみ町の災害状況、保健活動：近年豪雨による河川増水、洪水での橋の欠落、道の陥没被害が数件発生した。橋が欠落したことにより断水が続いた地区があり、保健師が健康状況の確認のために全数訪問した。H23年の紀伊半島大水害においては古座川町の全戸訪問の支援を行い、町を超えての協力を行っている。その他は避難所で避難者の体調を確認している程度で、まだ市町村では災害時に保健師としての活動をするよりは町職員として他の職員と一緒に役割を与えられることが多いため、大災害においては早い段階で保健活動がはじめられる体制が整っていません。よって町の課題は、保健師間では災害時の初動体制について等話し合いをすることはあるが、マニュアル化していないので和歌山県災害時保健師活動マニュアルをもとに検討・整備する必要があることが挙げられる。また、災害について学ぶ中で、すさみ町では移住者の受け入れを行い、移住者政策による地域活性化も活発に行っていることがわかった。移住者と地元住民によるイベントの1つとして「つながる市」が行われている。すさみのパン屋さんやイノブタのコラボのイノブタホットドック、漁師さんがつくる「魚屋台」、すさみの風景ポストカード展示・販売、里山の美味しい水で作る炭酸ドリンク、すさみの炭焼き職人さんの備長炭売り、移住したくなるトークイベントなどが行われている。このようにイベントを行うことで移住者と地域住民の繋がりを強めるよう努めていることを学んだ。また、そのように移住者の受け入れを進める中で課題もある。お互いの地域への愛着や魅力に対する共通の認識を持ち、それを共有することが必要である。「お互いさま」の相互扶助の関係づくり、地域活性化に貢献してほしいという地元住民の期待に応える移住者の役割や、移住者の様々な価値観を受容する地元住民の役割など、お互いに認識しあうことが重要である。そして、このように移住者と地域住民の互助の強化が地域の繋がりを強め、防災・減災につながると考える。和歌山県は全体で過疎化、高齢化が進行しており、このように移住者を受け入れ、地域の繋がりを強めることも、防災、減災への大切な手段であるとわかった。

【近畿自治体学会フォーラム 2018 in 和歌山での報告の様子】



5. 考察

今回、近畿自治体学会フォーラム 2018 in 和歌山に参加してみて、保健師をはじめ自治体で働く職員の方々やアドベンチャーワールドの獣医師、JR の職員など様々な職種の方々が地方創生に関わっていることを知った。和歌山県の地方創生をおこなっていくためには行政などの職員だけではなく、いろいろな職種の人々が一丸となって、それぞれの専門性を発揮しながら協力することが必要であるとわかった。今回のフォーラムには、多岐にわたる様々な職種の人たちが各地から集まっていた。私たちのフィールドワークの報告を受け、円卓会議により参加者全員で地域活性化について議論を深めたが、その中で自分たちの報告について、様々な質問があり、それにこたえることで、改めて考えをまとめることができたことや、さまざまな立場や視点の異なる意見があることで議論が深まることを実感でき、皆で議論する場の重要性を学んだ。また、同じ大学生である和歌山大学観光学部と協働しながら進めていく過程で、自分たちだけでは、どうしても偏った考え方になってしまいがちであることも、学ぶ分野が異なる人々とも交流することで、自分の視野も広がり、より自らのフィールドワークの内容に深みが出ることも学ぶことが出来た。和歌山大学の学生たちもそれぞれにフィールドワークを通して、活動を行っている地域への強い愛情を感じており、地域の高齢者とかかわりから座学だけではわからない学びを得ることの重要性を共感することができた。このことより、実際に地域に出向き、その地で暮らす人々のことを思い、今後の地域のあるべき姿をともに考える姿勢が地域創生において重要であると考えた。

また、近畿自治体学会フォーラム 2018 in 和歌山に参加したことで、お互いが実際に顔を見せて意見交換をすることでより深まった議論ができることも実感した。違う自治体であっても抱えている行政課題は同じであったり、違う行政分野であっても、それぞれの立場で智慧を出し合うことで、新たな視点の発見があったりする。さらに広い視野で問題を捉えることが出来るきっかけにもなる。今回、全国の自治体職員の方々が自己研鑽のためにフォーラムに参加しておられたが、このように様々な人々と連携し、自分の学びをさらに深め、学び続けることができる場所があることを知った。社会人として、地域の保健医療を担う専門職として、これからも主体的に様々な地域や学会に出向き、見聞を広め、より自分の学びを深め、地域社会に貢献できるよう成長したいと思う。

謝辞

今回、私たちの学生自主カリキュラムにご理解ご協力いただき、温かく私たちを受け入れてくださいました近畿自治体学会関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

三葛の子どもを対象にした健康教室

和歌山県立医科大学 保健看護学部 2年生

崎口佳奈 稲垣裕香 大前夢乃 岡田彩音 角前美紅 栗栖陽菜 小林和郁

慈幸由利子 田中智子

指導教員 内海みよ子先生

I 健康教室

1, はじめに

私たちは、2019年3月26日(火)に三葛地区の子どもたちを対象に「楽しんでつくろう！じょうぶなカラダ！」というテーマのもとで健康教室を開催した。手洗い、栄養、運動などの様々な面から、丈夫な身体、健康な身体を作るためにはどうすればよいのか、ということと一緒に考え、実践しながら学んだ。そして、お家に帰っても家族や友人と楽しく健康をつくっていける機会になるよう実施した。

2, 目的

- ・手洗い、歯みがき、栄養指導などを通して、子どもたちに健康について一緒に考える。
- ・子どもたちが今後もお家で続けていけるよう学生と一緒に実践して、自分で丈夫な身体を作っていける自信を持ってもらう。
- ・学生が子どもたちとのかかわり方や子どもの健康、健康教育の仕方について学ぶ。
- ・大学のある地域で暮らす子どもたちと学生の交流。

3, 開催日程

日時：2019年3月26日(火)

場所：和歌山県立医科大学三葛キャンパス

4, スケジュール

- 10:00～ 始まりの会(調理実習室)
- 10:30～ 正しい手洗いをできるようにしよう！
- 11:00～ バランスの良いお昼ご飯をつくって、みんなで食べよう！
- 13:00～ 片付け
- 13:30～ 正しい歯みがきで健康な歯をつくろう！
- 14:00～ 健康クイズに挑戦してみよう！
- 14:30～ みんなで身体を動かそう！
- 15:30～ 終わりの会、写真撮影、アンケート
- 16:00 解散

5, 参加者

小学生 12名 大学生 7名 内海先生

6, 開催の流れ

2月：三葛地区の子ども会長さんに連絡 日程調整 申込用紙配布

3月：申込用紙回収 保健の申し込み(名簿作成)

各担当(手洗い・歯みがき・栄養・クイズ・運動)に分かれて、スライドや模型の作成 メニュー決定

前日：しおりの作成 試作 食材の買い出し 計量 体育館準備 掃除

当日：食材振り分け スケジュール確認

5月：写真の配布

7, 開催にあたり気を付けること

- ・子どもの安全面を第一に考えた上で、主体性を尊重し、子どもに学生を常に配置して、見守ることで、事故防止に配慮した。
- ・保護者の方々に合わせて、終了時刻に終了できるようにその場で臨機応変に、内容や時間の変更を行った。
- ・当日学んだ内容や思い出が形として残るように、しおりを作成した。
- ・申込用紙に、食物アレルギーの欄と保護者の連絡先、子どもが遅刻早退する際の時間などの欄を設けた。
- ・包丁を使用する子どものそばには必ず一人学生が付く体制をとった。

8, 考察

1) 手洗い

調理前に全員で手洗いを行った。まず、なぜ手洗いが必要なのかをスライドショーを用いて説明した。説明の中で、子どもたちに質問したりしながら理解を深めた。その後、手洗いの歌を用いて、歌を歌いながら正しく行えるように指導した。子どもと学生と一緒に確認しながら何度も歌いながら行うことで覚えてもらいやすくなると考えた。前年度の反省を生かし、きちんと手洗いできているか、学生が子どもの様子を一人一人確認することができたので、子どもの手洗いの習得を十分に確認できた。一人一人を見て褒めることで、子どもたちのできる自信になったと考える。



2) 栄養

みんなで食事を作り始める前に、食べることについて学んだ。



調理実習室にある赤・黄・緑の食材の円表に様々な食材をマグネットで貼りながら、説明をした。

さらに、お菓子をたくさん食べてはいけないことを伝え、どのお菓子が好きかで話で盛り上がりながら学習できた。

[献立]

- ・白米
- ・肉じゃが(豚肉、玉ねぎ、じゃがいも、にんじん)
- ・味噌汁(味噌、大根、ほうれん草)
- ・フルーツヨーグルト(ヨーグルト、フルーツ缶)



子どもたちは、スケジュールと時計を見ながら、調理がスムーズにいくように各班で協力して調理を進めていた。今回、子どもたちひとりひとりに役割をこちらから決めずに包丁や野菜の皮むきなどを体験してもらおうと考えていた。しかし、子どもたちは包丁やピーラーに興味津々で、「もっとしたい」という気持ちが多く、子どもたちにほぼすべての野菜を調理してもらうことになり、かなり時間がかかってしまった。そのため、食材の半分ほどは子どもに経

験してもらい、残り半分は学生が事前に準備しておくなどして、スケジュール通りに進むように工夫が必要である。さらに、6年生などの高学年では低学年ほど興味津々ではない子もあり、「ずっと火をみてますね」とずっと同じ役割をしてくれていた子もいた。その子たちも様々な経験ができるように、何度も来てくれている子どもたちも楽しめる工夫が必要である。例えば、料理の中に様々な食材の切り方（半月切りや千切りなど）を織り交ぜるなどである。

3) 歯みがき

口の中のどこに汚れが残しやすいのか、調理実習室の前のスライドに大きな歯の図を映しながら、指をさしつつ子どもたちに説明した。

さらに、歯みがきはきちんと時間をかけて行うことが重要ということを伝えた。そして、子どもたちと学生全員で、歯みがきをきちんと時間を図って10分間行った。子どもたちはとても「時間が長い」と言いながら頑張って歯みがきをし、普段の歯みがきが不十分であることを学んだ。学生たちも自分自身の普段の歯みがきを考える機会になり、子どもたちと一緒に学ぶことができた。

今回は、子どもたちと学生が見合って、声をかけていくようにしたが、出来れば一人一人に手鏡を用意し、自分で自分の歯みがきを見ながら行ってもらう方が、より学習効果が得られると考えた。



4) 運動

体育館で子どもたちを2チームに分けて、様々なゲームを通して競った。子どもたちは一生懸命自分のチームを応援し、喜び、一体感が生まれていた。今回は、マイクを用意し、マイクを通して指示を出したので、聞こえやすくスムーズに進行できた。子どもたちの体力や体調を考えて、激しく走り回る運動から頭を使うゲームまで様々なゲームを用意した。用意したゲームは以下の通りである。

- ・だるまさんが転んだ
- ・新聞合戦(新聞紙を丸めたものを時間内に相手の陣地に投げ入れる)
- ・ビニール傘の玉入れ(ビニール傘をひっくり返し、新聞玉を時間内に投げ入れる)
- ・じゃんけん列車
- ・ジェスチャーゲーム

今回のゲームは、新聞紙を用いたものが2つあり、身体を動かすだけでなく、身近な道具を用いて、子どもたちに遊びの可能性を感じてもらいたいと考えていた。子どもたちを書いてもらったアンケートでは、他の遊びに比べて「新聞合戦が楽しかった」「玉入れまたやりたい」など新聞紙を用いた遊びが楽しいという意見が多く、子どもたちに印象付けられていた。

さらに学生も積極的に子どもの中に入っていき、チームとして子どもと協力してゲームに取り組むことで、交流をすることができた。



Ⅱ、流しそうめん

1, はじめに

昨年度も子どもたちに人気であった流しそうめん体験を 2018 年 8 月 22 日実施した。

2, 目的

春に行う健康教室のみでなく、夏も行うことで三葛地区の子どもたちと学生間の交流を促すことが目的であった。さらに、何度も参加してくれている子どもは春に学んだ歯みがきや手洗いを復習する良い機会になるだろうと考え、今回も実施に至った。

3, 開催日程

日時：平成 30 年 8 月 22 日(水)

場所：和歌山県立医科大学三葛キャンパス

4, タイムスケジュール

- 10:30～ 始まりの会(調理実習室)
- 10:45～ 流しそうめんの準備、デザートづくり
- 12:00～ 流しそうめんスタート
- 13:00～ 片付け、歯みがき
- 13:45～ 水遊び
- 14:30～ みんなでからだを動かそう(体育館)
- 15:30～ 終わりの会
- 16:00 解散

5, 実施内容

- ①流しそうめんの準備、体験
- ②体育館内でのレクリエーション

6, 開催にあたり気を付けること

流しそうめんの台は、子どもたちの身長にあわせた低めの位置のものを 3 台用意し、少しずつ高さや長さを変え、全員が楽しめるように工夫をした。さらに、トッピングやそうめんの色なども様々な種類を用意し、子どもたちが飽きないようにした。また、熱中症のリスクを考え、日陰で実施した。子どもたちに持参してもらう水分以外にも、こちらから十分なお茶やスポーツドリンクを準備し、こまめな水分補給と休憩を行った。

7, 良かったこと

まず、みんなで楽しんで食事ができたところである。子どもたちも一緒に調理をしたことで、自分たちが食べるものを自分で準備したという達成感を得てもらえた。さらに、流しそうめんでは様々なそうめんの種類や食材を準備することで子どもたちの興味をさらに高めることができていた。

さらに、1 年生から 6 年生までを縦割りで班分けをしたことで、子ども同士の協力がより見られた。調理の場面では、高学年の子どもが率先して、包丁を使ったり、火を使ったりして、低学年の子どもが困っていると積極的に声をかける場面が見られた。子どもたち同士で自然と協力し、一つのことを成し遂げる経験ができていたと感じた。

子どもたちに書いてもらったアンケートでは、「楽しかった」「また来たい」などの声が多く、子どもたちにとって夏の楽しい思い出と一緒に作ることができたと感じた。

8, 反省点

まず、事前に立てたスケジュールよりも調理に時間がかかってしまい、子どもたちと一緒に最後まで片付けることができなかったことである。しかし、運動の時間は気温がかなり暑かったことなどにも関係し、子どもたちは疲れ、飽きてしまっていたように感じられた。これに対して、スケジュール通りに進められるように、学生間で料理工程をシュミレーションし、運動の時間で調整できるようにスケジュールを立てる必要があると感じた。

さらに、水遊びでは、「家に水鉄砲を取りに帰りたい」という声もあったが、結局空いたペットボトルで水をかけあう形になった。これに対して、事前にお知らせの持ち物の項目に水鉄砲を入れておくか、貸し出せる用の水鉄砲を買う必要がある。

また、この流しそうめんの体験を通して、楽しかったという思い出だけでなく、学びを織り交ぜた計画を立てる必要がある。例えば、流しそうめん、どのようなものが流れやすくて、どのようなものが流れにくいのか、水を多くすればどうなるのか、など、子どもたちが考えながら体験し学ぶことが理想である。



Ⅲ まとめ

夏に開催した流しそうめん、春の健康教室を通して、子どもたちと一緒に「健康を自分で作っていくこと」について考え学ぶことができた。大きな怪我もなく、子どもたちはのびのびと遊ぶことができていた。この計画は、子どもたちは「自分の健康を考える」「普段関わらない大学生と関わる」などの様々な経験を得られた。大学生にとっては「子どもを知り、かかわり方を学ぶ」「普段関わらない小学生と関わる」などの経験が得られた。

「来年度も開催してほしい」という声を子どもたちからも、保護者からもいただいております、ぜひ継続して行い、三葛地区の子どもとの交流を続けていきたいと考えています。

地域包括ケアの発祥地から、看護職が果たすべき役割を学ぶ

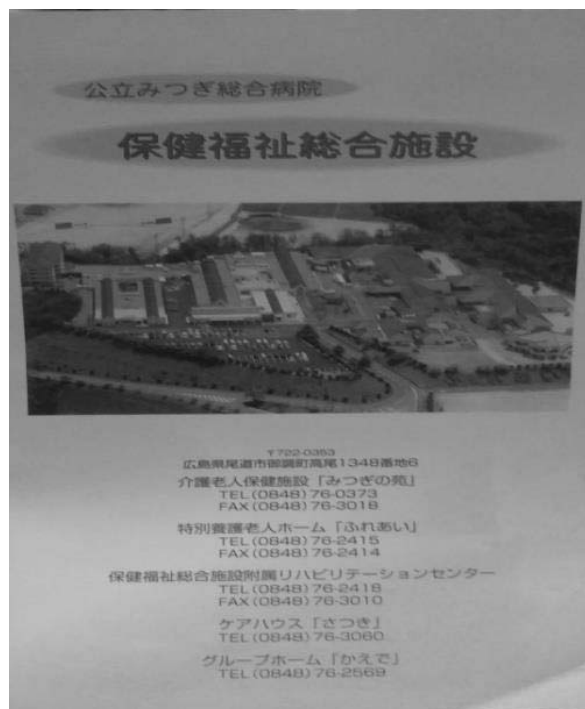
和歌山県立医科大学 保健看護学部 2年生

角前美紅 栗栖陽菜 園田明日香 藤江穂香

指導教員 服部園美

1. 目的

8月9日から10日にかけて広島県尾道市にある公立みつぎ総合病院にて研修を実施した。1年生時に岡山県哲西町へ僻地医療について学ぶ特別実施研修に参加し、僻地医療と地域包括ケアシステムの重要性に興味を持ちさらに学びを深めたいと考えた。そこで、地域包括ケアシステムの発祥地と言われ、様々な分野と連携し、地域の人々の健康を支えている公立みつぎ総合病院に実際に足を運んだ。そして、現場で働いている医療従事者からインタビューをしたり、現場の様子を見学し、地域包括ケアシステムの実際を学び、看護職が果たすべき役割を考えたいと考えた。



2. 研修の行程 (8月9日)

時間	内容
9:00	看護部長挨拶、オリエンテーション
9:15	DVD「寝たきりゼロ作戦と保健・医療・福祉の統合」
10:00	院内見学
11:00	保健福祉センター見学
13:00	在宅ケア（訪問診療・訪問看護など）
17:00	終了

研修の行程（8月10日）

時間	内容
8：30	オリエンテーション
8：45	看護業務体験（緩和ケア病棟）、病棟・看護師の仕事内容見学
10：00	看護業務体験（7A・7B病棟）、病棟・看護師の仕事内容見学
12：30	保健福祉総合施設見学
14：30	反省会
15：30	終了

3. それぞれの学びについて

1) DVD 学習、院内見学

みつぎ町の高齢化率は35%で、この総合病院は22科、病室は240床665名分ある。その他、健康医療相談、回復期リハビリテーション病棟（帰宅を目標としている）、デイルーム（各病棟にある）、ホスピス（在宅緩和との連携、多職種のケアカンファレンスとの連携）などがある。また、保健福祉センターも隣接し、保健、医療、介護、福祉を一体化させる形になっている。

このような状態になったのは、「一旦退院した人の再入院が目立ち、病院の機能のみではいけない」と考えたということであった。医療と福祉の連携（以前は別々の展開サービス）のために一体化しようと話し合い、住民の希望を含むサービスの展開、後に地域包括ケアシステムとなるサービスを作り上げた。住民を支える資源として、ハード面は施設づくり、ソフト面は在宅ケア、訪問看護があげられる。

寝たきりゼロ作戦：退院前訪問、訪問医療（看護、介護）、住宅改修（スロープづくり、手すりの設置）

在宅ケア：HOTのチェックと在宅指導から高度機器の在宅での使用が可能になる。口腔ケアも積極的に行う。

地域包括支援センター：保健福祉センターに併設している。

訪問看護ステーション：介護にあたる家族の健康もみる。看護とリハビリテーションの両方の側面があり、ナイトパトロールや早朝ケアによる巡回も行う。

介護予防センター：要支援1、2の人が対象で、二次予防の面が大きい。みつぎいきいきセンターとして一般の人にも展開させている。

みつぎの苑ユニットケア：音楽療法、認知症専門施設がある。

特老ふれあい：みつぎ病院との連携、デイサービスセンターの併設。

リハビリセンター：維持期リハビリテーションが主体。作業療法、言語聴覚療法を実施。

他に、広島県リハビリテーション支援センターの指定を受けておりケアハウスさつき、グループホームかえでも存在する。また、給食サービスを行い、一人暮らしの高齢者に届けている。給食サービスが行き届かないところでも配達に行ってくれるセブンイレブン町内全域無料配達というものもある。



2) 保健福祉センター見学

行政の窓口もあり、行政サービスも受けられるので行政と医療の2足のわらじである。いきいきセンターの公的利用など自助の手助けが可能。社協を併設していることによって、介護保険の隙間を埋めるため、700円/時間の有償ボランティア、買い物代行なども行われる。

このように、多職種連携が行き届いているため、互いの職種を知ることによって視野が広がり、いつもと違う状況があれば連絡する場所が伝えられている。

保健師は、あるものは活用し、ないものは作ると話しており、ないものを作るために誰を巻き込むのかがポイントだと学んだ。

地産地消の食育にて子育てを互助で取り組む支援を行っている。

尾道市は自殺率が高いため、お酒を考える会があり、アナウンスすることで自分がいつ参加しても良いと思えるようにしている。健康まなびあい講座では帰宅してから他の人々に知らせたくなるような内容にしており、知識の共有による広がり期待される。

体操指導士によるシルバーリハビリ体操教室では、押し車を使って自分で行ける位置で開催する。それぞれの地区でできるようにして、月1回の開催で安否確認、地域交流を兼ねている。

3) 訪問看護

みつぎ町では待機の電話を持ち、2人1ペアで地区担当制を取り、介護、医療保険の利用者を担当している。

病院のように充実した医療器具や頼れる医療従事者がいないため、自分の知識と技術が全てで、ティッシュペーパー1枚さえ無駄にはできないと学び、その場にあるもので自分だけの力で乗り切らなければならない看護の姿を知った。また、家族も看護の対象であるので、利用者のことを見ながら、家族と世間話をしつつ必要な情報を取る技術は場数を踏んできたからこそ得られるものだと考え、私達がいかにこの先、実習や経験値を上げることが重要かを学んだ。

利用者は1日を室内で過ごしているので、天気などの外の様子を伝えると喜ばれた。訪問看護師は医療だけではなく掃除や料理なども行うことがあり、家族の看護も積極的に行う。また、医療従事者や家族だけではなく、ゆうびん局や新聞配達の人にも安否確認の役割を担い、地域のつながりを感じた。住み慣れた自宅で最期までその人らしく生きるために多職種連携をして力を入れる。

看護師バッグの中身：バイタルサイン器具全般、アルコール、ごみ袋、口腔用手袋、潤滑油、爪切り、やすり、薬品情報など

ナイトパトロール：保健師、看護師などが順番に1人で行う。月/金で精神科、神経難病の方を対象にしている

4) 在宅ケア連絡会議

在宅ケア連絡会議では、保健師が司会を務め、司会が各専門職に話を振りながら会議を進行していた。会議の内容としては、病院を退院した患者が在宅に移ったのか、または施設に移ったのか、そこからの支援はどのようにしていくかということが主で、ひとりひとりの住民の生活に根ざしたものであった。参加者は、保健師・ケアマネージャー・ホームヘルパー・訪問リハビリ専門職・地域包括ケア連携室担当者など、地域包括ケアを支える様々な専門職である。研修で訪れた時期が台風による被害があった時期と重なっており、停電した時の状況や被害により生活にどのような支障が出たか、各施設へのアクセス面に問題はないかという点も話題に上がっていた。この会議によって、ひとりひとりの住民を様々な視点からみることができると共に、専門職同士が顔を合わせ情報を交換・共有する機会になり、より充実した支援を提供することが可能になると考える。

5) 緩和ケア病棟

緩和ケア病棟は平成 14 年に開設され、初めは日本一小さな緩和ケア病棟として 5 床から始まり、現在は 6 床で、ボランティアは 60 人活動している。ここを家だと思ってもらうための支援、ベッドごと外に出られるテラスもある。家族に優しい部屋づくり、トイレも少しの移動でできるようにしている。酸素吸引を隠せる仕組みになっている。

実際に部屋に入り患者と話した際に、死を目の前にした人に対する自分達の力の無さを実感した。せめて一言かけようと試みても言葉が出てこない場面があり、看護学生としても人間としても未熟で経験不足であると痛感した。一方、現場で働く看護師は患者と家族の心に寄り添い、言葉を発さなくてもその場にいるだけで看護ケアができていたと感じた。何かを実施するのではなく、存在自体がケアにもなる看護師の仕事の多様性を学んだ。

6) 7A・7B 病棟

回復期リハビリテーションが中心に行われており、「つくられた寝たきり」を予防するという病院の方針に基づき、365 日リハビリテーションが行われている。在宅復帰率は 100%であり、ADL の自立に重点を置き支援が行われていた。在宅復帰を支援するためのケアの指標が作られていた。

具体的な内容としては、経口摂取をすすめることがある。7A 病棟に入院している患者の 77%が糖尿病や高血圧症に対応した特食であるが、経口摂取をすすめ、栄養指導を行うことで、食事面での自立を支援している。さらに、出来るだけオムツを使用せず、自分で排泄することを目指していた。入浴は必ず週 2 回以上は浴槽に入れるという決まりがあった。また、二次的合併症を予防し、安全を守り、抑制はやめよう、という指標もある。この病棟で特に特徴的だったのは、ナースステーションの前にいくつも小学校などにあるような長い洗面所があることである。出来るだけ本人が身体を動かせるように、全患者が使用できる洗面所がナースステーションの前にあり、患者は朝夕必ずここで洗面を行い、毎食後口腔ケアを行うことになっている。このような決まりによって、患者自身の自立を促すことができるとともに、看護者も患者の状態を把握しやすいメリットがあると考えた。

また、看護者も看護技術だけでなく、リハビリテーション技術を習得し、ケアに生かしていくことが指標の一つであった。様々な職種がリハビリテーションに積極的に参加し、全員で情報を共有しながら支援していくことが重要であった。

これらのように、公立みつぎ総合病院を中心とした地域包括ケアにおいて在宅復帰を支える大変重要な病棟であった。

7) 保健福祉総合施設

特老：静養室（みとりの場）、利用者は要介護 3 以上、天然温泉を引いている、胃ろうの受け入れ制限を 30 人までにしている（普通の施設は 5 人程度）、NST チームも設置している。

ユニットなごみ：ごはんを炊くにおいも大切に、生活感を重視する。地域密着型である。

医療保険：リハビリテーションの部屋には柱がないので視野を広くとることができる。

みつぎの苑：多職種連携を主とし、身体拘束ゼロ宣言を行なっている。要介護 3 からの人を対象としているが在宅支援を行う中間施設としての役割がある。認知症の人もあるので扉に鍵をつけたり、自動ボタンで出入りするときに扉が閉まるまで人が入ってこないよう見守ったりしている。（指詰め防止など）

さつき：家の生活に不安になった人が来る。自由度も高く、野菜づくりも行うことができる。

8) 住宅型有料老人ホームあけぼの 1 号館（訪問看護）

福祉センターから伺うのは週 1 日程度。ケアの内容は患者によって異なり、入浴介助や清拭、食事介助、体調管理などがある。施設のスタッフや訪問看護師など様々な人が関与するため、その日に行った内容や血圧、体温を記入する用紙があり、情報を共有できるようになっていた。患者の身の回りにも配慮が必要で、入浴の際は、他の患者の持ち物と混ざったり、紛失しないように、持ってきたものの持ち帰り忘れがないか入念にチェックしていたり、着替えや患者の物品、扇風機の位置を元のとおりに戻すなどの細かいところま

で配慮されていた。

4. 考察

地域包括ケアシステムは自助・互助・共助・公助が基本である。和歌山県の平成 27 年度の都道府県別特定健診受診率は 47 都道府県中 46 位であり、自助が実践できているとは言えない状況である。また、和歌山市のような広い地域全体をシステム化するにあたり、共助や公助に限界があるのは言うまでもなく、近所同士の付き合いがある人ばかりかと問われると、互助も不完全であると考ええる。したがって、広い地域全体をシステム化するのは不可能なのではないかと考えていたが、今回の研修によって看護職がどのような役割を果たすべきかを教えてくれた。

まず、医師、病棟看護師、訪問看護師、薬剤師、介護士、理学療法士、作業療法士、ケアマネージャー、社会福祉士など、その人に関わる医療従事者と、家族や近所の人々を含めた全ての人々を巻き込んだ連携をとることである。そのためにはネットワークを作ったり、呼びかけや交流会、講演会をして必要性や理解を得るなどの多大な努力が必要であるが、実現できた際にはその人らしい生活を送る最善の道が開けるはずである。

次に、寝たきりゼロ作戦から学んだことだが、寝たきりを防ぐためにも在院日数が短縮化される中で必要不可欠なのが同職種間での連携であると考ええる。同職種の人々がどれほどの情報を知ることができるかによって、短い時間の中でその人にいかに最良の看護を提供できるかが大きく左右されると見学をしていて理解した。また、同職種間での連携ができてい上で、多職種連携が可能になると学んだ。

以上のことより、看護職は多職種連携、同職種連携のために患者とあらゆる人々を結びつける役割、同職種間で情報を共有する役割などを果たすべきであると考ええる。

参考文献

「地域包括ケアシステムの構築に「看護」はどう関わるか」

発行日：2018 年 6 月 10 日 発行所：(株)日本看護協会出版会 発行人：井部俊子

「厚生労働省 特定健康診査・特定保健指導に関するデータ」

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/shakaihoshou/iryouseido01/info02a-2.html>

アクセス日：2019年4月4日

「和歌山県の地域医療の現状について知る」

和歌山県立医科大学 保健看護学部

3年 浦佑歩 叶迫里穂

2年 栗栖陽菜 園田明日香 藤江穂香

指導教員 岡本光代先生 服部園美先生

和歌山県の地域医療の現状について理解を深め、和歌山県の地域医療のニーズについて考えることを目的とした上で、松谷診療所及び長谷毛原診療所にて診療の様子を見学し、診療所での仕事内容や現状について話を伺い、得られた情報から地域医療の現状について考察した。

■カリキュラム実施日

3年生2名：8月28日 松谷診療所 8月31日 長谷毛原診療所

2年生3名：8月28日 長谷毛原診療所 8月29日 松谷診療所

【長谷毛原診療所（紀美野町）】

平成29年4月現在のデータによると、国吉地区・毛原地区それぞれの人口は199人と513人、高齢化率は65.3%と53.6%であった。当診療所の患者も高齢者が多く占め、車がなく交通手段が限られ病院を選べない患者のことを考え、診療所側では患者の要望をできる限り聞くようにしているようだ。

診療所での診療、看護場面を見学する中で感じたこととして、医師や看護師と患者の距離の近さがある。一人一人の患者について、カルテを見なくてもある程度の情報は医師も看護師も頭に入っており、また、人柄や家族との関係などもよく理解していた。診察見学の際、医師は「次の人は少し繊細な人だからちょっと外に出てもらっていいかな」「次の人はとても明るいご夫婦だよ」とそれぞれの患者の人となりを理解した発言が多かった。さらに、患者からは「先生が優しい」「看護師さんが明るい」「ここの診療所あるからありがたいよ」などの声があり、患者の診療所に対する信頼を強く感じた。往診に同行した際にも、寝たきりの患者ではあったが、診療代を払うために財布の場所を伝えて看護師に取ってもらう様子が見られ、患者が医師や看護師のことを信用していることが分かった。また、医師や看護師も往診が終わったらすぐに帰るのではなく、時間が許す限り患者の話し相手となって親身に寄り添う姿勢が見られた。このように、患者との信頼関係を築くには、医師や看護師の人柄、患者との向き合い方が大変重要であると考えた。医師や看護師は患者と関わっている時、患者の話にしっかり耳を傾け相槌を打っていた。そのような患者に寄り添う姿勢が患者に安心をもたらしているのだと学ぶことができた。患者について熟知していることも、診療所ならではの患者との距離の近さの魅力だと考える。

さらに、印象に残っていることとして、インスリン注射を行っているAさんの診察を行った場面である。医師はAさんから伝えられた普段のインスリンの注射時間と回数に疑問を持った。それは医師がAさんが使っている新しいインスリンに対する知識がなかったためである。その際医師は、「私は新しいインスリンに対する知識はないので、本で調べますね」と本を取り出して患者の前で調べていた。このように、知らないからといって「知りません」で終わるのではなく、知らないからその場で調べるという行動に患者に対する誠実さと思いやりを感じた。

また、診療所では薬剤師も医療事務もいないため、看護師が薬の分包や医療保険の申請などの業務も行っていた。分包は分包機を使って一回に飲む何粒もの薬を一袋に包み、夫婦の患者に渡す場合は混同を防ぐため一袋ずつ名前を書いていた。患者が自分自身で服薬管理をしやすいうように工夫されており、看護師が患者の生活を考えて寄り添っていることが感じられた。

【松谷診療所】

地域には高齢者が多いため、高血圧症患者も多くなる傾向にあり、全ての患者に血圧管理手帳を渡し、血圧を気にかけて自分自身の健康に関心が向くよう促していた。実際に診察中も血圧を測定すると患者自ら「いくら？どれくらい？」と尋ね、測定値を伝えると「いつもより高いな」や「いい感じやな」など自分自身で状態を判断できる方が多かった。

松谷先生はいくつかの診療所で診療を行っており、看護師は診療所ごとに一人いて、とても地域に密着していた。その看護師は松谷先生がいらっしゃらない時間にも、様子が心配な患者に対し積極的に家庭訪問をしていた。「以前台風の影響で、停電が続いた時も看護師さんが来てくれて本当に安心して嬉しかった」と患者さんは話してくれた。このように往診以外にも看護師が積極的に患者に関わる姿勢から患者に対する思いやりが感じられ、また、患者からの信頼にも繋がっていくと感じた。

往診では、患者の体調だけを診るのではなく、患者を中心としてその家族はもちろんホームヘルパーの忙しさや体調にも気遣っている様子が見られた。さらに、家のスロープや日当たりなど、患者の生活環境まで見ており、在宅療養の環境整備も医療従事者にとって重要であると学んだ。

■まとめ

今回のカリキュラムを経て、地域医療の現場では人手も物品も市街地の病院に比べ不足しており、その分医師や看護師には人に頼らずとも自力で解決できるだけの判断力や多くの知識、責任が求められ、また、幅広い業務をこなす必要があると分かった。一方で、患者や住民について深く知ることができ、いつでも顔を見に行くことができる、といった密な関わりや医療従事者が地域に根付くことができるという魅力も知ることができた。

また、医師や看護師との会話や実際に診療所に赴いてみて知った道のりから、山間部や僻地は病院から距離があり、病状が急変した患者を救急車やドクターヘリですぐに移送できないように感じた。また、人手や物品も不足しており、十分な救急対応を行うのは難しく、これらの理由から僻地では救命率が下がらざるを得ない状況にあると考える。僻地での救急対応のためには、人材育成や救命に必要な物品を用意する必要がある。しかし、これらは難しいため、救命というよりも急死につながる疾患に対する予防が地域ではより必要だと考える。そのため、地域の看護職だけが住民に生活習慣予防や悪化予防の指導を行うのではなく、病院の看護職も退院後の患者の生活を見越した生活指導を行うことで、患者がより快適な暮らしを続けられるような支援に繋がると考える。

臨床技能研修センター

和歌山県立医科大学臨床技能研修センター設置及び管理・運営規程

制 定 平成18年11月14日和医大規程第 313 号

最終改正 平成 26 年 3 月 28 日和医大規程第 76 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、和歌山県立医科大学内に設置する臨床技能研修センターの使用に関して、必要な事項を定めるもので、施設・備品の円滑かつ良好な管理・運営を図ることにある。

(設置)

第 2 条 和歌山県立医科大学内に臨床技能研修センターを設置する。

2 臨床技能研修センターには、次の研修室を設置する。

- (1) 基本的手技研修室
- (2) 外科的手技研修室
- (3) B L S ・ A C L S 研修室
- (4) 模擬病室

(目的)

第 3 条 臨床技能研修センターは、和歌山県立医科大学の学生、同附属病院の研修医をはじめとする教職員、さらには地域医療支援のため、地域医療機関等の医療従事者の臨床技能の習得・向上及び安全管理の確立を図ることを目的に設置するものである。

(審議)

第 4 条 臨床技能研修センターの管理・運営に関する重要事項については、教育研究開発センターの臨床技能教育部会で審議する。

(管理者の設置)

第 5 条 臨床技能研修センターの管理・運営及び教育支援を行う管理者をおく。

- 2 管理者は、教育研究開発センター長をもって充てる。
- 3 臨床技能研修センターに関する事務は、教育研究開発センターが所管する。

(管理者の業務)

第 6 条 臨床技能研修センターの管理者の業務は、次のとおりとする。

- (1) 臨床技能研修センターの使用の管理
- (2) 臨床技能研修センターの施設・備品の管理
- (3) 使用者への技術指導
- (4) 使用対象者への広報活動
- (5) 教育研究開発センター臨床技能教育部会への管理・運営報告
- (6) その他、臨床技能研修センターの管理・運営に必要な業務

(使用対象者)

第7条 臨床技能研修センターを使用できる者は、次のとおりとする。

- (1) 和歌山県立医科大学に在籍する学生、大学院生、研究生、研修生、大学院研究生及び博士研究員
- (2) 和歌山県立医科大学及び同附属病院に所属する研修医及び教職員
- (3) 教育研究開発センター、卒後臨床研修センター等、学内組織が主催講習会に参加する者
- (4) 地域医療機関の医療従事者
- (5) その他、管理者が適当と認めた者

(使用内容)

第8条 臨床技能研修センターの使用内容は、次のとおりとする。

- (1) 学生対象の臨床実習準備教育
- (2) 学生対象の臨床実習中の臨床技能教育
- (3) 研修医対象の卒後研修中の臨床技能研修
- (4) 院内・外の医療従事者等対象の臨床技能講習
- (5) 学生、研修医、医師、看護師、救命救急士、市民等対象のBLS・ACLS講習
- (6) 院内の研修医及び教職員対象の安全管理教育
- (7) 第1号から第3号に係る予習・復習等の自己訓練
- (8) その他、管理者が必要と認めた場合

(使用日時)

第9条 臨床技能研修センターを使用できる日は、土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律に定める休日、年末年始（12月29日から翌年1月3日まで）及び本学創立記念日を除く日とする。ただし、管理者が特に必要と認めるときは、この限りではない。

- 2 臨床技能研修センターを使用できる時間は、原則として午前9時から午後5時までとする。ただし、管理者が特に必要と認めるときは、この限りではない。

(使用申込)

第10条 臨床技能研修センターを使用するときは、使用予定日の1か月前から前日までに、臨床技能研修センター使用承認申請書（別紙様式1又は別紙様式2）を管理者に提出し、承認を得なければならない。

- 2 使用の承認を受けた者が、承認された使用日時等を変更するときは、事前に管理者の承認を得なければならない。
- 3 使用の承認を受けた者が、使用を中止しようとするときは、速やかに管理者に届け出なければならない。

(使用承認)

第11条 使用の承認は原則として予約先着順とする。ただし、第8条第1号から第6号までに規定するものについては、優先して使用させることができる。

- 2 予約の重複については、教育研究開発センターにて調整を実施し、管理者が決定を行う。

(使用承認の取り消し等)

第12条 使用の承認を受けた者が、次の各号のいずれかに該当するときは、使用承認を取り消すことがある。

- (1) 使用承認の目的に反したとき。
- (2) 目的以外の使用又は又貸しをしたとき。
- (3) 本規程の取り決めに違反したとき。
- (4) 管理・運営上の支障が生じたとき。

- 2 大学において実習の実施等緊急に必要が生じたときは、使用承認の取り消し、又は使用の条件変更を行うことがある。

(使用方法)

第13条 臨床技能研修センターの使用にあたって、教育研究開発センターの事務取扱時間内のときは、使用時間直前に、同センター係員に身分証明書を提示し、使用承認の確認を受けたうえで使用すること。

- 2 臨床技能研修センターの使用にあたって、教育研究開発センターの事務取扱時間外のときは、事務取扱時間内に、同センター係員に身分証明書を提示し、使用承認の確認を受けたうえで、鍵（カード）の貸し出しを受け、使用者が解錠すること。
- 3 事務取扱時間外に臨床技能研修センターを使用した者は、使用を終え次第、戸締まりの確認をしたうえで、鍵を閉めて、速やかに鍵（カード）を教育研究開発センターに返却するものとする。

(自己責任)

第14条 臨床技能研修センターの使用にあたっては、実習指導教員の指導のもとに行うよう努めるものとする。

- 2 臨床技能研修センターの備品を使用する者は、事前に使用方法を理解・習熟していなければならない。なお、使用方法については、教育研究開発センターが適宜、講習会、ビデオ、説明書などを用いて研修を実施するものとする。
- 3 臨床技能研修センターの使用者に、万が一事故が生じたときの責任は、使用者本人が負うものとする。

(遵守事項)

第15条 臨床技能研修センターの使用者は、次の事項を遵守するとともに、管理者及び教育研究開発センター係員の指示に従わなければならない。

- (1) 常に良識ある行動をとり、秩序・風紀の維持及び設備・備品の保全に努めること。
- (2) 使用目的以外の用途には使用しないこと。
- (3) 設備・備品を断りなく改変しないこと。
- (4) 設備・備品を断りなく室外に移動しないこと。

- (5) 常に整理整頓に努めること。
- (6) 使用を終了したときは、設備・備品を使用前の状態に戻すこと。
- (7) 使用済みの注射針等の医療系廃棄物は、所定の容器に廃棄すること。
- (8) 設備・備品を損傷、汚損、紛失しないこと。
- (9) ごみは各自持ち帰ること。
- (10) 飲食・喫煙をしないこと。
- (11) 火気を使用しないこと。
- (12) 使用時間を厳守すること。
- (13) 使用を終えたときは、消灯、空調機器の停止、窓の戸締まりを行うこと。
- (14) 金銭等の貴重品は各自が責任をもって管理すること。
- (15) 設備・備品の取扱いは、各自が責任をもって行うこと。

(備品の使用と報告)

第16条 臨床技能研修センターの備品のうち、保管している消耗品等の使用を予定している者は、使用承認申請書にその旨を記載し、承認を得たうえで、教育研究開発センターの事務取扱時間中に同センター係員に申し出て、立ち会いのうえ、借り受けるものとする。また、使用後も同センター係員立ち会いのうえ、消耗品等の使用済数及び残数を確認のうえで、使用済分は破棄し、未使用分を返却するものとする。なお、使用終了が教育研究開発センターの事務取扱時間外のときは、日を改めて、事務取扱時間中に同センター係員に残数の確認を受け、未使用分を返却するものとする。

- 2 備品のうち、注射針等については、原則として教育研究開発センターの事務取扱時間外には、使用することができない。ただし、実習指導教員の指導のもとで使用するときは、この限りではない。

(貸し出し)

第17条 臨床技能研修センター外で備品の使用を希望する者は、事前に教育研究開発センターに申し出て、所定の手続きを行うものとする。ただし、同センター外で備品を使用できるのは、教育研究開発センター、卒後臨床研修センター等、学内組織が主催または共催する講習会等を実施するときに限る。

(費用負担)

第18条 臨床技能研修センターを使用するときは、使用料の費用負担を求めるものとする。ただし、第7条第1号から第3号に掲げる者は除く。

- 2 臨床技能研修センターにおいて使用した消耗品及び施設・備品の使用料は、公立大学法人和歌山県立医科大学諸料金規程（和医大規程第31号平成18年4月1日制定）及び別表によるものとする。

(損傷等の措置)

第19条 臨床技能研修センターの利用者が故意又は重大な過失によって、施設又は設備・備品等を損傷又は紛失したときは、直ちに教育研究開発センターに届け出て、その指示

を受けなければならない。また、これによって生じた損害又はその原状回復に必要な経費を弁償しなければならない。

- 2 臨床技能研修センターの利用者は、利用した備品等に不具合があったときは、直ちに教育研究開発センターに届け出るものとする。

(雑則)

第20条 この規程に定めるもののほか、管理・運営に関して必要な事項は、管理者が別に定めるものとする。

附 則

この規程は、平成18年11月14日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

臨床技能研修センターの利用方法

原則として月曜～金曜（祝日を除く）の午前9時から午後5時にご利用いただけます。

（上記以外でご利用される場合は、教育研究開発センターにご連絡ください。）

<予約方法>

使用予定日の1か月前から前日までに、使用を申請してください。ご使用には管理者の承認が必要です。

※予約方法は主催者が学内者である場合と、学外者である場合とで異なります。

◆ 学内の方

(1)利用予約フォームからオンライン上での申し込みが出来ます。

または、使用承認申請書をダウンロードしていただき、

(2)スキルスラボ事務室へ直接提出

(3)学内便で教育研究開発センターへ提出

(4)FAX で送信

(5)メールに添付いただき送付（mail：cerd@wakayama-med.ac.jp）

◆ 学外の方

学外者の方は使用料金をいただきます。

また、申請内容について、電話にて事前に打ち合わせをさせていただきます。

使用承認申請書をダウンロードしていただき、

申請内容をご記入の上、下記のいずれかの方法で提出ください。

(1)スキルスラボ事務室へ直接提出

(2)郵送

(3)FAX で送信

(4)メールに添付いただき送付（mail：cerd@wakayama-med.ac.jp）

The image shows a screenshot of a web-based reservation form for the Clinical Skills Training Center (臨床技能研修センター) at Wakayama Medical University (和歌山県立医科大学). The form is titled "臨床技能研修センター利用予約フォーム" (Clinical Skills Training Center Reservation Form). It includes a sidebar with a "Contents" menu and a main content area with various input fields. The form is designed for online submission and includes instructions for users. The input fields are organized into sections: "利用申込者" (Applicant), "利用目的" (Purpose of Use), "利用期間" (Period of Use), "利用場所" (Location), "利用回数" (Number of Sessions), "利用料金" (Fees), and "利用者の氏名" (User's Name). The form also includes a "利用予約" (Reservation) button and a "キャンセル" (Cancel) button.

臨床技能研修センターHP 利用予約フォーム画像

臨床技能研修センター使用承認申請書

年 月 日

和歌山県立医科大学臨床技能研修センター管理者
教育研究開発センター長 様

所属部署 または 学年
申請者（使用責任者）氏名
連絡先（電話番号）

以下のとおり、使用の承認を申請いたします。

1. 使用の目的

2. 使用室名 使用を希望する部屋名にチェック☑をして下さい。

☐BLS・ACLS 研修室① ☐BLS・ACLS 研修室②
☐基本的手技研修室 ☐外科的手技研修室 ☐模擬病室

3. 使用物品

4. 期間 年 月 日 時 分 から 年 月 日 時 分まで

5. 利用者数：約 人

利用者の内訳

団体名	学外者	学内者
	人	人
	人	人
	人	人

6. 使用する消耗品

物品名	数量
	個
	個
	個

7. 物品を施設外に持ち出して使用する場合

持ち出し場所	
返却責任者	

臨床技能研修センター使用承認申請書

<予約状況の確認>

予約日程表（<http://www.wakayama-med.ac.jp/clinical/schedule/index.php>）で予約状況を確認してから申請してください。

申請後2～3日で承認作業を行います。予約が確定したことを予約日程表で確認してください（原則として予約先着順となります）。

センターの備品一覧

品名	個数	用途
大型静脈穿刺パッド	20	静脈穿刺トレーニング
胸腔穿刺シミュレーター	1	胸腔穿刺手技練習
胸部ドレーンシミュレーター	1	胸腔ドレナージ手技練習
手背静脈注射シミュレーター	1	静脈穿刺手技練習
小児の手背静脈穿刺シミュレーター	1	乳幼児への静脈注射・採血、点滴静注手技練習
動脈穿刺シミュレーター	1	動脈穿刺・動脈血採取トレーニング
腰椎穿刺シミュレーター	1	腰椎穿刺、硬膜外麻酔、腰椎麻酔
CVC 穿刺シミュレーター	2	中心静脈穿刺手技練習
末梢挿入中心静脈カテーテル PICC シミュレータ	3	末梢中心静脈カテーテルの挿入
静脈採血シミュレーター“シンジョー”	4	採血手技練習、静脈内注射
点滴静注シミュレータ“Vライン”	3	静脈留置針を使用した末梢静脈路確保手技
縫合手技評価シミュレーター	1	外科縫合手技のトレーニング
装着式 上腕筋肉注射シミュレーター	1	筋肉注射の手技練習
神経血管腕モデル	1	
皮内注射シミュレーター	1	皮内注射手技練習
外科手洗い台	2	手洗いトレーニング(2人用)
グリッターバグセット	4	手洗いトレーニング
ダヴィンチトレーナー	1	ロボット内視鏡手術のトレーニング
腹腔鏡シミュレーター	1	腹腔鏡手技トレーニング
腹腔鏡	1	腹腔鏡手技トレーニング
MATT トレーナー	1	腹腔鏡手技トレーニング
内視鏡シミュレーター	1	内視鏡手技トレーニング
内視鏡	1	内視鏡手技トレーニング



品名	個数	用途
マーゲンシミュレーター	1	上部内視鏡手技トレーニング
大腸内視鏡シミュレーター	2	下部内視鏡手技トレーニング
超音波トレーニングシミュレーター(UltraSim)	1	エコー診断のトレーニング
超音波画像診断装置	1	
トレーニング用エコー	3	
腹部病変モデル	1	
12誘導心電計	1	
イチロー & ラング	1	心音・肺音聴診練習
心臓病診察(イチロー)	1	心音聴診練習
Mr.ラング(スピーカー有)	1	肺音聴診練習
Mr.ラング(スピーカー無)	1	肺音聴診練習
フィジカルアセスメントモデル“Physiko”	1	心電図の学習、聴診、血圧測定、瞳孔反射の確認
産科シミュレーター(ソフィー)	1	分娩のシミュレーション
眼底診察	5	眼の診察練習
耳の診察	5	耳の診察練習
直腸診シミュレーター	4	直腸診トレーニング
男性導尿法シミュレーター	3	男性導尿法手技練習
導尿・浣腸シミュレーター 男性	2	男性導尿法および浣腸法手技練習
導尿・浣腸シミュレーター 女性	1	男性導尿法および浣腸法手技練習
男性骨盤	4	直腸診等練習
女性骨盤	3	女性骨盤部内診練習
前立腺触診	1	前立腺触診練習
前立腺触診シミュレーターB 型	4	前立腺触診練習
乳房検診	3	乳房の触診練習
乳癌検診	4	乳癌触診練習

品名	個数	用途
ナーシングアン	5	患者ケアトレーニング
SimPad	1	患者対応シミュレーション
万能型成人看護モデル“さくら”	1	導尿、胃管挿入、移送、移乗など
救急ケアシミュレーター(ECS)	1	患者ケアトレーニング
SimMan3G	1	患者ケアトレーニング
除細動器	4	
人工呼吸器(VELA)	1	救急ケアシミュレーターに接続可能
生体情報モニタ	1	救急ケアシミュレーターに接続可能
輸液ポンプ	5	点滴静脈内注射手技練習
シリンジポンプ	1	点滴静脈内注射手技練習
レサシアン(半身タイプ)	17	BLS 訓練、AED 実技訓練
レサシアン with QCPR	9	BLS 訓練、AED 実技訓練
レサシアン(全身タイプ)	1	BLS 訓練、AED 実技訓練
レサシアンシミュレータ	3	BLS 訓練、AED 実技訓練、救命処置訓練
リトルジュニア	7	BLS 訓練、AED 実技訓練
ベビーアン	7	BLS 訓練、AED 実技訓練
Ambubaby	1	BLS 訓練
チョーキングチャーリー	3	ハイムリッヒ法訓練
ポケットマスク	20	人工呼吸訓練
AED トレーナー	AED 実技訓練(ルールダル:27、メドトロニック:5、日本光電:5)	
エアウェイトレーニングシステム	2	気管内挿管手技練習
気道管理トレーナー	1	気管内挿管手技練習
DAM シミュレーター	1	気管内挿管手技練習
ビデオ喉頭鏡	1	
ハートシム	1	救命処置訓練

品名	個数	用途
SimNewB	1	新生児領域の教育カリキュラムに対応
新生児気道管理トレーナー	3	新生児の気道管理トレーニング
Neonatal Resuscitation Baby	3	新生児蘇生トレーニング
New Born Anne	1	新生児蘇生トレーニング
新生児挿管モデル	1	気管内挿管手技練習
レサシフロー	1	
気管切開トレーナー	1	気管切開手技練習
バックバルブマスク	成人用:26、小児用:10 新生児用:3	
血圧測定シミュレーター	3	血圧測定の練習
口腔ケアモデル“セイケツくん”	5	口腔内清潔手技練習
褥創ケアモデル	1	
吸引シミュレーター“Q ちゃん”	2	吸引手技練習
吸引モデルⅡ型	2	吸引手技練習
携帯用小型吸引器	2	吸引手技練習
大型吸引器	2	吸引手技練習



使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名	
						使用者の内訳			計
						学内	学外		
4月2日21時00分	4月6日3時00分	研修医	学習	内視鏡アキュタツチ		1	0	1 医師	
4月2日11時30分	4月30日17時00分	形成外科	学習実習	鑷子、眼科野刀、ヘガール持針器、マイクロ鑷子、マイクロ持針器、マイクロハサミ、縫合バット	有	6	0	6 医師	
4月2日9時30分	4月2日12時00分	泌尿器科	ダヴィンチの練習	ダヴィンチトレナー		6	0	6 学生	
4月2日13時30分	4月2日18時00分	Mゼミ	保健看護学部講義	SimMan 3 G、 Sim Pad、 ECS		15	0	15 学生	
4月3日11時00分	6月30日17時00分	産婦人科	縫合の練習	縫合セット2	有	2	0	2 医師	
4月3日13時00分	4月3日17時00分	第二内科	学生実習	内視鏡シミュレーター		15	0	15 学生	
4月5日9時00分	4月5日17時00分	孝の浦リハビリテーションセンター	新人研修	シンジヨー2	有		10	10 看護師	
4月5日9時00分	4月5日9時00分	地域医療支援センター	AHA-BLSヘルスケアプロバイダーコース	レザシアン17体、レサシアンQ CPR9体、AEDトレナー26台、BLS訓練用マット40枚、チョーキングチャヤーリー3体、ベピーアン15体、バックバルブマスク26個、ポケットマスク（小児）40個、プロジェクト4台、スクリーン4台、ホワイトボード6台、マイク一式		90	50	140 医師	
				プロジェクト4台、スクリーン、Vライン		80	0	80 医師	
4月5日9時00分	4月5日17時00分	卒後臨床研修センター	30年度採用研修医オリエンテーション（感染管理）	縫合セット	有	1	0	1 医師	
4月6日10時30分	4月30日10時30分	卒後臨床研修センター	練習	AED14台、リトルジュニア7体、消防学校のリトルジュニア8体、プロジェクト4台、スクリーン4台、マイク&スピーカー2台、レサシアン14、ベピーアン14、BVM（成人、小児）14、ポケットマスク14、マット14、チョーキングチャヤーリー8		40	0	40 看護師	
4月7日9時00分	4月10日19時00分	看護キャリア開発センター	新規採用看護研修AHA-BLS-HCPコース	内視鏡シミュレーター、マーゲンシミュレーター		1	0	1 医師	
4月10日18時30分	4月10日20時00分	第一内科	上部消化管内視鏡練習	男性導尿・洗腸シミュレーター、女性導尿・洗腸シミュレーター		1	0	1 医師	
4月10日18時30分	4月10日20時20分	第二外科	導尿練習	縫合セット	有	1	0	1 医師	
4月12日10時00分	5月17日10時00分	初期研修医	スキルの上達	分娩シミュレーター（ソフイー）		6	0	6 学生	
4月13日15時30分	4月13日16時30分	産科婦人科	臨床実習	内視鏡シミュレーター、マーゲンシミュレーター		1	0	1 医師	
4月14日10時00分	4月15日19時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	ダヴィンチトレナー		6	0	6 学生	
4月16日9時30分	4月16日12時00分	泌尿器科	ダヴィンチの練習	イチロー		6	0	6 学生	
4月16日9時00分	4月16日12時00分	循環器内科	学生実習	ベッド3台、車椅子7台、支柱台8台、支柱棒3本、レサシアンシミュレーター-SimPad版3体、ストレッチャー3台、テーブルタップ5、聴診器6本、血圧計3台、ワゴン1台、シンジヨー3セット（バット白2、赤1）、針捨て容器3、プロジェクト1台		70	0	70 看護師	
4月16日15時00分	4月16日18時00分	看護キャリア開発センター	新人看護職員看護技術研修	縫合セット	有	1	0	1 医師	
4月16日13時45分	4月23日17時00分	産婦人科	手技練習	CVC穿刺シミュレーター、エコー、点滴静注シミュレーター		4	0	4 医師	
4月17日15時00分	4月18日9時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	超音波シミュレーター-ウルトラシム		5	0	5 医師	
4月18日11時00分	4月18日12時00分	産婦人科	実習	VP、スクリーン、マイク、スピーカー、パソコン		8	24	32 一般参加者	
4月19日13時00分	4月19日16時00分	教育研究開発センター	SPの会	内視鏡シミュレーター		1	0	1 医師	
4月20日10時30分	4月22日18時00分	臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター		5	0	5 医師	
4月20日14時45分	4月20日15時45分	臨床研修センター	手技練習	レサシアンwithQ CPR9体、ベピーアン9体、ポケットマスク10個、AEDトレナー（日本光電）5台、スクリーン2、プロジェクト2、マイク&スピーカー1	有	5	100	105 一般参加者	
4月21日12時00分	4月22日18時00分	医療安全推進部	一次救命処置講習会	ナーシングアン1体	有	6	0	6 看護師	
4月21日18時00分	4月22日18時00分	看護部	健康フェアで看護体験	レサシアンQ CPR8体、AEDトレナー8台、BLS訓練用マット16枚、ベピーアン8体、チョーキングチャヤーリー2体、スクリーン1セット、プロジェクト1台、TVモニター6台、HDMI分配器、アルコール綿、BVM（成人用）8個、BVM（小児用）8個、小児用ポケットマスク8個、タオル8枚、マイク・スピーカー1台		15	15	30 医師	
4月21日7時30分	4月21日18時00分	救急集中治療医学講座	一次心臓蘇生講座	内視鏡シミュレーター		1	0	1 医師	
4月24日14時00分	4月24日15時00分	臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1 医師	

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名	
						使用者の内訳			計
						学内	学外		
4月26日15時00分	4月26日18時00分	看護キャリア開発センター	新人看護職員技術研修	ベッド 3台 車椅子8台（うち3台移乗 5台移送）支柱台8台 支柱棒3本 レサシアンシミュレーター-Sim Pad版3体 ストレッチャー3台 テーブルタップ5 聴診器6本 血圧計3台 ワゴン1台 シンジョー3セット（バット白2セット バット赤1セット） 針捨て容器3 プロジェクター1台		70	0	70	看護師
4月26日18時00分	4月26日21時00分	わりんぎ	臨床実習	聴診器10本、イチロー2台、プロジェクター、スクリーン、パソコン、血圧測定シュミレーター1台		11	0	11	医師
4月27日15時30分	4月27日16時30分	産婦人科	臨床実習	ソフィー		6	0	6	医師
4月27日11時30分	6月29日17時00分	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合セット	有	1	0	1	医師
4月27日12時00分	4月27日13時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター		2	0	2	医師
使用申請件数(4月)						34件	444人	199人	688人
使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名	
						使用者の内訳			計
						学内	学外		
5月1日10時30分	5月1日17時00分	助産学専攻科	分娩介助演習	内診シミュレーターモデル		13	0	13	看護学生
5月6日17時00分	5月6日20時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シュミレーター		1	0	1	医師
5月7日9時30分	5月7日12時00分	泌尿器科	手技練習	ダヴィンチ		6	0	6	医師
5月7日17時00分	5月7日17時00分	循環器内科	手技練習	イチロー		0	0	0	医師
5月8日16時30分	5月8日18時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シュミレーター		0	0	0	医師
5月10日15時00分	5月10日18時00分	看護キャリア開発センター	看護技術研修	ベッド3台 車椅子8台 支柱台3台 支柱棒3本／レサシアンシミュレーター-Sim Pad版3体 ストレッチャー3台 テーブルタップ3 聴診器6本 血圧計3 ワゴン1台／シンジョー4セット（バット白2セット・赤2セット） テーブルタップ1 針捨て容器3／支柱台5台 テーブルタップ2 プロジェクター1台		65	0	65	看護師
5月14日13時00分	5月17日17時00分	循環器内科	技術練習	イチロー		0	0	0	医師
5月14日17時00分	5月14日19時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	CVC挿入シュミレーター		7	0	7	医師
5月15日13時00分	5月15日17時00分	第二内科	学生実習	内視鏡シュミレーター		15	0	15	医師
5月15日17時00分	5月15日22時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シュミレーター		1	0	1	医師
5月16日16時45分	5月16日17時30分	6階西	技術チェック・勉強会	男性、女性導尿・洗腸シュミレーター		3	0	3	看護師
5月17日13時15分	5月17日14時15分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シュミレーター		2	0	2	医師
5月17日15時00分	5月17日18時00分	看護キャリア開発センター	看護技術研修	ベッド3台 車椅子8台 支柱台3台 支柱棒3本／レサシアンシミュレーター-Sim Pad版3体 ストレッチャー3台 テーブルタップ3 聴診器6本 血圧計3 ワゴン1台／シンジョー4セット（バット白2セット・赤2セット） テーブルタップ1 針捨て容器3／支柱台5台 テーブルタップ2 プロジェクター1台		65	0	65	看護師
5月18日15時30分	5月18日16時30分	産婦人科	臨床実習	ソフィー		6	0	6	医師
5月21日9時30分	5月21日12時00分	泌尿器科	ダヴィンチセミナー	ダヴィンチ		5	0	5	医師
5月21日13時00分	5月21日17時00分	循環器内科	手技練習	イチロー		0	0	0	医師
5月21日16時00分	5月21日17時30分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シュミレーター		1	0	1	医師
5月22日13時00分	5月22日17時00分	第二内科	手技練習	内視鏡シュミレーター、ゼリー		16	0	16	医師
5月22日17時00分	5月22日22時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シュミレーター		1	0	1	医師
5月23日15時15分	5月22日16時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シュミレーター		2	0	2	医師
5月24日13時30分	5月24日16時40分	保健看護学部事務室	助産学専攻科講義	プロジェクター	有	9	0	9	医師
5月24日15時00分	5月24日16時00分	看護学部助産専攻科	実習	縫合セット（持参）		12	0	12	教職員
5月24日17時00分	5月24日20時00分	わりんぎ	BLS講習	レサシアン4体、AED4台、ポケットマスク4つ、チョーキングチャャーリ、バックバルブ1つ		15	1	16	学生
5月25日16時10分	5月25日17時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	エコー		1	0	1	医師

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名	
						使用者の内訳			計
						学内	学外		
5月25日16時00分	5月27日19時00分	麻酔科・医療安全推進部	心肺蘇生二次救命処置 (ACLS) 研修会	ハートシム1セット、Sim Man3G1体、除細動器 (ベレーシング機能つき) 2台、レサシアンシミュレーター-SimPad版2セット、レサシアンwithQ CPR 4体、AEDトレーナー (レールダール) 4台、バックバルブマスク：成人用4セット、ポケットマスク (成人用) 6個、ポケットマスク用チューブ (口をつける部分のディスプレイが透明チューブ) 6本、プロジェクター投影用パソコン1台 (コマ付台付で)、プロジェクター2セット、スクリーン2台、マイク&スピーカー1セット、BLS訓練用マット4枚、救急カート (和医大仕様) 1台、救急カート (内容あり) 1台、点滴用支柱台2脚、ホワイトボード4枚、診察台2台、折畳み診察台2台、テレビモニター4台、HDMIケーブル4本、挿管セット (成人用) 2セット		10	6	16	医師
5月28日11時30分	5月30日13時30分	HCU	講習	気管挿管セット、気道管理トレーナー		0	0	0	看護師
5月28日13時00分	5月28日17時00分	循環器内科	学生実習	イテロー		0	0	0	医師
5月28日15時00分	5月28日21時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1	医師
5月30日17時30分	5月30日18時30分	リハ科	講習	吸引II型2台		10	0	10	医療関係者
5月30日17時00分	5月30日18時00分	6階西病棟	新人技術チェック	導尿カテーテルシミュレーション		2	0	2	医師
5月30日15時00分	6月4日17時00分	救急集中治療医学講座	一時心肺蘇生技術評価	レサシアンQ CPR 3体、レサシアンSim付属のレッズノート1台 (指定あり)	有	1	0	1	医師
5月31日12時00分	5月31日17時00分	中央手術部	体位変換・褥瘡予防のOJT	ベッド1台		5	0	5	医師
5月31日13時00分	5月31日18時30分	助産学専攻科	助産学講義	ホワイトボード1台		13	0	13	医師
使用申請件数(5月)						33件	288人	7人	295人
使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名	
						使用者の内訳			計
						学内	学外		
6月1日9時00分	6月1日16時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1	医師
6月1日15時30分	6月1日16時30分	産科婦人科	臨床実習	分娩シミュレーター (ソフイー)		6	0	6	医師
6月1日16時30分	6月1日19時30分	看護キャリア開発センター	看護技術支援	CPR) レサシアンシミュレーターSim Pad版3体+ベッド3台 ベビーアン3体 AED3台 BVM (成人・小児) 各4 救急カート3台 踏み台3台 気道管理トレーナー1台 挿管) DAMシミュレーター1台 エアウェイトレニングシステム1台 気管内挿管セット2 BVM2		15	0	15	看護師
6月2日0時00分	6月4日12時00分	血液内科	ICLS講習会	気道管理トレーナー	有	2	32	34	医師
6月4日9時30分	6月4日12時00分	泌尿器科	ダヴィンチセミナー	ダヴィンチ機械		6	0	6	医師
6月4日10時00分	6月4日12時00分	看護キャリア開発センター	特定行為研修			3	0	3	看護師
6月4日17時00分	6月4日18時00分	6階西病棟	新人技術チェック	導尿カテーテルシミュレーション		2	0	2	医師
6月4日17時00分	6月5日9時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	腰椎穿刺シミュレーター		3	0	3	医師
6月5日13時00分	6月5日17時00分	第二内科	学生実習	内視鏡シミュレーター		15	0	15	医師
6月5日17時00分	6月5日19時30分	看護キャリア開発センター	学習会	プロジェクター1台 スクリーン1台 CPS実習ユニット フゴン2台 椅子12脚		12	0	12	看護師
6月6日13時00分	6月6日16時40分	助産学専攻科	超音波画像診断	超音波シミュレーター、プロジェクター		13	0	13	医師
6月7日13時00分	6月7日17時00分	保健看護学部事務室	助産学専攻科講義	プロジェクター	有	10	0	10	医師
6月8日17時00分	6月8日20時30分	血液内科学講座	感染症セミナー	プロジェクター、スクリーン、マイク&スピーカーセット1	有	10	1	11	医師
6月8日16時00分	6月9日 終日	経理課	講習	ホワイトボード6台	有	0	0	0	職員
6月11日11時30分	6月11日18時30分	HCU	練習	気道管理トレーナー、挿管セット		0	0	0	看護師
6月11日13時00分	6月11日17時00分	循環器内科	手技練習	イテロー		0	0	0	
6月11日16時30分	6月11日17時00分	卒後臨床研修センター	練習	エコー		2	0	2	医師

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用着数		主たる使用者の職名	
						使用者の内訳			計
						学内	学外		
6月12日16時30分	6月12日19時30分	看護キャリア開発センター	看護技術支援	レサシアンシミュレーター-SimPad版3体 ベッド3台 ベビーアーン3 B V M (成人・小児) 3 AED3 足台3 机2 椅子5		15	0	15 看護師	
6月12日12時00分	6月12日16時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1 医師	
6月14日13時00分	6月14日17時00分	保健看護学部	助産学専攻科講義	ホワイトボード1台	有	10	0	10 医師	
6月15日13時00分	6月15日18時00分	県立看護学院助産学科	新生児蘇生法	新生児蘇生人形3、吸引器3、新生児挿管人形1		2	10	12 医師	
6月15日15時30分	6月15日16時30分	産科婦人科	臨床実習	分娩シミュレーター (ソフアイ) → 基本的な手技研修室のキーも貸出		6	0	6 医師	
6月16日8時00分	6月16日17時00分	救急集中治療医学講座	一時心肺蘇生の普及	レサシアンQPR8体、AEDトレーナー8台、BLSマット16枚、ベビーアーン8体、チャョーキングチャールー2体、スクリーン1セット、プロジェクトター1台、TVモニター6台、HDMI分配器、アルコール綿、バックバルブマスク成人用8個、バックバルブマスク小児科8個、小児用ポケットマスク8個、タオル8枚、マイク・スピーカー1台		15	15	30 医師	
6月16日10時00分	6月16日14時00分	救急集中治療医学講座	研修会	スクリーン1台、ホワイトボード3台、SimMan3G1体、生体情報モニター、エコー1台、ベッド2台、レサシアンシミュレーター-SimPad版2体、除細動器1台、輸液ルート4、酸素マスク2、カニューレ2、吸引チューブ2、生体情報モニター1、聴診器2、ペンライト2、エコー1台、プロジェクトター1台		10	10	20 医師	
6月18日9時30分	6月18日12時00分	泌尿器科	ダヴィンチセミナー	ダヴィンチ機械		5	0	5 医師	
6月11日13時00分	6月11日17時00分	循環器内科	手技練習	イチロー		0	0	0 看護師	
6月19日9時30分	6月25日10時00分	7階西病棟	一時救命処置の練習	レサシアン1体	有	6	0	6 看護師	
6月19日9時30分	6月19日15時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1 看護師	
6月19日13時00分	6月19日16時00分	看護キャリア開発センター	特定行為研修	レサシアンシミュレーター-SimPad版2体、SimMan3G1体		5	0	5 看護師	
6月19日13時00分	6月19日16時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1 医師	
6月19日18時30分	6月19日18時30分	看護キャリア開発センター	クリティカルケア研修	内視鏡シミュレーター、机、プロジェクトター、		20	0	20 看護師	
6月19日16時30分	6月19日17時00分	12階西病棟	練習	シンジョー1台	有	0	0	0 看護師	
6月19日18時00分	6月19日21時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1 医師	
6月20日13時00分	6月27日13時00分	12階西病棟	病棟内の心肺蘇生法講習	レサシアン1体、AED1台	有	12	0	12 看護師	
6月20日17時00分	6月20日19時30分	看護キャリア開発センター	学習会	プロジェクトター1台 スクリーン1台 CPS実習ユニット ワゴン2台 椅子12脚 アンケート		12	0	12 看護師	
6月21日13時00分	6月21日18時00分	助産学専攻科	新生児蘇生法Bコース	新生児挿管モデル、新生児蘇生人形、新生児気道管理トレーナー		13	0	13 看護師	
6月22日9時20分	6月29日17時00分	第二外科	手術手技習得のため	腹腔鏡の持針器、把持鉗子、鉗鉗子	有	0	0	0 医師	
6月22日18時30分	6月22日22時00分	ICU	勉強会	ナーシングアーン1体、生体情報モニター		5	0	5 看護師	
6月22日12時00分	6月23日19時00分	和医大JMECC	JMECC・ICLS講習会	レサシアン (半身タイプ) 10、バックバルブマスク (成人用) 10、救急カート3、レサシアンシミュレーター-SimPad版3、除細動器3、AEDトレーナー (ルールダル) 11、ハートシム (人形&ノートパソコン) 1、気道管理トレーナー1、DAMシミュレーター1、エアウェイトレーニングシステム2、長テーパー (キャスター無) 14、長テーパー (キャスター有) 11、キャスター付き丸椅子60、キャスター無丸椅子40、ホワイトボード5、プロジェクトター1、スクリーン1、テレビモニター3、診察台5、ストレッチャー4、点滴用支柱台3、点滴棒3、BLS訓練用マット20、ワゴン5		30	10	40 医師	
6月25日9時00分	6月25日19時00分	看護キャリア開発センター	特定行為研修	CPS実習ユニット、レサシアンシミュレーター-SimPad版2体、吸引モデルII型2台、SimMan3G1体		8	3	11 看護師	
6月25日9時00分	6月25日12時00分	泌尿器科	学生セミナー	ダヴィンチ機械		0	0	0 医師	
6月25日13時00分	6月25日17時00分	循環器内科	手技練習	イチロー		0	0	0 看護師	
6月26日13時00分	6月26日17時00分	第二内科	学生実習	内視鏡シミュレーター		15	0	15 医師	
6月26日8時00分	6月26日18時30分	看護キャリア開発センター	特定行為研修	CPS実習ユニット、レサシアンシミュレーター-SimPad版2体、吸引モデルII型2台、SimMan3G1体		10	3	13 看護師	

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持 出	使用者数		主たる使用 者の職名	
						使用者の内訳			計
						学内	学外		
6月26日17時00分	6月26日21時00分	医療安全推進部	医療安全推進に関する会議			20	0	20	医師
6月27日8時00分	6月27日18時00分	看護キャリア開発センター	特定行為研修	CPS実習ユニット、レサシアンシミュレーター—SimPad版2体、吸引モデルII型2台、SimMan3G1体		10	3	13	看護師
6月27日16時30分	6月27日19時00分	HCU	講習	気道管理トレーナー、挿管セット	有	0	0	0	看護師
6月27日18時30分	6月27日21時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1	医師
6月28日8時00分	6月28日18時00分	看護キャリア開発センター	特定行為研修	CPS実習ユニット、レサシアンシミュレーター—SimPad版2体、吸引モデルII型2台、SimMan3G1体		10	3	13	看護師
6月28日18時00分	6月28日21時00分	わりんぎ	わりんぎ	イチロー、聴診器、水銀レス血圧計		10	0	10	医師
6月29日15時00分	7月2日17時00分	救急集中治療医学講座	一時的に肺蘇生普及のため	レサシアンQ CPR5体、AEDトレーナー5台、リトルジュニア5体、ペビーアン5体、チョーキングチャリー2体、バッグマスク成人用5個、バッグマスク小児用5個、小児用ポケットマスク5個、マイク&スピーカーセット1台	有	10	10	20	医師
6月29日15時30分	6月29日16時30分	産科婦人科	学生実習	ソフィー		6	0	6	医師
6月29日18時30分	6月29日22時00分	ICU	勉強会	ナーシングアン1体、生体情報モニター		5	0	5	看護師
6月30日0時00分	6月30日21時00分	麻酔科	セミナー	なし		25	5	30	医師
使用申請件数(6月)						54件	400人	105人	505人
使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持 出	使用者数		主たる使用 者の職名	
						使用者の内訳			計
						学内	学外		
7月2日9時30分	7月2日12時00分	泌尿器科	ダヴィンチセミナー	ダヴィンチ機械		6	0	6	医師
7月2日13時00分	7月2日17時00分	循環器内科	手技練習	イチロー		0	0	0	
7月3日9時00分	7月3日16時00分	看護キャリア開発センター	潜在看護師の復職支援	なし		3	5	8	看護師
7月3日17時00分	7月3日19時00分	看護キャリア開発センター	学習会	プロジェクト1台 スクリーン1台 CPS実習ユニット ワゴン2台 椅子12脚		12	0	12	看護師
7月3日21時00分	7月3日21時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1	医師
7月4日8時50分	7月4日12時00分	泌尿器科	ダヴィンチシミュレーション	ダヴィンチ機械		5	0	5	医師
7月4日18時30分	7月3日21時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1	医師
7月4日12時00分	7月4日18時00分	学生課	大学説明会	レサシアンシミュレーター—SimPad版、イチロー、ラング、腰椎穿刺シミュレーター、縫合セット、シンジョー、		0	0	0	大学職員
7月5日9時30分	7月5日12時30分	第二内科	学生実習	内視鏡シミュレーター、ゼリー		15	0	15	医師
7月5日18時30分	7月5日22時00分	医学部6年生	PCCOSCEの練習	シンジョー、ラング、レサシアン、直腸診シミュレーター、眼底診察シミュレーター、血圧計、イチロー、縫合セット、検眼鏡		20	0	20	学生
7月6日13時40分	7月6日15時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1	医師
7月6日18時00分	7月6日22時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		2	0	2	医師
7月6日18時30分	7月6日22時00分	医学部6年生	PCCOSCEの練習	シンジョー、ラング、レサシアン、直腸診シミュレーター、眼底診察シミュレーター、血圧計、イチロー、縫合セット、検眼鏡		20	0	20	学生
7月7日18時00分	7月8日19時00分	救急集中治療医学講座	災害対応教育	ホワイトボード6枚、BLS訓練用マット8枚		30	30	60	医師
7月8日19時00分	7月8日22時00分	ICU	メデikalラリー練習	ナーシングアン、生体情報モニター		5	0	5	看護師
7月9日9時00分	7月9日18時30分	看護キャリア開発センター	特定行為研修	なし		5	1	6	看護師
7月9日13時00分	7月9日17時00分	循環器内科	手技練習	イチロー		0	0	0	
7月9日18時00分	7月9日22時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		2	0	2	医師
7月10日9時00分	7月10日18時30分	看護キャリア開発センター	特定行為研修	なし		3	1	4	看護師
7月10日15時00分	7月10日19時00分	血液内科	練習	CVC穿刺シミュレーター2		6	0	6	医師
7月10日15時00分	7月10日17時00分	医学部5年生	循環器内科セミナー	イチロー		6	0	6	医師
7月10日16時00分	7月10日17時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1	医師
7月10日18時30分	7月10日21時00分	HCU	BLSACLS練習	レサシアン、AED、救急カート		6	0	6	看護師

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持 出	使用着数		主たる使用 者の職名	
						使用者の内訳			計
						学内	学外		
7月10日18時30分	7月10日22時00分	医学部6年生	PCCOSCEの練習	シンジヨー、ラング、レサシアン、直腸診シミュレーター、眼底診察シミュレーター、血圧		20	0	学生	
7月11日9時00分	7月11日18時30分	看護キャリア開発センター	特定行為研修	なし		3	1	看護師	
7月11日18時00分	7月11日21時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	医師	
7月11日18時30分	7月11日22時00分	医学部6年生	PCCOSCEの練習	シンジヨー、ラング、レサシアン、直腸診シミュレーター、眼底診察シミュレーター、血圧計、イチロー、縫合セット、検眼鏡		20	0	学生	
7月12日9時00分	7月12日12時00分	産科婦人科	講習	ウルトラシム		10	0	医師	
7月12日9時00分	7月12日18時30分	看護キャリア開発センター	特定行為研修	レサシアンシミュレーター-SimPad版		3	1	看護師	
7月12日18時00分	7月12日20時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	医師	
7月12日18時30分	7月12日22時00分	医学部6年生	PCCOSCEの練習	シンジヨー、ラング、レサシアン、直腸診シミュレーター、眼底診察シミュレーター、血圧計、イチロー、縫合セット、検眼鏡		20	0	学生	
7月13日9時00分	7月13日18時30分	看護キャリア開発センター	特定行為研修	なし		3	1	看護師	
7月13日12時00分	7月17日0時00分	CCU	練習	SimMan 3 G	有	0	0	看護師	
7月13日12時00分	7月17日17時00分	救急集中治療医学講座	心肺蘇生評価	レサシアンQ CPR3 体、レサシアンSim用PC 2台、AEDトレナー 3台		1	0	医師	
7月13日15時30分	7月13日16時30分	産科婦人科	学生実習	ソフイー		6	0	医師	
7月15日10時00分	7月28日10時00分	7階西病棟	ACLS練習	レサシアン	有	5	0	看護師	
7月16日12時00分	7月18日12時00分	救急集中治療医学講座	心肺蘇生研究のため	レサシアンQ CPR3 体、レサシアンSim用P C 2 台、AEDトレナー 3 台	有	1	0	医師	
7月17日17時00分	7月17日19時30分	看護キャリア開発センター	学習会	プロジェクター1台 スクリーン1台 CPS実習ユニット フゴン2台 椅子12脚		12	0	看護師	
7月19日10時45分	7月19日11時35分	総務課	信愛女子短期大学付属高校 職業体験	シンジヨー、レサシアンシミュレーター、グリッターバグ、血圧計、他シミュレーター説明		0	49	職員	
7月19日15時00分	7月19日18時30分	看護キャリア開発センター	看護部継続教育	ナーシングアン2体（1体ずつベッドに乗せる）、支柱台2本、モニター1台、聴診器6本、救急カード2台、CPS実習ユニット、大型吸引器、ラング2体、ホワイトボード2台、スクリーン、プロジェクター、フゴン2台		20	0	看護師	
7月19日17時30分	7月19日19時00分	7階東	練習	レサシアン（半身）、救急カート、心電図モニター、除細動器		6	0	看護師	
7月20日14時30分	7月20日15時30分	浙江中医药大学医学生	大学見学	レサシアンシミュレーター、イチロー、ラング、シンジヨー、内視鏡シミュレーター、ダヴィンチ、腫瘍穿刺シミュレーター		0	22	職員	
7月20日17時00分	7月22日17時00分	救急集中治療医学講座	二時心肺蘇生普及	ハートシム1体、レサシアンシミュレーター3体、除細動器2台、レサシアンQ CPR 6 体、AEDトレナー 6 台、BLS訓練用マット 6 枚、足台 2 個、支柱台 2 台、バックバルブマスク（成人用） 4 個、スクリーン2セット、プロジェクター 2 台、テレビモニター 2 台、HDMI ケーブル 2 本、ホワイトボード 6 枚		10	10	医師	
7月20日15時00分	7月20日17時00分	中央手術部	研修	救急カート、挿管セット、ビデオ喉頭鏡	有	3	18	医師	
7月20日15時00分	7月22日17時00分	和歌山手術看護認定看護師会	シミュレーションセミナー	気道開閉トレナー	有	3	18	医師	
7月21日10時00分	7月21日17時00分	臨床工学センター	動作確認	SimMan3G 1	有	0	0	医師	
7月22日18時30分	7月22日22時00分	ICU	メデイカルラリー練習	レサシアン、生体情報モニター		5	0	看護師	
7月23日13時00分	7月23日17時00分	循環器内科	手技練習	イチロー		0	0		
7月24日9時00分	7月31日9時00分	10階西病棟	練習	シンジヨー	有	0	0	看護師	
7月24日11時15分	7月24日13時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	医師	
7月24日17時30分	7月24日19時00分	7階東病棟	練習	レサシアン（半身）、救急カート、心電図モニター、除細動器		6	0	看護師	
7月24日18時30分	7月24日21時00分	HCU	BLSACLS練習	レサシアン、AED、救急カート		6	0	看護師	
7月25日18時30分	7月25日21時00分	HCU	BLSACLS練習	レサシアン、AED、救急カート		6	0	看護師	
7月25日18時30分	7月25日22時00分	ICU	メデイカルラリー練習	レサシアン、生体情報モニター		5	0	看護師	
7月26日17時30分	7月26日19時30分	7階東病棟	練習	レサシアン（半身）、救急カート、心電図モニター、除細動器		6	0	看護師	
7月26日17時00分	7月26日20時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	医師	
7月27日9時30分	7月27日20時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	医師	

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名	
						使用者の内訳			計
						学内	学外		
7月27日12時00分	7月30日17時00分	救急集中治療医学講座	二時心肺蘇生普及	レサアンシミュレーター-SimPad版 (PC2台) 2体、レサアンQCPR6体、AEDトレーナー6台、BLS訓練用マット6枚、支柱台2台、バックバルブマスク (成人用) 6個、気道管理トレーナー1台	有	12	12	24	医師
7月27日15時30分	7月27日16時30分	産科婦人科	学生実習	ソフィー		6	0	6	医師
7月28日0時00分	7月28日21時00分	麻酔科	セミナー	CVCシミュレーター2台、PICCシミュレーター3台、動脈穿刺シミュレーター1台		20	1	21	医師
7月29日9時00分	7月29日20時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1	医師
7月30日9時30分	7月30日12時00分	泌尿器科	ダヴィンチ講習	ダヴィンチ		5	0	5	医師
7月31日13時00分	7月31日23時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1	医師
7月31日14時00分	7月31日23時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		2	0	2	医師
7月31日16時20分	7月31日17時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		2	0	2	医師
使用申請件数(7月)						65件	384人	170人	554人
使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名	
						使用者の内訳			計
						学内	学外		
8月1日16時00分	8月1日19時30分	看護キャリア開発センター	シュミレーション研修	SimMan3G1体 (PC) ベッド1台 救急カート2台 DAMシミュレーター1 気道管理トレーナー1 気管内挿管セット5 BVM3 ジャクソンリースバッグ1 流量計1 支柱台2台 支柱棒1本 床頭台1台 尿器1 ホワイトボード2 ワゴン3 椅子10 CPS実習ユニット 輸液ポンプ1台 プロジェクター1台		6	0	6	看護師
8月2日14時00分	8月2日15時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		3	0	3	医師
8月2日18時30分	8月2日22時00分	HCU	練習	レサアンシミュレーター、救急カート、心電図モニター、除細動器、ベビーアーン、小児用BVM		6	0	6	看護師
8月3日15時00分	8月3日19時00分	血液内科	練習	CVC穿刺シミュレーター		5	0	5	医師
8月4日12時00分	8月4日19時00分	周産期医療センター	新生児蘇生法講習会	新生児蘇生人形4体、新生児気道管理トレーナー3、大型吸引器2台、携帯用小型吸引器2台、レサシフロア、ワゴン4台、プロジェクター1台、スクリーン1セット		10	10	20	医師
8月6日18時30分	8月6日22時00分	HCU	練習	レサアンシミュレーター、救急カート、心電図モニター、除細動器		6	0	6	看護師
8月7日9時00分	8月17日17時30分	NICU	静脈注射の技術練習	シンジュー	有	3	0	3	看護師
8月7日13時30分	8月7日15時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		2	0	2	医師
8月9日9時00分	8月10日17時00分	聖の浦リハビリテーションセンター	看護職新人研修	点滴静注シミュレーター(Vライン)	有	0	5	5	看護師
8月9日18時00分	8月9日22時00分	ICU	メディカルラリー練習	レサアンシミュレーター、生体情報モニター		5	0	5	看護師
8月14日10時00分	8月14日11時30分	看護キャリア開発センター	動作確認	フィジコ、SimMan3G		1	0	1	看護師
8月14日17時00分	8月14日19時00分	ICU	研修	挿管セット	有	9	0	9	医師
8月15日17時00分	8月16日9時00分	リハビリテーション科	練習	吸引モデリアルII型2台	有	0	0	0	看護師
8月16日17時30分	8月16日19時00分	7院東病棟	急変シミュレーション	レサアンシミュレーター、救急カート、心電図モニター、除細動器		6	0	6	看護師
8月17日16時20分	8月21日17時00分	医学部6年生	練習	縫合セット	有	1	0	1	学生
8月18日9時00分	8月18日17時00分	教養研究開発センター	医学部オープンキャンパス	レサアンシミュレーター2体、シンジュー、腰椎穿刺シミュレーター、イチロー、ラング、縫合セット、聴診器、眼底診察シミュレーター、検眼鏡、車いす		0	120	120	医師
8月20日18時00分	8月20日22時00分	ICU	メディカルラリー練習	レサアンシミュレーター、生体情報モニター		5	0	5	看護師
8月21日11時30分	8月28日13時00分	12院西病棟	気管内挿管の練習	気道管理トレーナー	有	4	0	4	看護師
8月21日15時30分	8月21日17時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1	医師
8月21日16時00分	8月21日21時00分	第一外科	縫合の練習	縫合セット		4	0	4	医師
8月22日18時30分	8月22日22時00分	HCU	練習	レサアンシミュレーター、救急カート、心電図モニター、除細動器		6	0	6	看護師
8月23日15時00分	8月23日18時30分	看護キャリア開発センター	クリティカルケア研修	ナーシングアン2体 (ベッドに乗せる) 救急カート2台、支柱台2本、聴診器2本、血圧計2台、生体情報モニター、CPS実習ユニット、大型吸引器、12誘導心電図、ホワイトボード2台、ワゴン2台、丸椅子12		15	0	15	看護師

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数 使用者の内訳	計	主たる使用者の職名
8月23日12時30分	8月23日13時30分	卒後臨床研修センター	手技練習	CVC穿刺シミュレーター		2	0	医師
8月23日18時30分	8月23日22時00分	HCU	練習	レサシアンシミュレーター、救急カート、心電図モニター、除細動器		6	0	看護師
8月24日16時00分	8月27日9時00分	CCU	練習	レサシアン (半身)	有	5	0	5
8月24日17時00分	8月27日12時00分	経理課	緩和ケア研修会	ホワイトボード6台	有	0	0	職員
8月27日18時30分	8月27日22時00分	HCU	練習	レサシアンシミュレーター、救急カート、心電図モニター、除細動器		6	0	看護師
8月28日16時00分	8月28日19時30分	看護キャリア開発センター	シュミレーション学習会	SimMan3G1体 (PC) ベッド1台 救急カート2台 D AMシミュレーター1 気道管理ト レーナー1 気管内挿管セット5 BVM3 ジャクソンリリースバッグ1 流量計1 支柱台2台 支柱棒1本 床頭台1台 尿器1 ホワイトボード2 ワゴン3 机3 椅子10 CPS実習ユ ニット 輸液ポンプ1台 プロジェクター1台		6	0	看護師
8月30日18時30分	8月30日22時00分	HCU	練習	レサシアンシミュレーター		6	0	看護師
8月30日16時20分	8月30日18時00分	第二内科	練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1
8月31日16時00分	8月31日9時00分	CCU	練習	レサシアン (半身)	有	5	0	5
8月31日15時00分	8月31日17時00分	第二内科	練習	内視鏡シミュレーター		2	0	2
使用申請件数(8月)					32件	137人	135人	272人

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数 使用者の内訳	計	主たる使用者の職名
9月1日12時00分	9月1日18時00分	研修		机・ベッド・椅子・ホワイトボード		10	10	医師
9月4日11時30分	9月10日13時00分	12階西	挿管練習	ハートシム		3	0	看護師
9月4日16時30分	9月4日19時30分	看護キャリア開発センター	技術支援	" (気管・口腔吸引) 吸引シミュレーター「Qちゃん」1台 吸引モデルII型1台 気管カニュー レ1 吸引器2台 (尿道カテーテル) ナーシングアン (4体: 男2 女2) ストレッチャー4台 (経管栄養) さくら1体 ベッド1台 聴診器1本 支柱台1台 (筋肉注射) 上腕筋肉シミュレーター1台 模擬筋肉 針捨て容器2個 (黄色) "		15	0	15 看護師
9月5日9時00分	9月14日17時00分	救急集中治療医学講座	2次心肺蘇生普及	レサシアンQ CPR4 体、AED4台、成人BVM4 個、レサシアンSimPad版2 体、PC2 台、除細 動器2 台、支柱台2 本	有	9	0	18 医師
9月6日16時30分	9月6日19時30分	看護キャリア開発センター	学習会	SimMan3G1体 (PC) ベッド1台 救急カート2台 D AMシミュレーター1 気道管理ト レーナー1 気管内挿管セット5 BVM3 ジャクソンリリースバッグ1 流量計1 支柱台2台 支柱棒1本 床頭台1台 尿器1 ホワイトボード2 ワゴン3 机3 椅子10 CPS実習ユ ニット 輸液ポンプ1台 プロジェクター1台		8	0	8 看護師
9月6日9時00分	9月7日17時00分	琴の浦リハビリテーションセンター	新人看護職員研修	Vライン、模擬血液1本	有	0	5	5 看護師
9月7日16時00分	9月7日20時30分	血液内科	感染症セミナー	プロジェクター・スクリーン・マイク・スピーカー	有	30	0	30 医師
9月11日16時30分	9月11日19時30分	看護キャリア開発センター	技術支援	" (気管・口腔吸引) 吸引シミュレーター「Qちゃん」1台 吸引モデルII型1台 気管カニュー レ1 吸引器2台 (尿道カテーテル) ナーシングアン (4体: 男2 女2) ストレッチャー4台 (経管栄養) さくら1体 ベッド1台 聴診器1本 支柱台1台 (筋肉注射) 上腕筋肉シミュレーター1台 模擬筋肉 針捨て容器2個 (黄色) "		15	0	15 看護師
9月12日18時30分	9月12日22時00分	HCU	練習	レサシアンシミュレーター、救急カート、心電図モニター、除細動器、ベビーアン、小児用 BVM		5	0	5 看護師

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
						学内	学外	
9月13日13時00分	9月14日18時00分	看護キャリア開発センター	新人看護職員研修	SimMan3G1体、レサシアンシミュレーター-SimPad版3体、ナージングアン4体、ベッド3台、ストレッチャー6台、フィジコ1体、ワゴン9、プロジェクト2、スクリーン2、ホワイトボード6、マイク&スピーカーセット1、机10、椅子40、血圧計9、聴診器5、酸素マスク・経鼻カニューレ各9、		30	0	30 看護師
9月14日15時30分	9月14日16時30分	産科婦人科	学生実習	ソフィー		6	0	6 医師
9月14日18時30分	9月14日22時00分	HCU	練習	レサシアンシミュレーター、救急カート、心電図モニター、除細動器、ベビーアン、小児用BVM		5	0	5 医師
9月14日12時30分	9月18日22時00分	卒後臨床研修センター	練習	エコー		1	0	1 医師
9月18日16時30分	9月18日19時30分	看護キャリア開発センター	技術支援	"(気管・口腔吸引)吸引シミュレーター「Qちゃん」1台 吸引モデルII型1台 気管カニューレ1 (吸引器2台 (尿道カテーテル) ナージングアン (4体: 男2 女2) ストレッチャー4台 (経管栄養) さくら1体 ベッド1台 聴診器1本 支柱台1台 (筋肉注射) 上腕筋肉シミュレーター1台 模擬筋肉 針捨て容器2個 (黄色)"		15	0	15 看護師
9月18日10時00分	9月21日10時00分	8階東	手技練習	挿管チューブ、スタイレット	有	5	0	5 看護師
9月19日12時00分	9月19日13時00分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター		1	0	1 医師
9月19日17時30分	9月19日20時00分	7階東	急変シミュレーション	除細動器、モニター、救急カート、レサシアン		7	0	7 看護師
9月20日17時30分	9月20日20時30分	7階東	急変シミュレーション	除細動器、モニター、救急カート、レサシアン		7	0	7 看護師
9月20日18時30分	9月20日22時00分	HCU	BLS練習	除細動器、モニター、救急カート、レサシアン、ベビーアン		5	0	5 看護師
9月20日15時30分	9月20日18時15分	看護キャリア開発センター	継続教育研修	スクリーン1台、プロジェクト2台、マイク&スピーカーセット1台、机と椅子 (必要分)		25	0	25 看護師
9月21日12時00分	9月22日19時00分	和医大JMECC	JMECC・ILCS講習会	レサシアン (半身タイプ) 3、バックバルブマスク (成人用) 4、救急カート1、レサシアンシミュレーター-SimPad版1、除細動器1、AEDトレーナー (レールダル) 4、ハートシム (人形&パソコン) 1、気道管理トレーナー1、長テーパー (キャスターあり) 10、キャスター付き丸椅子15、ホワイトボード2、プロジェクト1、スクリーン1、テレビモニター1、診察台1、ストレッチャー1、点滴用支柱台1、点滴棒1、BLS訓練用マット6、ワゴン1、		12	0	12 医師
9月21日12時00分	9月21日13時00分	7階東	練習	レサシアン		6	0	6 看護師
9月21日16時30分	9月21日18時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		5	0	5 医師
9月24日12時00分	9月24日19時00分	周産期医療センター	新生児蘇生法講習会	新生児蘇生人形4体、新生児気道管理トレーナー3、大型吸引器2台、携帯用小型吸引器2台、レサシアフロ、ワゴン4台、プロジェクト1台、スクリーン1セット		10	20	30 医師
9月25日16時30分	9月25日19時30分	看護キャリア開発センター	学習会	SimMan3G1体 (PC) ベッド1台 救急カート2台 DAMシミュレーター1 気道管理トレーナー1 気管内挿管セット5 BVM3 ジャクソンリリースバグ1 流量計1 支柱台2台 支柱棒1本 床頭台1台 尿器1 ホワイトボード2 ワゴン3 机3 椅子10 CPS実習ユニット 輸液ポンプ1台 プロジェクト1台		8	0	8 看護師
9月27日11時00分	9月27日17時00分	教育研究開発センター	医学概論講義	イテロー、イテロー&ラング、聴診器 (すべて)		40	0	40 医師
9月27日14時00分	9月27日18時00分	循環器内科	ポリクリ	イテロー		7	0	7 医師
9月28日15時30分	9月28日16時30分	産科婦人科	学生実習	ソフィー		6	0	6 医師
9月28日17時00分	9月30日17時00分	救急集中治療医学講座	二時心臓蘇生普及	ハートシム1体、レサシアンシミュレーター3体、除細動器2台、レサシアンQCP6体、AEDトレーナー6台、BLS訓練用マット6枚、足台2個、支柱台2台、バックバルブマスク (成人用) 4個、スクリーン2セット、プロジェクト2台、テレビモニター2台、HDMIケーブル2本、ホワイトボード6枚		10	10	20 医師

使用申請件数(9月) 29件 306人 45人 351人

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用着数		主たる使用者の職名	
						使用者の内訳			計
						学内	学外		
10月1日9時30分	10月1日12時00分	泌尿器科	ダヴィンチ講習	ダヴィンチ		4	0	医師	
10月1日13時00分	10月1日15時00分	循環器内科	ポリクリ	イチロー		7	0	医師	
10月1日16時00分	10月1日19時30分	看護キャリア開発センター	学習会	SimMan3G1体(PC) ベッド1台 救急カート2台 DAMシミュレーター1 気道管理ト レーナー1 気管内挿管セット5 BVM3 ジャクソンリリースバッグ1 流量計1 支柱台2台 支柱棒1本 床頭台1台 尿器1 ホワイトボード2 ワゴン3 机3 椅子10 CPS実習ユ ニット 輸液ポンプ1台 プロジェクター1台		8	0	看護師	
10月2日14時00分	10月9日14時00分	9階西	練習	シンジョー1、模擬血液1	有	8	0	看護師	
10月2日13時30分	10月2日17時00分	産婦人科	臨床実習	ソフィー		6	0	医師	
10月3日9時20分	10月3日9時50分	総務課	中学生職業体験	手洗いシミュレーター、聴診器、シンジョー1、レサシアンSimPad1、イチロー、内視鏡シュ ミレーター		5	3	看護師	
10月3日11時00分	10月3日12時00分	卒後臨床研究センター	練習	内視鏡シュミュレーター		2	0	医師	
10月4日12時30分	10月4日13時30分	卒後臨床研究センター	練習	内視鏡シュミュレーター		1	0	医師	
10月4日17時00分	10月4日19時00分	消化器内科	練習	内視鏡シュミュレーター		3	0	医師	
10月4日11時00分	10月4日17時00分	教育研究開発センター	医学概論講義	イチロー、イチロー&ラング、聴診器(すべて)		40	0	医師	
10月4日17時00分	10月4日19時00分	消化器内科	手技練習	内視鏡シュミュレーター		3	0	医師	
10月4日12時40分	10月4日13時30分	卒後臨床研究センター	手技練習	内視鏡シュミュレーター		1	0	医師	
10月5日15時00分	10月5日16時30分	卒後臨床研究センター	手技練習	内視鏡シュミュレーター		2	0	医師	
10月5日14時00分	10月9日14時00分	救急集中治療医学講座	手技練習	DAMシミュレーター、CVC穿刺シミュレーター	有	3	0	医師	
10月5日18時00分	10月5日23時00分	卒後臨床研究センター	手技練習	心エコー		4	0	医師	
10月8日12時00分	10月8日19時00分	周産期医療センター	新生児蘇生法講習会	新生児蘇生人形4体、新生児気道管理トレーナー3、大型吸引器2台、携帯用小型吸引器2 台、レサシアン、ワゴン4台、プロジェクター1台、スクリーン1セット		10	10	医師	
10月8日19時00分	10月8日22時00分	HCU	BLS練習	レサシアンSimPad、生体モニター、除細動器、AED、救急カート、ベピーアン、小児用BVM		5	0	看護師	
10月9日0時00分	10月10日0時00分	看護キャリア開発センター	特定行為	プロジェクター、スクリーン		5	2	看護師	
10月9日10時00分	10月23日10時00分	7階西	ACLS練習	レサシアン	有	5	0	看護師	
10月10日0時00分	10月11日0時00分	看護キャリア開発センター	特定行為	プロジェクター、スクリーン		5	2	看護師	
10月11日11時00分	10月4日17時00分	教育研究開発センター	医学概論講義	イチロー、イチロー&ラング、聴診器(すべて)		40	0	医師	
10月11日13時00分	10月11日14時00分	卒後臨床研究センター	練習	内視鏡シュミュレーター		4	0	医師	
10月11日17時00分	10月11日19時00分	わりんぎ	BLS講習	レサシアン5、AED5、ボケットマスク5、交換チューブ5		10	0	学生	
10月12日14時00分	10月18日14時00分	救急	手技練習	Vライン、模擬血液	有	1	0	看護師	
10月12日15時30分	10月12日16時30分	産科婦人科	学生実習	ソフィー		6	0	医師	
10月12日14時00分	10月12日14時00分	中央手術部	手技練習	Vライン、模擬血液	有	15	0	看護師	
10月12日16時30分	10月12日19時30分	看護キャリア開発センター	看護技術支援	(尿道カテーテル) ナーシングアン(4体：男2女2)、ストレッチャー4台、(導尿) 導尿 シミュレーター(男女)、机、(筋肉注射) 上腕筋肉シミュレーター1台、模擬筋肉、針捨て 容器2個(黄色)、(縮便) SAKURA1体、ベッド1台		15	0	看護師	
10月12日10時00分	10月14日18時00分	総務課	県と食の健康フェスタ	レサシアンSimPad、生体モニター、ストレッチャー、聴診器2、延長コード	有	20	0	看護師	
10月15日16時30分	10月15日19時30分	看護キャリア開発センター	看護技術支援	(尿道カテーテル) ナーシングアン(4体：男2女2)、ストレッチャー4台、(導尿) 導尿 シミュレーター(男女)、机、(筋肉注射) 上腕筋肉シミュレーター1台、模擬筋肉、針捨て 容器2個(黄色)、(縮便) SAKURA1体、ベッド1台		15	0	看護師	
10月15日9時30分	10月15日12時00分	泌尿器科	ダヴィンチ講習	ダヴィンチ		6	0	医師	
10月15日13時00分	10月15日16時30分	循環器内科	臨床実習	イチロー		7	0	医師	
10月16日16時30分	10月16日18時30分	救急外来	手技練習	レサシアンSimPad	有	5	0	看護師	
10月17日11時30分	10月26日13時00分	12階西	急変対応練習	レサシアンSimPad、AED、挿管セット	有	7	0	看護師	

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
						使用者の内訳	計	
						学内	学外	
10月17日19時00分	10月17日22時00分	HCU	BLS練習	レサシアンSimPad、生体モニター、除細動器、AED、救急カート、ベビーアーン、小児用BVM		5	0	看護師
10月18日11時00分	10月18日17時00分	教育研究開発センター	医学概論講義	ラング（すべて：イチロー＆ラング、ラング（スピーカー有、スピーカーなし））、聴診器（すべて）		40	0	医師
10月18日14時00分	10月23日17時00分	6階東	手技練習	Vライン、模擬血液	有	10	0	看護師
10月19日13時00分	10月19日21時00分	第二内科	練習	内視鏡シュミレーター		8	0	医師
10月20日8時00分	10月20日17時00分	救急集中治療医学講座	一時心臓蘇生の普及	レサシアンQ CPR 8体、AEDトレーナー8台、BLS訓練用マット16枚、ベビーアーン8体、 チョーキングチャャーリー2体、スクリーン1セット、プロジェクトター1台、TVモニター6 台、HDMIケーブル、HDMI分配器、アルコーン線、バッグバルブマスク（成人用）8個、 バッグバルブマスク（小児用）8個、小児用ポケットマスク8個、タオル8枚、マイク&ス ピーカーセット1台、消防学校より借用のリトルジュニア8体		15	15	医師
10月20日19時00分	10月20日22時00分	HCU	BLS練習	レサシアンSimPad、生体モニター、除細動器、AED、救急カート、ベビーアーン、小児用BVM		5	0	看護師
10月22日9時00分	10月22日17時00分	血液内科	蘇生コース開催のため	ベビーアーン3、新生児気道管理トレーナー、新生児用BVM、除細動器、ハートシム	有	2	5	医師
10月22日12時00分	10月29日17時00分	7階西	手技練習	Vライン、模擬血液	有	5	0	看護師
10月22日13時00分	10月22日16時30分	循環器内科	臨床実習	イチロー		6	0	医師
10月22日16時30分	10月22日19時30分	看護キャリア開発センター	看護技術支援	（尿道カテーテル）ナージングアン（4体：男2女2）、ストレッチャー4台、（導尿）導尿 シュミレーター（男女）、机、（筋肉注射）上腕筋肉シュミレーター1台、模擬筋肉、針捨て 容器2個（黄色）、（縮便）SAKURA1体、ベッド1台		15	0	看護師
10月23日9時00分	10月23日17時00分	5階東	練習	Vライン、模擬血液	有	2	0	看護師
10月23日13時00分	10月23日21時00分	第二内科	手技練習	内視鏡シュミレーター		8	0	医師
10月23日18時00分	10月23日22時00分	BOND s	BLS・ACLS練習	レサシアンSimPad、除細動器		3	2	看護師
10月24日13時00分	10月24日21時00分	第二内科	手技練習	内視鏡シュミレーター		8	0	医師
10月25日11時00分	10月25日17時00分	教育研究開発センター	医学概論講義	ラング（すべて：イチロー＆ラング、ラング（スピーカー有、スピーカーなし））、聴診器 （すべて）		40	0	医師
10月26日15時00分	10月29日9時00分	患者支援センター	健康相談サロン参加	乳がん検診モデル	有	5	30	職員
10月26日15時30分	10月26日16時30分	産婦人科	臨床実習	ソフイー		5	0	医師
10月26日16時00分	10月28日18時00分	経理課	会議	ホワイトボード2	有	10	0	職員
10月26日16時00分	10月29日13時00分	わりんぎ	大学祭	レサシアン3、AED3、ポケットマスク3、BLSマット4、チョーキングチャャーリー	有	10	0	学生
10月26日19時00分	10月26日22時00分	HCU	BLSACLS練習	レサシアンSimPad、除細動器、生体モニター、AED、救急カート、ベビーアーン、小児用BVM		8	0	看護師
10月27日9時00分	10月27日17時00分	救急集中治療医学講座	講義	スクリーン	有	5	0	医師
10月29日9時30分	10月29日12時00分	泌尿器科	ダヴィンチ講習	ダヴィンチ		5	0	医師
10月29日13時00分	10月29日16時30分	循環器内科	臨床実習	イチロー		5	0	医師
10月29日12時00分	10月29日15時00分	6階東	BLS・ACLS練習	救急カート、レサシアン	有	2	0	看護師
10月29日12時00分	10月31日14時00分	12階西	技術練習	AED、レサシアン	有	4	0	看護師
10月29日13時40分	10月30日17時00分	10階東	練習	Vライン、模擬血液	有	4	0	看護師
10月29日15時00分	10月29日15時30分	卒後臨床研究センター	練習	エコー		2	0	医師
10月29日16時30分	10月29日19時30分	看護キャリア開発センター	学習会	SimMan3G1体（PC）ベッド1台 救急カート2台 D AMシュミレーター1 気道管理ト レーナー1 気管内挿管セット5 B VM3 ジャクソンリースバッグ1 流量計1 支柱台2台 支柱棟1本 床頭台1台 尿器1 ホワイトボード2 ワゴン3 机3 椅子10 CPS実習ユ ニット 輸液ポンプ1台 プロジェクター1台		8	0	看護師
10月29日13時00分	10月29日21時00分	第二内科	手技練習	内視鏡シュミレーター		8	0	医師
10月30日13時00分	10月30日21時00分	第二内科	手技練習	内視鏡シュミレーター		8	0	医師

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名	
						使用者の内訳			
						学内	学外		
10月30日12時00分	10月31日17時00分	救急集中治療医学講座	講義	レサシアン5、AED23	有	23	0	23 医師	
10月31日9時00分	11月1日12時00分	地域医療支援センター	5 G実証実験	内視鏡シミュレーターアキュタッチ、マーガンシミュレーター、大腸内視鏡シミュレーター	有	3	0	3 職員	
使用申請件数(10月)						65件	565人	69人	634人
使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名	
						使用者の内訳			
						学内	学外		
11月1日11時00分	11月1日17時00分	教育研究開発センター	医学概論講義	練習		40	0	40 医師	
11月1日3時00分	11月1日14時00分	産婦人科	臨床実習	ソフィー		7	0	7 医師	
11月1日12時00分	11月7日19時00分	救急集中治療医学講座	一時心肺蘇生の普及	AED 2 4	有	24	24	48 医師	
11月2日12時00分	11月5日17時00分	救急集中治療医学講座	災害医療研修	ホワイトボード 4 枚、BLS訓練用マット 3 2 枚	有	20	20	40 医師	
11月5日13時00分	11月5日17時00分	循環器内科	臨床実習	イチロー		5	0	5 医師	
11月6日9時00分	11月22日17時00分	8 階西	練習	Vライン、模擬血液	有	5	0	5 看護師	
11月6日9時00分	11月6日16時00分	看護キャリア開発センター	潜在看護師の復職支援	潜在看護師の復職支援		3	5	8 看護師	
11月6日16時30分				"(気管・口腔吸引)吸引シミュレーター「Qちゃん」1台 吸引モデルⅡ型1台 気管カニューレ1 吸引器2台 (尿道カテーテル) ナーシングガン (4体：男2 女2) ストレッチャー4台 (経管栄養) さくら1体 ベッド1台 聴診器1本 支柱台1台 (筋肉注射) 上腕筋肉シミュレーター1台 模擬筋肉 針捨て容器2個 (黄色) "		15	0	15 看護師	
	11月7日13時00分	6 階西	技術練習	分娩トレーナー-PROMPT	有	10	0	10 看護師	
	11月8日11時00分	教育研究開発センター	医学概論講義	聴診器 (すべて)、血圧測定シミュレーター 3 台		40	0	40 医師	
	11月8日12時00分	6 階東	急変対応練習	救急カート、レサシアン		2	0	2 看護師	
	11月9日9時30分	11月9日10時30分	総務課	親愛中学校職業体験	手洗いシミュレーター、聴診器、シンジョー1、レサシアンSimPad 1、イチロー、内視鏡シミュレーター		5	5	10 看護師
11月9日0時00分	11月11日0時00分	学生課	試験会場			0	0	0 大学職員	
11月9日15時30分	11月9日16時30分	産婦人科	臨床実習	ソフィー	有	5	0	5 医師	
11月12日9時30分	11月12日12時00分	泌尿器科	臨床実習	ダヴィンチ		6	0	6 医師	
11月12日13時00分	11月12日17時00分	循環器内科	臨床実習	イチロー		6	0	6 医師	
11月12日12時00分	11月12日15時00分	6 階東	急変対応練習	レサシアン、救急カート、生体モニター、点滴支柱棒		2	0	2 看護師	
11月13日9時30分	11月13日12時00分	6 階東	急変対応練習	レサシアン、救急カート、生体モニター、点滴支柱棒		2	0	2 看護師	
11月13日13時00分	11月13日14時00分	卒後臨床研究センター	セミナー	なし		7	0	7 医師	
11月13日12時00分	11月19日17時00分	6 階西	練習	ソフィー	有	6	0	6 看護師	
11月13日16時30分				"(気管・口腔吸引)吸引シミュレーター「Qちゃん」1台 吸引モデルⅡ型1台 気管カニューレ1 吸引器2台 (尿道カテーテル) ナーシングガン (4体：男2 女2) ストレッチャー4台 (経管栄養) さくら1体 ベッド1台 聴診器1本 支柱台1台 (筋肉注射) 上腕筋肉シミュレーター1台 模擬筋肉 針捨て容器2個 (黄色) "		15	0	15 看護師	
	11月14日17時30分	6 階東	練習	レサシアン、救急カート、生体モニター、AED		5	0	5 看護師	
11月15日11時00分	11月15日17時00分	教育研究開発センター	医学概論講義	聴診器 (すべて)		40	0	40 医師	
11月15日12時30分	11月22日13時30分	12 東	手技練習	Vライン	有	4	0	4 看護師	

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名	
						使用者の内訳			計
						学内	学外		
11月16日16時00分	11月17日19時00分	医療安全推進部・麻酔科	心肺蘇生講習会	レサシアン5、チャージングチャージャー3、AED 5、ベビーアン5、リトルジュニア5、BVM成人用5・小児用5、ポケットマスク5、メトロノーム1、パソコン1、プロジェクター・スクリーン2、スピーカー1、BLSマット 5		10	8	医師	
11月19日12時00分	11月26日17時00分	12階東	手技練習	気道管理トレーナー、挿管セット、BVM	有	4	0	4	看護師
11月19日13時00分	11月19日17時00分	循環器内科	臨床実習	イチロー		6	0	6	医師
11月20日15時30分	11月20日16時30分	産婦人科	臨床実習	ソフィー		6	0	6	医師
11月20日18時00分	11月20日21時30分	6階東	急変対応練習	レサシアンSimPad、救急カート、除細動器、AED、点滴支柱棒	有	5	0	5	看護師
11月21日12時00分	11月29日16時00分	1・2階西	練習	レサシアンQ CPR、AED	有	6	0	6	看護師
11月21日12時00分	11月21日21時00分	産婦人科	セミナー	プロジェクター3、スクリーン3		5	10	15	医師
11月22日9時00分	11月26日17時00分	患者支援センター	ふれあい人権フェスタ	乳がん検診モデル2	有	3	0	3	職員
11月22日11時00分	11月22日17時00分	教育研究開発センター	医学概論講義	フィジコ、超音波検査機（エコー）、腹部超音波シミュレーター、ワイヤレス超音波プローブ		2	38	40	医師
11月22日17時00分	11月22日20時00分	わりんぎ	練習	Vライン2		10	0	10	学生
11月26日9時30分	11月26日12時00分	泌尿器科	臨床実習	ダヴィンチ		6	0	6	医師
11月26日9時00分	12月14日17時00分	NICU	練習	Vライン	有	5	0	5	看護師
11月26日9時00分	12月7日12時00分	7階東	練習	Vライン、模擬血液	有	5	0	5	看護師
11月26日13時00分	11月26日17時00分	循環器内科	臨床実習	イチロー		6	0	6	医師
11月26日9時00分	12月10日17時00分	9階東	練習	Vライン、模擬血液	有	10	0	10	看護師
11月26日17時30分	11月26日19時00分	6階東	急変対応練習	レサシアンSimPad、救急カート、生体モニター、AED、除細動器、点滴支柱棒		10	0	10	看護師
11月27日9時00分	11月27日11時00分	7階東	急変対応練習	レサシアンSimPad、救急カート、生体モニター「Qちゃん」1台 吸引モデルII型1台 気管チューレ1 吸引器2台		3	0	3	看護師
11月27日16時30分	11月16日19時30分	看護キャリア開発センター	技術練習	(尿道カテーテル) ナージングアン (4体：男2 女2) ストレッチャー4台 (経管栄養) さくら1体 ベッド1台 聴診器1本 支柱台1台 (筋肉注射) 上腕筋肉シミュレーター1台 模擬筋肉 針捨て容器2個 (黄色) "		15	0	15	看護師
11月29日11時00分	11月29日17時00分	教育研究開発センター	医学概論講義	気管挿管シミュレーター (すべて)、挿管セット4、救急カート		40	0	40	医師
11月29日9時00分	11月30日17時00分	救急	講義	AED16	有	20	0	20	医師
11月30日9時00分	12月3日12時00分	地域医療支援センター	平成30年度医師臨床研修医指導医講習会	ノートパソコン3、ホワイトボード5、 ナージングアン2、救急カート2、支柱台2、聴診器2、生体モニター、心電図、ワゴン2、ホワイトボード2、中央配管2	有	45	20	65	職員
11月30日15時00分	11月30日18時00分	看護キャリア開発センター	クリティカルケア研修			20	0	20	看護師
使用申請件数(11月)						46人	516人	130人	646人
使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名	
						使用者の内訳			計
						学内	学外		
12月1日9時00分	12月2日17時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター		2	0	2	医師
12月1日12時00分	12月1日19時00分	周産期医療センター	新生児蘇生法講習会	新生児蘇生人形4体、新生児気道管理トレーナー3、大型吸引器2台、携帯用小型吸引器2台、レサシアン、ワゴン4台、プロジェクター1台、スクリーン1セット		3	4	7	医師
12月3日13時00分	12月3日17時00分	循環器内科	臨床実習	イチロー		6	0	6	医師
12月3日9時00分	12月3日18時00分	看護キャリア開発センター	特定行為	なし		6	2	8	看護師
12月4日9時00分	12月4日18時00分	看護キャリア開発センター	特定行為	なし		10	2	12	看護師

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持 出	使用者数		主たる使用者の職名
						使用者の内訳	計	
						学内	学外	
12月5日16時30分	12月5日19時30分	看護キャリア開発センター	学習会	SimMan3G1体 (PC) ベッド1台 救急カート2台 DAMシミュレーター1 気道管理ト レーナー1 気管内挿管セット5 BVM3 ジャクソンリースバスバック1 流量計1 支柱台2台 支柱棒1本 床頭台1台 尿器1 ホワイトボード2 ワゴン3 机3 椅子10 CPS実習ユ ニット 輸液ポンプ1台 プロジェクター1台		8	0	8 看護師
12月5日16時30分	12月5日19時30分	看護キャリア開発センター	学集会	SimMan3G1体 (PC) ベッド1台 救急カート2台 DAMシミュレーター1 気道管理ト レーナー1 気管内挿管セット5 BVM3 ジャクソンリースバスバック1 流量計1 支柱台2台 支柱棒1本 床頭台1台 尿器1 ホワイトボード2 ワゴン3 机3 椅子10 CPS実習ユ ニット 輸液ポンプ1台 プロジェクター1台		8	0	8 看護師
12月6日11時00分	12月6日17時00分	医学概論講義				40	0	40 学生
12月7日10時00分	12月10日10時00分	教育研究開発センター 10階東	練習	吸引シミュレーター-Qちゃん	有	5	0	5 看護師
12月7日17時00分	12月28日17時00分	8階東	練習	Vライン、模擬血液	有	3	0	3 看護師
12月7日15時30分	12月7日16時30分	産婦人科	臨床実習	ソフイー		6	0	6 医師
12月7日16時30分	12月7日19時30分	看護キャリア開発センター	技術支援	(心臓マッサージ) レサシアンSimPad版3体 ベッド3台 BVM3 AED3 救急カート3台 足台3 (気管内挿管) DAMシミュレーター1台 エアウェイトレニングシステム1台 気道管理ト レーナー1台 気管内挿管セット3 BVM3 (皮下注射) 皮下注射シミュレーター1台 模擬皮内 針捨て容器2個 (黄色) ホワイトボード、椅子、テーブル さくら、ベッド、ホワイトボード2、救急カート、浮腫触診モデル		15	0	15 看護師
12月9日8時00分	12月9日18時00分	和歌山SLS研究会	第21回和歌山SLS (神経再生) コース開催			3	50	53 医師
12月11日11時00分	12月12日18時00分	看護キャリア開発センター 7階西	特定行為	Vライン、模擬血液	有	5	3	8 看護師
12月11日11時00分	12月28日17時00分	12階東	練習	Vライン、模擬血液	有	5	0	5 看護師
12月13日11時00分	12月28日12時00分	12階東	練習	Vライン、模擬血液	有	3	0	3 看護師
12月13日11時00分	12月13日17時00分	教育研究開発センター	医学概論講義	SimMan3G1体 (PC) 救急カート1台 レサシアンSimPad、		40	0	40 学生
12月14日11時00分	12月18日17時00分	6階西	練習	レサシアン、BVM		3	0	3 看護師
12月14日10時00分	12月28日10時00分	8階東	練習	Vライン、模擬血液	有	3	0	3 看護師
12月15日8時00分	12月15日17時00分	救急集中治療医学講座	一時心肺蘇生の普及	レサシアンQ CPR8体、AEDトレーナー8台、BLS訓練用マット16枚、ベビークン8体、チャョー キングチャリ-2体、スクリーン1セット、プロジェクター1台、TVモニター6台、HDMI分配 器、アルコール綿、BVM (成人用) 8個、BVM (小児用) 8個、小児用ポケットマスク8個、タ オル8枚、マイク・スピーカー1台		15	15	30 医師
12月17日11時00分	12月19日17時00分	6階西	練習	ソフイー		5	0	5 看護師
12月19日10時00分	12月25日17時00分	救急外来	練習	Vライン、模擬血液	有	5	0	5 看護師
12月20日11時00分	12月20日17時00分	教育研究開発センター	医学概論講義	SimMan、レサシアン、救急カート、		40	0	40 学生
12月20日17時00分	12月20日20時00分	わりんぎ	わりんぎ活動	シンジョー-2、聴診器2、採血物品		10	0	10 学生
12月21日15時30分	12月21日16時30分	産婦人科	臨床実習	ソフイー		6	0	6 医師
12月25日16時30分	12月25日19時30分	看護キャリア開発センター	学集会	SimMan3G1体 (PC) ベッド1台 救急カート2台 DAMシミュレーター1 気道管理ト レーナー1 気管内挿管セット5 BVM3 ジャクソンリースバスバック1 流量計1 支柱台2台 支柱棒1本 床頭台1台 尿器1 ホワイトボード2 ワゴン3 机3 椅子10 CPS実習ユ ニット 輸液ポンプ1台 プロジェクター1台		8	0	8 看護師
12月27日12時00分	1月7日14時00分	12階西	練習	レサシアン、AED、挿管セット	有	4	0	4 看護師
					使用申請件数(12月)	267人	76人	343人

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
						学内	学外	
1月6日7時00分	1月6日19時30分	PhDLS	PhDLS研修会	なし		20	50	70 薬剤師
1月7日10時00分	1月11日14時00分	CCU	練習	レサシアンSimPad	有	5	0	5 看護師
1月7日9時00分	1月11日18時00分	看護キャリア開発センター	特定行為	さくら	有	3	0	3 看護師
1月8日17時00分	1月8日19時30分	看護キャリア開発センター	学集会	プロジェクター1台 スクリーン1台 CPS実習ユニット ワゴン2台 椅子12脚		8	0	8 看護師
1月8日10時00分	1月11日10時00分	6 階東	練習	レサシアンSimPad、挿管セット	有	5	0	5 看護師
1月9日9時00分	1月9日18時30分	看護キャリア開発センター	特定行為	なし		5	2	7 看護師
1月10日17時00分	1月10日18時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シュミレーター		3	0	3 医師
1月10日10時00分	1月24日18時00分	4年生	OSCE練習	採血、縫合セット、ガウン・滅菌手袋、AED、血圧計、フィジコ、		30	0	30 学生
1月10日11時00分	1月10日17時00分	教育研究開発センター	医学概論講義	聴診器、イチロー、ラング、血圧測定シュミレーター、レサシアン、挿管セット、救急カート		40	0	40 学生
1月11日10時00分	1月31日17時00分	6階東	練習	レサシアン、挿管セット	有	5	0	5 看護師
1月11日10時00分	1月28日10時00分	地域医療支援センター	5 G	マーグンジュミレーター		3	0	3 職員
1月11日18時00分	1月14日19時00分	救急集中治療医学講座	救急集中治療医学講座	除細動器2、レサシアンQ CPR4、AED4、支柱台2、テレビモニター	有	10	10	20 医師
1月14日7時00分	1月14日19時30分	PhDLS	PhDLS研修会	なし		20	50	70 薬剤師
1月15日16時30分	1月16日19時30分	看護キャリア開発センター	看護技術習得支援	ベッド3台、プレイマット1枚、SAKURA1体、ベビーアーン2体、BVM（小児用）2、AED 3、気道管理トレーナー、エアウェイトレーニングシステム、DAMシュミレーター、レサシアンSimPad版3体、挿管セット（成人用）2、BVM（成人用）6、救急カート3		15	0	15 看護師
1月18日16時30分	1月18日19時30分	看護キャリア開発センター	看護技術習得支援	ベッド3台、プレイマット1枚、SAKURA1体、ベビーアーン2体、BVM（小児用）2、AED 3、気道管理トレーナー、エアウェイトレーニングシステム、DAMシュミレーター、レサシアンSimPad版3体、挿管セット（成人用）2、BVM（成人用）6、救急カート3		15	0	15 看護師
1月18日9時00分	1月21日17時00分	血液内科	練習	ハートシム	有	10	10	20 医師
1月18日15時30分	1月18日16時30分	産婦人科	臨床実習	ソフィー		6	0	6 医師
1月18日16時00分	1月18日19時00分	7階東	練習	レサシアン、救急カート	有	5	0	5 看護師
1月21日9時30分	1月21日12時30分	泌尿器科	臨床実習	ダヴィンチ		6	0	6 医師
1月22日17時00分	1月22日19時30分	看護キャリア開発センター	学集会	プロジェクター1台 スクリーン1台 CPS実習ユニット ワゴン2台 椅子12脚		8	0	8 看護師
1月22日14時30分	1月22日17時00分	循環器内科	臨床実習	イチロー		6	0	6 医師
1月23日12時00分	1月23日17時00分	4年生	OSCE再試験	採血物品		6	0	6 学生
1月25日10時00分	2月1日10時00分	7階西	練習	Vライン、模擬血液	有	4	0	4 看護師
1月28日9時30分	1月28日10時00分	国際交流センター	韓国入学生見学	シンジュー、レサシアンSimPad、縫合セット、手洗いシュミレーター		4	6	10 看護師
1月28日14時00分	1月30日18時00分	看護キャリア開発センター	フィジカルアセスメントII研修	SimMan 3 G1体（ベッドに臥床させてください）、救急カート1台、生体情報モニター1台、輸液ポンプ1台、シリンジポンプ1台、点滴支柱台3本、スクリーン1台、プロジェクター1台、酸素流量計（1）、ワゴン2台、折量式ワゴン（1）3穴延長コード（1）、ホワイトボード（2）除細動器（1）、人工呼吸器（1）、GPS実習ユニット、心電計（1）、挿管セット（1）衛立（2）床頭台（1）		90	0	90 看護師
1月31日0時00分	1月31日23時59分	看護キャリア開発センター	特定行為	レサシアンSimPad2、SimMas3G、水銀レス血圧計、フィジコ、イチロー、ラング、舌圧子10		18	12	30 看護師

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用者数		主たる使用者の職名
						学内	学外	
2月1日0時00分	2月1日12時00分	看護キャリア開発センター	特定行為	レサシアンSimPad2、ベッド2、プロジェクター、スクリーン		18	13	31 看護師
2月1日17時00分	2月3日19時00分	医療安全推進部・麻酔科	BLS講習会	レサシアンQ CPR5、リトルジュニア5、ベビーアーン6、チャッキングチャリヤー3、BVM5、AED5、BVM小児用5、ポケットマスク小児用5、メトロノーム1、マイク&スピーカー、プロジェクター、スクリーン2、	有	5	15	20 医師

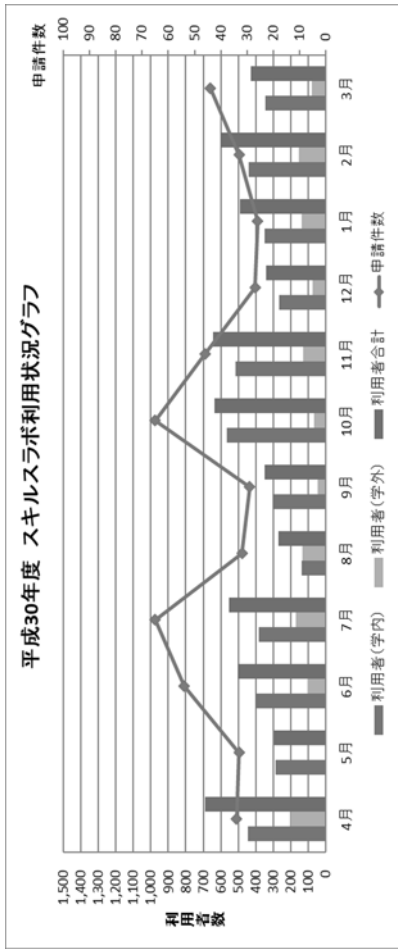
使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持出	使用着数		主たる使用者の職名	
						使用者の内訳	計		
						学内	学外		
2月11日12時00分	2月2日19時00分	和医大MECC	ICLS講習会	レサシアン(半身タイプ)10、バッグバルブマスク(成人用)10、救急カート3、レサシアンシミュレータ SimPad版3、除細動器3、AEDトレーナー(レールダル)11、ハートシム(人形&ノートパソコン)1、気道管理トレーナー1、DAMシミュレーター1、エアウェイトレーニングシステム2、長テーパー(キヤスター無)14、長テーパー(キヤスター有)11、キヤスター付き丸椅子60、キヤスター無し丸椅子40、ホワイトボード5、プロジェクター1、スクリーン1、テレモニター3、診察台5、ストレッチャー4、点滴用支柱3、点滴棒3、BLS訓練用マット20、ワゴン5	有	30	10	40	医師
2月4日0時00分	2月6日17時00分	三葛 学生課	医学部1年生 地域福祉体験実習	車いす7、老人体験スーツ8	有	110	0	110	学生
2月4日9時00分	2月4日12時00分	泌尿器科	臨床実習	ダヴィンチ		6	0	6	学生
2月4日0時00分	2月5日23時59分	看護キャリア開発センター	特定行為	レサシアンSimPad2、SimMas3G		0	11	11	看護師
2月5日10時00分	2月5日17時00分	医事課	シュミレーション	レサシアンSimPad、生体モニター、ホワイトボード2、輸液ポンプ、支柱台1、人工呼吸器		30	0	30	看護師
2月7日11時30分	2月7日17時00分	12階東	練習	吸引モジュールII型	有	5	0	5	看護師
2月8日16時00分	2月7日17時00分	6階西	練習	ソファイ		7	0	7	看護師
2月8日0時00分	2月10日18時00分	学生課	入試控室	なし		20	0	20	職員
2月8日17時00分	2月12日17時00分	救急集中治療医学講座	一時心肺蘇生普及	レサシアンQ CPR4、AED4、ベビーアン4、チャョーキングチャャーリー2	有	8	7	15	医師
2月11日12時00分	2月11日19時00分	NICU	新生児蘇生法コース	新生児蘇生人形4体、新生児気道管理トレーナー3、大型吸引器2台、携帯用小型吸引器2台、レサシフロア、ワゴン4台、プロジェクター1台、スクリーン1セット		12	0	12	医師
2月12日14時00分	2月12日16時00分	循環器内科	臨床実習	イチロー		6	0	6	学生
2月12日17時00分	2月12日19時30分	看護キャリア開発センター	学集会	プロジェクター1台 スクリーン1台 CPS実習ユニット ワゴン2台 椅子12脚		8	0	8	看護師
2月13日17時00分	2月13日19時30分	看護キャリア開発センター	学集会	プロジェクター1台 スクリーン1台 CPS実習ユニット ワゴン2台 椅子12脚		8	0	8	看護師
2月14日12時00分	2月27日17時00分	12階東	練習	Vライン、模擬血液	有	5	0	5	看護師
2月15日16時00分	2月18日10時00分	6年生	学習会	ホワイトボード		5	0	5	学生
2月15日10時00分	2月28日17時00分	11階西	練習	Vライン、模擬血液	有	3	0	3	看護師
2月16日14時00分	2月16日18時00分	血液内科	2018年度紀杏会総会	プロジェクター、マイク、スクリーン	有	30	5	35	医師
2月16日18時00分	2月17日19時00分	救急集中治療医学講座	災害医療教育	レサシアンQ CPR9、AED9、BLS9、リトルジュニア5、ベビーアン5、チャョーキングチャャーリー5、スクリーン、プロジェクター、TVモニター7、HDMIケーブル8、HDMI分配器、アル線、BVM成人9・小児5、小児用ポケットマスク5、タオル5、マイク・スピーカー1、ホワイトボード6、ハートシム1、レサシアン3、除細動器2、支柱台2		30	30	60	医師
2月18日10時00分	2月22日14時00分	10階西	練習	シンジョー・模擬血液	有	5	0	5	看護師
2月18日9時00分	2月18日12時00分	循環器内科	臨床実習	イチロー		6	0	6	医師
2月18日17時30分	2月18日22時00分	HCU	練習	レサシアンSimPad2、救急カート、除細動器、AED		5	0	5	看護師
2月19日16時00分	2月19日16時30分	卒後臨床研修センター	練習	CVC穿刺シミュレーター		1	0	1	医師
2月19日17時30分	2月19日22時00分	HCU	練習	レサシアンSimPad2、救急カート、除細動器、AED		5	0	5	看護師
2月21日13時00分	2月21日16時00分	第二内科	練習	内視鏡シミュレーターアキュタッチ		1	0	1	医師
2月21日9時00分	2月28日17時00分	CCU	練習	シンジョー、模擬血液	有	4	0	4	看護師
2月21日12時00分	2月25日12時00分	血液内科	ICLS講習会	気道管理トレーナー	有	1	29	30	医師
2月22日10時00分	3月1日17時00分	救急集中治療医学講座	二次心肺蘇生普及	レサシアンQ CPR2、レサシアンSimPad2、PC3	有	35	35	70	医師
2月22日0時00分	2月26日18時00分	学生課	入試控室	なし		20	0	20	職員
2月25日10時00分	2月26日17時00分	HCU	練習	レサシアン、AED		5	0	5	看護師
2月27日9時00分	3月15日16時30分	10階東	練習	Vライン、模擬血液	有	4	0	4	看護師
2月28日17時30分	2月28日22時00分	HCU	練習	レサシアンSimPad、救急カート、AED、除細動機		5	0	5	看護師
使用申請件数(2月)						33件	443人	155人	598人

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	持 出	使用者数 使用者の内訳	計	主たる使用者の職名
3月1日9時30分	3月19日9時30分	7階西	練習	有	4	4	看護師
3月1日10時30分	3月17日17時00分	11階東	練習		10	0	看護師
3月1日15時30分	3月1日16時30分	産婦人科	臨床実習	有	7	0	医師
3月1日16時00分	3月1日21時00分	一外	wet lab		20	4	医師
3月2日9時00分	3月2日17時00分	卒後臨床研修センター	練習		3	0	医師
3月3日7時00分	3月3日19時00分	血液内科	ICLS講習会		12	0	医師
3月4日10時00分	3月4日12時00分	HCU	練習	有	2	0	看護師
3月4日13時00分	3月4日16時00分	循環器内科	臨床実習		6	0	医師
3月5日15時00分	3月5日18時30分	総務課	BLS講習会		45	0	医師
3月6日9時00分	3月11日17時00分	血液内科	講習会		5	0	医師
3月6日10時00分	3月13日17時00分	NICU	練習	有	3	0	看護師
3月7日17時00分	3月7日21時00分	BONDS	練習		3	0	看護師
3月7日9時00分	3月8日17時00分	救急	CVC穿刺シミュレーター、エアウェイトレーニングシステム		5	0	医師
3月8日10時00分	3月11日17時00分	救急	AED、レサシアン	有	5	0	医師
3月8日16時00分	3月10日17時00分	経理課	ホワイトボード3	有	5	0	職員
3月8日17時00分	3月10日18時00分	救急集中治療医学講座	2次心肺蘇生普及		14	6	医師
3月11日17時00分	3月11日21時00分	BONDS	練習		3	0	看護師
3月12日12時00分	3月12日12時00分	小児外来	ベビーア	有	2	0	看護師
3月12日9時00分	3月12日12時00分	第二内科	内視鏡シミュレーター		5	0	医師
3月12日12時00分	3月13日12時00分	9階西	練習		2	0	看護師
3月12日15時00分	3月12日18時30分	総務課	レサシアン6、AED 6、マット6、プロジェクター、マイク・スピーカー		45	0	職員
3月13日9時00分	3月14日17時00分	救急集中治療医学講座	AED17、レサシアン	有	17	0	医師
3月13日15時30分	3月13日16時30分	卒後臨床研修センター	練習		1	0	医師
3月14日12時00分	3月14日17時00分	6階西	内視鏡シミュレーター		3	0	看護師
3月15日15時30分	3月15日16時30分	産婦人科	ソフィー		7	0	医師
3月15日9時45分	3月15日11時00分	卒後臨床研修センター	練習		1	0	医師
3月15日17時00分	3月17日19時00分	医療安全推進部・麻酔科	心肺蘇生普及	有	6	6	医師
3月16日12時00分	3月16日19時00分	周産期医療センター	新生児蘇生法		1	6	医師

使用開始日時	使用終了日時	使用団体名	使用の目的	使用物品	持 出	使用者数		計	主たる使用 者の職名
						使用者の内訳	学外		
3月17日0時00分	3月17日18時00分	周産期医療センター	周産期医療支援講座	レサシアンSimPad2、除細動器、救急カート、AED4、レサシアンQCPRA、マット4、ホワイトボード3、プロジェクター・スクリーン1、点滴支柱棒3、支柱台3、毛布3		10	10	20	医師
3月18日9時00分	3月18日12時00分	泌尿器科	臨床実習	デザインチ		7	0	7	医師
3月18日13時00分	3月18日17時00分	循環器内科	臨床実習	イチロー		7	0	7	医師
3月19日17時00分	4月1日17時00分	8階東	練習	Vライン、模擬血液	有	5	0	5	看護師
3月19日10時00分	3月19日10時00分	11階西	練習	Vライン、模擬血液	有	1	0	1	看護師
3月19日10時30分	3月19日11時30分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シュミレーター		1	0	1	医師
3月21日7時00分	3月21日19時30分	PhDLS	PhDLS研修会	なし		20	50	70	薬剤師
3月22日18時00分	3月22日19時00分	5階西	練習	救急カート、BVM、挿管セット		5	0	5	看護師
3月22日10時00分	3月29日17時00分	ICU	練習	Vライン、模擬血液、ホワイトボード	有	5	0	5	看護師
3月26日9時00分	3月27日17時00分	地域医療支援センター	会議	マイク・スピーカー2	有	10	0	10	職員
3月26日15時30分	3月26日17時30分	循環器内科	臨床実習	イチロー		7	0	7	医師
3月26日14時00分	3月26日15時00分	産婦人科	臨床実習	ソフィー		6	0	6	医師
3月26日18時00分	3月26日22時00分	BONDS	練習	レサシアンSimPad、除細動器、救急カート、AED		5	0	5	看護師
3月27日16時30分	3月27日17時00分	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シュミレーター		1	0	1	医師
3月28日14時00分	3月28日16時00分	医事課	研修	ホワイトボード4	有	10	0	10	職員
3月28日18時00分	3月28日22時00分	BONDS	練習	レサシアンSimPad、除細動器、救急カート、AED		5	0	5	看護師

使用申請件数(3月) 44件 347人 82人 429人
 使用申請件数(累計) 507件 4447人 1313人 5760人

	申請件数	利用者(学内)	利用者(学外)	利用者合計
4月	34件	444人	199人	688人
5月	33件	288人	7人人	295人
6月	54件	400人	105人	505人
7月	65件	384人	170人	554人
8月	32件	137人	135人	272人
9月	29件	306人	45人	351人
10月	65件	565人	69人	634人
11月	46件	516人	130人	646人
12月	27件	267人	76人	343人
1月	26件	350人	140人	490人
2月	33件	443人	155人	598人
3月	44件	347人	82人	429人
年間合計	488件	4447人	1313人	5760人



わりんぎ（和医大臨床技能サークル）の活動

平成 22 年度に教育研究開発センターと学生 BLS サークル合同で、1 年生から 4 年生までを対象にシミュレーターを用いた臨床技能教育を行うサークルを開設しました。放課後にスキルスラボにて勉強会を行いました。

主に放課後にスキルスラボにて開講しています。最初に講義を聞いた後、シミュレーターや血圧計などを使用し、実際に手技を行います。

平成 30 年度活動記録

開講日時	内容
4 月 26 日（木）	心電図と心音
5 月 24 日（木）	BLS 講習
6 月 28 日（木）	血圧や脈拍などバイタルサインのとり方
10 月 11 日（水）	紀葉祭 BLS 講習の練習
10 月 27 日（土）	紀葉祭 1 日目
11 月 22 日（木）	静注留置針を使用した末梢静脈路確保手技



ホームページについて

教育研究開発センターでは下記のホームページの運営、管理を行っています。

- 教育研究開発センターホームページ
- 臨床技能研修センターホームページ

教育研究開発センター ホームページ

- 教育研究開発センタートップページ
 - ◆ 教育研究開発センター概要
 - ◆ 教育研究開発センター規程
 - ◆ 組織図
 - ◆ 運営委員会委員
 - ◆ 運営委員会規程
 - ◆ 部会・委員会
 - ◆ 教育評価部会
 - ◆ 入試制度検討部会
 - ◆ カリキュラム専門部会
 - ◆ 臨床技能教育部会
 - ◆ FD 部会
 - ◆ 和歌山 SP の会
 - ◆ 自己評価委員会
 - ◆ 活動報告
 - ◆ 規程
 - ◆ 自己評価書
 - ◆ その他の事項
 - ◆ 掲示板
 - ◆ 投書箱
 - ◆ リンク



臨床技能研修センター ホームページ

- 臨床技能研修センタートップページ
 - ◆ 臨床技能研修センターの紹介
 - ◆ アクセス
 - ◆ 施設案内
 - ◆ 設置及び管理・運営規程
 - ◆ シミュレーター教育の取組
 - ◆ 利用状況
 - ◆ シミュレーター教育についてのページ
 - ◆ シミュレーター教育の内容
 - ◆ シミュレーター一覧表
 - ◆ 臨床手技の解説
 - ◆ 臨床技能研修センターの利用予約
 - ◆ 利用予約日程表
 - ◆ 利用予約フォーム
 - ◆ 臨床手技の解説
 - ◆ わりんぎの活動



令和元年 12 月 発行

和歌山県立医科大学 教育研究開発センター

〒641-8509

和歌山市紀三井寺 811 番地 1

電 話 : 073-441-0813(0815)

F A X : 073-441-0814

ホームページ <http://www.wakayama-med.ac.jp/med/develop/index.html>

e - m a i l cerd@wakayama-med.ac.jp



Center for **E**ducational **R**esearch and **D**evelopment